

福井県の住教育活動

～中間とりまとめ～



平成27年3月

福井県

目次

■ 1	はじめに	1
■ 2	福井県の住まいの特徴	2
■ 3	住教育モデル地区での取組実績	5
●	福井市日新地区 [郊外]	
	取組 1 大学生による設計コンペ作品発表会	6
	取組 2 昔の住まい方の良さを考える～日新地区と今庄宿の交流～	8
●	敦賀市舟溜り地区 [歴史的まち並み]	
	取組 1 舟溜り地区の歴史やまちづくり、住まいに関する出前授業	10
	取組 2 身近なまち並みづくり～暖簾によるまち並み演出～	12
●	小浜市遠敷地区 [歴史的まち並み]	
	取組 1 歴史的まち並みを演出する一輪挿しづくり	18
●	大野市大野地区 [まちなか]	
	取組 1 大学生による「空き地や空き家を活用した まちづくりデザイン」提案発表会	20
	取組 2 木の授業	22
●	勝山市片瀬地区 [郊外]	
	取組 1 竹プランターづくり	24
	取組 2 家紋入りすだれづくり	26
●	鯖江市吉江地区 [歴史的まち並み]	
	取組 1 歴史的まち並みを演出する行灯づくり	28
	取組 2 歴史的まち並みを演出する一輪挿しづくり	30
●	あわら市新富地区 [まちなか]	
	取組 1 一輪挿しでおもてなしの景観づくり	32
●	越前市タンス町界隈 [歴史的まち並み]	
	取組 1 まちづくり講演会+街並み見学会 in 武生 2011	34
	取組 2 越前市のまちなかをブラ武生!	36
●	坂井市東十郷地区 [農山漁村]	
	取組 1 上新庄の宝物を探す旅に出よう	38
	取組 2 見つけよう! 上新庄の残したい風景	40

●永平寺町京善地区〔農山漁村〕	
取組1 越前瓦の家紋表札づくり	42
●池田町稻荷地区〔農山漁村〕	
取組1 茅葺き見学&茅葺き体験	44
取組2 堀口家住宅保存修理現場見学会	47
●南越前町今庄宿〔歴史的まち並み〕	
取組1 小学生による「わたしたちの町並み」写生大会	48
取組2 歴史的まち並みを演出する行灯づくり	49
取組3 大学生による地域資源を生かしたデザイン提案発表会	50
●越前町江波地区〔農山漁村〕	
取組1 越前瓦の家紋表札づくり	52
●美浜町佐柿地区〔歴史的まち並み〕	
取組1 歴史的まち並みを演出する行灯づくり	54
●高浜町高浜地区〔まちなか〕	
取組1 自然素材の壁塗り体験	56
●おおい町名田庄地区〔農山漁村〕	
取組1 茅葺きの秘密基地をつくろう～茅刈り体験～	58
取組2 茅葺きの秘密基地をつくろう～茅葺き体験～	60
●若狭町天徳寺地区〔郊外〕	
取組1 家紋入りすだれづくり	62
■4 宮大工による体験講座	64
■5 住教育シンポジウム	68
■6 次の世代へ	70
(参考資料) 参加募集チラシ、マニュアル、配布資料	87

1 はじめに

福井県は、子どもの学力・体力日本一、高齢者の元気生活率日本一、有効求人倍率の高さや失業率の低さなど、全国有数の暮らしやすい基盤があり、幸福度の高い県として評価を受けています。

本県の住環境は、三世帯同居率（全国第2位）が高く、持ち家率（全国第3位）や一戸当たりの床面積（全国第2位）が全国トップクラスの水準にあります。三世帯同居や近居が家族のつながりや絆を強くし、福井の充実した子育て環境や優れた教育、高齢者の元気を支える大きな力となっています。今後の人口減少社会においては、こうした家族のつながりを重視した施策の実施が重要です。

また、本県の住まいの特徴のひとつとして、県内には、漆喰の白壁が美しい越前瓦の民家と蔵や、格子窓が連なる町家など、地域の風土、文化を反映した伝統的民家が各地に存在しております。これら伝統的民家は、地域の個性を織り成す貴重な財産として、次世代に守り伝えていかなければなりません。

このため、平成24年3月に「福井県住宅・宅地マスタープラン」を策定し、県民一人ひとりが、住まいやまちづくりに関心を持ち、理解を深め、身近に出来ることから実践につなげていく「住教育」活動を重点施策の一つに位置付けました。

それぞれの地域で暮らす人たちが自分たちの住んでいる地域の良さに気付き、誇りと愛着を持ち、次の世代に住環境（住まい、まち並み、住まい方）をより良い形で継承してもらうため、宮大工による木づくり体験講座、古民家を活用した「住まい方」を学ぶ体験学習、越前瓦等の地域産材を活用したまち並みづくりなど、県内17市町において様々な「住教育」活動に取り組んできました。

福井の優れた基盤や生活の質の高さを活かし、地方の活力を高めるためには、先人が守り育ててきた福井の優れた景観や豊かな環境を次世代に引き継ぎ、新しい時代にふさわしい地域づくりを進めていかなければなりません。

今回とりまとめた活動実績が、皆様一人ひとりの住まいやまちづくりに対する関心を高め、福井の優れた景観や豊かな住環境を次の世代に残していく活動につながることを期待しております。

県としては、県民一人ひとりが将来に夢と希望をもって活躍できるよう今後とも応援していきます。



福井県土木部
技幹 井上 邦夫

2 福井県の住まいの特徴

●高い三世同居率

三世同居とは、直系世代のうち三つ以上の世帯が同居していることで、四世代以上が住んでいる場合も含まれます。三世同居数の一般世帯数に対する割合を示したのが三世同居率です。三世同居率の高さは、充実した子育て環境や優れた教育、高齢者の元気を支える大きな力となっています。

順位	都道府県名	三世同居率
1位	山形県	21.49%
2位	福井県	17.54%
3位	秋田県	16.44%
4位	新潟県	16.36%
5位	富山県	16.13%
全国平均		7.06%

(出典：平成22年「国勢調査」)

●高い持ち家住宅率

持ち家住宅とは、そこに居住している世帯が全部または一部を所有している住宅のことです。持ち家数の居住世帯有住宅数に対する割合を示したのが持ち家住宅率です。福井県では住宅を所有している人が多いといえます。

順位	都道府県名	持ち家住宅率
1位	秋田県	78.4%
2位	富山県	77.5%
3位	福井県	77.4%
4位	山形県	75.5%
5位	新潟県	73.9%
全国平均		61.1%

(出典：平成20年「住宅・土地統計調査」)

●大きい持ち家住宅の延べ面積

延べ面積とは床面積の合計のことで、居住室面積のほか、その住宅に含まれる玄関、廊下、農家の土間などや、店、事務室など営業用に使用している部分の面積も含まれます。福井県の住宅は全国と比べて大きいといえます。

順位	都道府県名	1住宅当たり延べ面積
1位	富山県	179.30㎡
2位	福井県	172.61㎡
3位	山形県	165.61㎡
4位	石川県	163.42㎡
5位	秋田県	162.82㎡
全国平均		122.63㎡

(出典：平成20年「住宅・土地統計調査」)

●住みよさランキング

「住みよさランキング」は、公的統計をもとに、全国791都市（全国790市と東京区部全体）を対象にそれぞれの市が持つ“都市力”を、「安心度」「利便度」「快適度」「裕福度」「住居水準充実度」の5つの観点に分類し、採用15指標について、それぞれ平均値を50とする偏差値を算出、その単純平均を総合評価としてランキングしたものです。上位50位以内に県内の全9市中5市がランクインしています。

順位	市名	総合評価偏差値
1位	印西市（千葉県）	61.12
2位	坂井市（福井県）	57.92
3位	野々市市（石川県）	57.88
6位	鯖江市（福井県）	57.37
12位	福井市（福井県）	56.56
23位	敦賀市（福井県）	55.70
32位	越前市（福井県）	54.85

（出典：東洋経済新報社2014年版「住みよさランキング」）

●ふくいの伝統的民家

福井県内には、地域特有の形態や外観を有する伝統的民家や街並みが存在し、地域性や独自性に富んだ景観が形成されています。県では「福井県伝統的民家の保存および活用の推進に関する条例」を制定し、伝統的民家の改修等に対する補助や所有者等への情報提供などを通じて保存・活用を図っています。

なお、福井の伝統的民家の認定基準は、次のとおりです。

- ①在来工法（伝統的技術に配慮したもの）による木造2階建（小屋裏3階含む）
- ②外観は、1945年以前の地域の伝統的民家の意匠を基調としたもの

— 典型的な農家型の例 —



〈屋根〉切妻屋根・瓦葺き（嶺北は越前瓦葺き）

※主屋根が入母屋のものは認定対象外

〈妻壁〉東（柱）と貫（梁）の格子組および漆喰塗り様

小屋梁から下は漆喰塗り様または木製板張り

〈下屋〉妻壁前面に瓦葺きの下屋

〈玄関〉地域の伝統的意匠を基調としたもの

— 典型的な町家型の例 —



〈屋根〉切妻屋根・瓦葺き（嶺北は越前瓦葺き）

〈外壁、軒裏〉地域の伝統的意匠を基調としたもの

通庇を設けたもの

〈開口部〉格子戸等町家の伝統的意匠を基調としたもの

軒高、軒出、庇の高さ、壁面線を街並みに揃えたもの

●伝統的民家群保存活用推進地区

伝統的民家や蔵などが形成する福井らしい集落や街並み景観を「面」で保全していくため、伝統的民家が集積する地区を市町の申請に基づき伝統的民家群保存活用推進地区に指定し、地区内で行う集落や街並み景観の保全・活用の取組みに対して重点的に支援しています。平成26年度末までに24地区が指定されています。

なお、伝統的民家群保存活用推進地区指定の要件は、次のとおりです。

- ①伝統的民家が10戸以上の集落、自治会等
- ②伝統的民家を保全する意向があり、集落や街並みを活かした活動をする地区



勝山市平泉寺地区



北国街道今庄宿地区

●重要伝統的建造物群保存地区

市町村が決定した伝統的建造物群保存地区を形成している区域のうち、市町村が国に対して申し出て、我が国にとって価値が高いと判断したものを重要伝統的建造物群保存地区に選定します。福井県内では、若狭町の熊川宿（平成8年7月9日指定）と、小浜市の小浜西組（平成20年6月9日指定）の2か所が指定されています。

なお、選定基準は次のどれかに該当するものです。

- ①伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの
- ②伝統的建造物群および地割がよく旧態を保持しているもの
- ③伝統的建造物群およびその周辺の環境が地域的特色を顕著に示しているもの



若狭町熊川宿



小浜市小浜西組

3 住教育モデル地区での取組実績

福井県内全17市町において、1地区をモデル地区に指定して住教育ワークショップを行いました。各モデル地区は、各市町や地元団体等と協議して選定しました。

なお、各モデル地区を大きく分類分けすると次の4つになります。それぞれの類型と地区のテーマおよびモデル地区について簡単に説明します。

まちなかエリア	
テーマ	空き家・空き地の活用、観光客へのおもてなし景観づくり
モデル地区	大野市大野地区、あわら市新富地区、高浜町高浜地区

郊外エリア	
テーマ	まち並みの統一、住まい方の学習
モデル地区	福井市日新地区、勝山市片瀬地区、若狭町天徳寺地区

農山漁村エリア	
テーマ	里山風景の保全
モデル地区	坂井市東十郷地区、永平寺町京善地区、池田町稻荷地区、越前町江波地区、おおい町名田庄地区

歴史的まち並みエリア	
テーマ	伝統的民家や歴史的まち並みの保全
モデル地区	敦賀市舟溜り地区、小浜市遠敷地区、鯖江市吉江地区、越前市タンス町界限、南越前町今庄宿、美浜町佐柿地区

なお、次頁以降の取組内容に記載の団体名等は、実施当時の名称です。

福井市 日新地区

郊外エリア



地区の特徴

福井市中心部から4 kmほど離れた場所に位置し、戦後宅地化がスプロールの進行した地域である。ごく普通の一般的な住宅地であり、多種多様な住宅が建ち並んでいる。

目指す方向性

家族のつながりや昔の暮らし方を住民自ら考えることで、より良い住まい方を実践するようにする。

～取組内容1～

大学生による設計コンペ作品発表会

実施日時	平成23年11月12日(土) 13時00分～15時00分
実施場所	日新公民館
対象者	日新地区の住民
主催	福井県
協力	福井工業大学(建築学科、デザイン学科)、日新公民館
ねらい	学生が中間領域についての提案を住民にすることで、家族とのつながり、地域とのつながりなど、これからの住まい方について考えてもらうきっかけにしよう。
テーマ	魅力ある内外の境界領域のある家
プログラム	1. 学生による設計コンペ作品発表 2. 質疑応答
準備物	プロジェクター、スクリーン 等

様子



日新地区で残していくべき住環境を考える参考とするため、住民の方々は学生の提案にじっくりと耳を傾けていた。

様子



適宜、福井工業大学の担当教官である五十嵐啓准教授から講評をいただきながら、学生と住民の方々とで意見交換を行った。



提案作品の一部

新聞記事

次代に残す 住環境提案

地域の特性に応じた住環境や町並みなどの資産を次代に継承しようと、県は本年度から住教育推進事業をスタートさせた。二〇一四年度までに全市町でモデル地区を指定して、住民の意識を高める計画。十二日は福井市のモデル地区となった日新地区で、福井工大建築学科の学生による設計コンペがあり、近所の人たちが立ち寄りやすいように工夫した家のデザインなどが紹介された。(山本洋児)

本年度のモデル地区は、日新地区とタンス町界隈(越前市)、舟溜り地区(敦賀市)、旅籠地区(南越前町)の四カ所。各地区ごとにテーマを設定しており、日新地区は「地域のつながり」。この日は、福井市文京五丁目福井工大建築学科の学生井上美郷さん(二四)案。通りかかった人がれる憩いの場所となる日新公民館で、地区生九人による設計コンペに伸ばすことを提し、四季などを感じら河合美里さん(二二)えた。

福井市日新地区 「地域のつながり」工夫 福工大生設計コンペ

参加した住民らは、提案にじっくりと耳を傾け、地区内で新たに創出し、残していくべき住環境を考える参考になっていた。

この事業では、各地区ごとにそれぞれのテーマに沿った取り組みが進められ、県が二年間にわたって支援。その後の自主的な活動につながることを目指している。

同二は、床と壁、天井の素材や高低などを変えて、六十通りの組み合わせを示し、魅力的な空間づくりには壁の配置と高さが重要であると結論づけた。

その上で、庭を室内の延長と見立てて遊ぶ▽▽寝る▽食べる▽のに適した空間をイメージして、高低差をそのまま、壁を部分的に配置。完全には仕切らず、動きやすさにも配慮した。

学生(手前左)の発表に耳を傾ける地域住民ら=12日、福井市文京5丁目の日新公民館で

平成23年11月13日付け 日刊県民福井

※掲載の記事は、日刊県民福井の許諾を得て転載しています。

～取組内容2～

昔の住まい方の良さを考える ～日新地区と今庄宿の交流～

実施日時	平成24年8月9日（木） 12時20分～15時00分	
実施場所	南越前町今庄	
対象者	日新地区の住民 参加者23名	
主催	福井県	
共催	青少年育成福井市民会議 日新支部	
協力	NPO法人今庄旅籠塾、南越前町今庄観光ボランティアガイド協会 福井大学教育地域科学部附属地域共生プロジェクトセンター	
ねらい	日新地区と今庄宿の交流を兼ねて、昔ながらのまち並みが残る南越前町今庄のまち並みや住まいを見学して体験することで、昔の住まい方の良さを考える。	
プログラム	1. 南越前町今庄の歴史や建物について 2. 福井市日新地区と南越前町今庄宿との違いについて 3. 今の暮らしと昔の暮らしの比較	
準備物	模造紙、ポストイット、マジック、筆記用具、メモ用紙 等	
様子		<p>ボランティアガイドに、今庄宿に残る江戸期～昭和初期頃に建てられた建物を案内してもらった。参加者はそれぞれの建物の特徴をメモに取って臨んだ。</p> <p>[見学建物] 明治殿、脇本陣、京藤甚五郎家、昭和会館、旧旅籠若狭屋 など</p>
		<p>見学建物の一つ、京藤甚五郎家の内部もボランティアガイドに案内してもらった。ワークショップ当日は厚い日だったが、京藤甚五郎家の内部は涼しかった。</p>
		<p>NPO法人今庄旅籠塾の事務局長から、同法人が取り組んでいる活動や今庄の現状などについて説明してもらった。日新地区と今庄宿の違いを比較するスライドで説明したり、今庄宿のクイズを出題したりして、今庄の歴史や自分たちの住む地域との違いを学んだ。</p>

様子



実際に見学した建物やボランティアガイド・NPO法人今庄旅籠塾の方からの話をもとに「京藤甚五郎家の住まいの特徴」、「昔の暮らし方で良いと思ったこと」、「昔の暮らし方で悪いと思ったこと」をポストイットに記入し、模造紙に貼りつけた。



今回のワークショップでは、大人はピンク、子どもは黄色のポストイットを使用した。完成品は、今庄のイベント「街道浪漫今庄宿」にて掲示し来場者に発信したり、日新地区の公民館等に掲示し、日新地区の住民に昔と今の暮らし方の違いについて考えるきっかけをつくった。

新聞記事

昔の住まい、工夫を学ぶ

福井市日新地区の住民たちが九日、かつて宿場町として栄えた南越前町今庄の今庄宿を訪れ、往時がしのばれる街並みや歴史的な建造物を見学しながら昔の住まいの良さを考えた。

県が昨年より取り組む住教育の一環。日新地区と今庄は福井、南越前両市のモデル地域になつており、交流を兼ねて実施した。小中学生を中心に十三人が参加した。一行は、防火対策のため

福井・日新地区の小中生ら

和会館などを見学した。は「建物はいろんな所が工登録有形文化財の旧旅館。去されていたと感心しながら、同所を廻覧しながら「やっぱり今の家の活動する今庄旅籠塾の朝倉 方がいいね」と便利さを英後事務局長から、福井市 感していた。(山本真喜夫)

今庄宿で見学 南越前町

に土を塗り込んで建たれている説明を聞き、昔の暮らしが今庄宿有数の旧家、京藤甚五郎家の良さを不便な京藤甚五郎家住宅（県指定有形文化財）をワークショップで確認として燃焼家が寄付した。慶島中一年の女生徒ら

旧宿場の昔ながらの街並みを撮影する参加者。南越前町今庄で

平成24年8月10日付け
日刊県民福井

※掲載の記事は、日刊県民福井の許諾を得て転載しています。

敦賀市 舟溜り地区

歴史的まち並みエリア



地区の特徴

みなと敦賀の歴史・文化を今に伝える地域で、江戸期の町家と近代の建物が共存するまち並みを形成している。

目指す方向性

身近にできるまち並みづくりを通して、地域住民だけでなく次世代を担う子どもたちにも景観への意識を高めてもらい、近代建築と木造和風建築が共存するまち並みを守り育む。

～取組内容1～

舟溜り地区の歴史やまちづくり、住まいに関する出前授業

実施日時	平成23年11月11日（金） 9時30分～10時15分
実施場所	敦賀北小学校 3階ふれあいルーム
対象者	敦賀北小学校5年生 32名
主催	福井県
協力	敦賀市、敦賀市立博物館、敦賀北小学校
講師	福井県土木部建築住宅課 坂川 慶介 敦賀市立博物館 館長 川村 俊彦氏 敦賀市都市整備部住宅政策課 奥川 直樹氏
ねらい	次世代を担う子どもたちに、小さい時期から住まいやまち並みについて興味を持ってもらい、より良い住環境を次世代に残す意識を育ててもらおう。
プログラム	1. 住まいの絵本 2. 舟溜り地区の歴史やまち並み 3. 土蔵の引っ越し
準備物	プロジェクター、スクリーン 等
様子	 <p>いい住まいとはどんな住まいかを考えてもらうため、子どもたちに「住まいの絵本」を配布して授業を行なった。いい住まいには何が必要かをいろんな角度から考えてもらえるよう、キーワードを設定して会話形式に作った住まいの絵本は福井県建築住宅課のホームページにてデータ提供している。</p>

様子



敦賀市立博物館長からは、舟溜り地区の歴史や、舟溜り地区で実際に取り組みられている景観形成について説明をもらった。

道路の真ん中を移動します



敦賀市の職員からは、敦賀市立博物館にある土蔵の曳家の様子をスライドで紹介してもらった。

新聞記事

川村館長(右)が舟溜り地区の歴史などを紹介した住まいに関する授業＝11日、敦賀北小



舟溜り地区 歴史学ぶ

住教育授業で敦賀北小児童

県の住教育の一環として敦賀北小で11日、歴史やまちづくり、住まいに関する授業が開かれた。5年生児童32人が、同市相生、蓬萊町、舟溜り地区の歴史や景観形成事業について学んだ。県では街並みや住環境の「資産」を次世代に継承しようと、本年度から2014年度まで17市町で順次モデル地区を指定して住教育を進めている。本年度は舟溜り地区を紹介した。

このほか、同地区で進められている景観形成事業についても説明。「敦賀は古い伝統的な町家と、近代建造物が共存する景観づくりを目指している」と話した。

平成23年11月12日付け
福井新聞

※掲載の記事は、福井新聞社の許諾を得て転載しています。

～取組内容2～ 身近なまち並みづくり ～暖簾によるまち並み演出～	
実施日時	[製作期間] 平成25年1月21日～平成25年2月27日(全10回) [お披露目会] 平成25年3月15日(金) 14時00分～15時30分
実施場所	[暖簾製作] 福井県立敦賀工業高等学校 [お披露目会] 敦賀市相生町会館
対象者	舟溜り地区の住民 参加者34名
主催	福井県
協力	博物館通り景観形成協議会、敦賀工業高等学校、敦賀市、敦賀市立博物館
製作者	敦賀工業高等学校 建築システム科 1年生
講師	草木染 草木染工房風雅 代表 石川 雅夫氏 デザイン 仁愛女子短期大学 教授 西畑 敏秀氏 歴史 敦賀市立博物館 館長 川村 俊彦氏 景観形成計画 敦賀市都市整備部都市政策課 百田 和幸氏 屋外広告物 福井県土木部都市計画課 山本 理
ねらい	舟溜り地区にあった暖簾を製作・設置することで、地元で建築を学ぶ敦賀工業高等学校の学生や舟溜り地区の住民の方々のまち並みづくりに対する意識向上を図る。
プログラム	1. 敦賀工業高等学校生が草木染やデザインについて学ぶ 2. 舟溜り地区にあった暖簾をデザインする 3. 草木染で暖簾を製作する 4. 住民に対してデザインコンセプト等を発表する 5. 各住戸に暖簾を設置する
準備物	暖簾、染料、竹竿 等
様子	 <p>【住教育について】 (平成25年1月21日実施)</p> <p>住教育に取り組んでいる趣旨や、これまでに取り組んできた内容について講義した。</p>
	 <p>【舟溜り地区の景観について】 (平成25年1月21日実施)</p> <p>暖簾を設置する舟溜り地区で策定された「景観形成推進計画」の内容について、敦賀市都市政策課の担当者から講義をもらった。</p>



【草木染について】
（平成25年1月21日実施）

草木染の染料として使われる材料の話、草木染の工程、デザインの仕方について、草木染工房風雅の石川雅夫氏に講義してもらった。



【デザインと社会との関わり】
（平成25年1月24日実施）

仁愛女子短期大学の西畑敏秀教授から、デザインという意識が実際にまちでどのように活かされているかを、身近な事例を紹介しながら解説をもらった。



【景観と屋外広告物について】
（平成25年1月24日実施）

福井県土木部都市計画課の担当者から、景観に配慮した広告物の例として「ふるさと福井景観広告賞」の受賞作品を紹介してもらった。



【舟溜り地区の散策、現地調査】
（平成25年1月28日実施）

暖簾を設置する場所の雰囲気や設置の仕方、設置協力者への要望ヒアリングのため、現地を散策し調査を行った。



【舟溜り地区の歴史等について】
（平成25年1月28日実施）

敦賀市立博物館長から、舟溜り地区の歴史的な背景や景観形成の取組みについて講義してもらった。



【デザイン作成その1】
（平成25年1月30日実施）

仁愛女子短期大学の西畑敏秀教授から、家紋や花押、イニシャルを使ったモノグラムデザインの作品例を紹介してもらい、デザインについての指導してもらった。



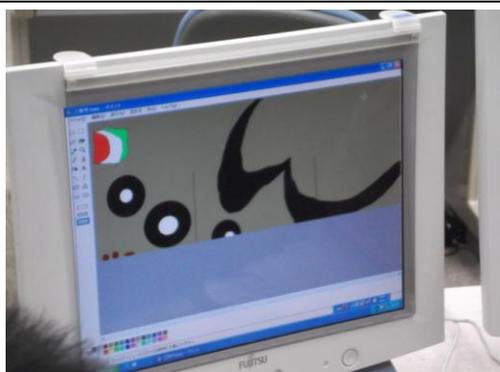
【デザイン作成その2】
（平成25年2月4日実施）

デザインを作成する上でのヒントを得るため、インターネットや敦賀市立博物館の資料に目を通し、デザインの草案を作った。



【デザイン作成その3】
（平成25年2月12日実施）

生徒が作成したデザインを他の生徒の前で発表し、デザインコンセプトを説明した。仁愛女子短期大学の西畑敏秀氏に講評してもらい、デザインの改良を行った。



【デザイン作成その4】
（平成25年2月14日実施）

前回の授業をもとに、色彩も含めて最終案を作成した。



【草木染実習その1】
（平成25年2月21日実施）

ベンガラを使用して暖簾の地染を行なった。暖簾が乾くと濡れている状態の暖簾の色より薄く映るため、自分たちの思い描いている色合いよりも濃く染めるようにした。



【草木染実習その2】
（平成25年2月25日実施）

前回の授業から自然乾燥させた暖簾に型紙をあて、アクリル顔料を使って彩色していった。彩色後に自然乾燥させ、アクリル顔料を完全に定着させるためにアイロンがけをして完成した。



【学内での暖簾デザイン発表】
（平成25年2月27日実施）

完成した暖簾を他の生徒にお披露目し、デザインで工夫した点や暖簾を製作したことに関する感想などを発表した。また、発表内容や作品内容について学生同士で採点を行なった。



【暖簾お披露目会】
（平成25年3月15日実施）

地元住民に完成した暖簾をお披露目し、デザインで工夫した点や暖簾を製作したことに関する感想などを発表した。



【暖簾設置】
（平成25年3月15日実施）

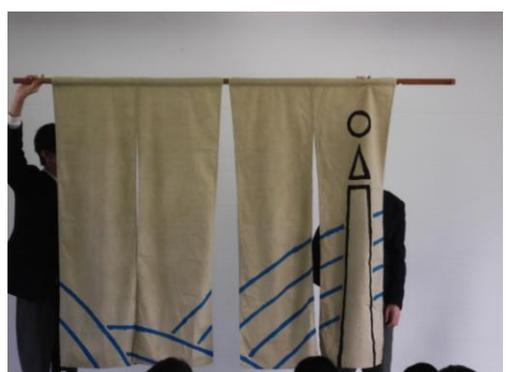
暖簾お披露目後、学生たちはそれぞれの場所に暖簾を設置した。なお、暖簾受けについては事前に取り付けておき、当日の設置時にスムーズに作業が進むようにした。



【暖簾の様子】

博物館通りを代表する和風建築物の「敦賀酒造」に設置された暖簾。地元の方が手作りされた「吊るし雛」もお披露目会に合わせて製作され、吊るされた。

作 品



作品



新聞記事

のれん街並みに風情

敦賀市相生町の舟溜り地区、市相町・藤町の界隈（市相町）に、のれん街並みが制作された。15日、住居が披露された。工夫を凝らしたデザインが、街並みに風情を添えている。

敦賀市相生町の舟溜り地区、市相町・藤町の界隈（市相町）に、のれん街並みが制作された。15日、住居が披露された。工夫を凝らしたデザインが、街並みに風情を添えている。

舟溜り地区 商店など軒先彩る

舟溜り地区の商店など軒先が、のれん街並みに彩られた。のれん街並みの制作は、市相町・藤町の界隈（市相町）に、のれん街並みが制作された。15日、住居が披露された。工夫を凝らしたデザインが、街並みに風情を添えている。

のれんで街並み演出 敦賀工高1年生が制作

敦賀市相生町の舟溜り地区、市相町・藤町の界隈（市相町）に、のれん街並みが制作された。15日、住居が披露された。工夫を凝らしたデザインが、街並みに風情を添えている。

舟溜り地区の商店など軒先が、のれん街並みに彩られた。のれん街並みの制作は、市相町・藤町の界隈（市相町）に、のれん街並みが制作された。15日、住居が披露された。工夫を凝らしたデザインが、街並みに風情を添えている。

町にひらめく 高校生のれん

歴史ある町並みの風情づくりが進む敦賀市相生町の博物館通りで15日、県立敦賀工業高校の1年生らがデザインした木製染めもののれんを各店舗の軒先にかけるお披露目会が行われた。

住まい町並みを資産として見つめ直し、次世代に伝えていくと、県が2011年度から4年計画で始めた「敦賀」事業の一環で、県内17市町から各1地区をモデル地区に選出。敦賀市では「舟溜り地区」（相生町）が対象となった。高校生約40人が地区の歴史や景観などを学びながらデザインした13枚ののれんを、集まった住民約20人に披露。酒店用には商の象徴文字を取り入れ、ローカルカラーが人気の洋菓子店用にはカタツムリが長い坂道を登る絵柄で、おいしさに到達するまでの苦勞を表すなど、創意工夫に住民から拍手が沸いた。

氣比神宮（敦賀市）の大鳥居と風に舞う木の葉を他の2人とデザインした1年生生荒谷康太さん（16）は「家主さんの希望に沿って派手すぎず、落ち着いた色合いを工夫しました」と話していた。

相生地区の木下章さんは「各のれんに色んな意味が込められた素晴らしい作品。苦勞に感謝したい」と喜んでた。

（写真：相生町）

平成25年3月16日付け
福井新聞

平成25年3月16日付け
日刊県民福井

平成25年3月28日付け
読売新聞

※掲載の記事は、福井新聞社、日刊県民福井、読売新聞社の許諾を得て転載しています。

小浜市 遠敷地区

歴史的まち並みエリア



地区の特徴

丹後街道と鯖街道が交わり、いにしへの時代より若狭の政治・経済・文化の中心として栄えた。現在も、江戸期から明治期に建てられた重厚な商家の建物がまち並みを形成している。

目指す方向性

身近にできるまち並みづくりを通して、歴史的まち並みの保存への意識を持ってもらい、伝統的町家を改修する活動へつなげる。

～取組内容1～

歴史的まち並みを演出する一輪挿しづくり

実施日時	平成27年2月9日（月）	第1部／10時00分～11時30分 第2部／13時30分～15時00分
実施場所	第1部／遠敷池田会館	第2部／遠敷の郷会館
対象者	遠敷5区（検見坂、池田、市場、島、中村）の住民 参加者42名	
主催	福井県	
協力	検見坂・池田ふれあいサロン、遠敷の郷ふれあいサロン 遠敷丹後街道まちなみ保存推進会、遠敷公民館、小浜市 一般社団法人福井県建築士会若狭支部	
講師	さばえ米俵研究会 福岡 賢二氏	
ねらい	日常的に設置できる一輪挿しを手作りし、各家庭の玄関等に設置することで、まち並み景観に連続性を持たせ、まち並みづくりに対する恒久的な意識醸成を図る。	
プログラム	1. わらについての話を聞く 2. わらを編んで竹筒を取り付け、一輪挿しを作る	
準備物	稲わら、麻ひも、竹筒 等	
様子		ワークショップ最初に開催趣旨を説明した後、講師からわらに関する話をもらった。

様子



講師が手作りしたわら編み機を使って、講師指導のもとわらの壁掛けを作った。



完成した一輪挿しを持って記念撮影をした。

新聞記事



平成27年2月10日付け
日刊県民福井

平成27年2月10日付け
福井新聞

一輪挿し

古民家が並ぶ小浜市検見坂から中村にかけての沿線五区の住民が九日、地元の池田会館などで、一輪挿し作りを楽しんだ。

― 一帯は県伝統的民家群保存活用推進地区の指定地域。町並み保存の機運を盛り上げようと、地元の特産を受け入れた県が初めて企画した。

小浜の民家群保存地区

景観彩る

一輪挿しは、幅わらを編んで作った幅三十五センチ、長さ四十五センチの壁掛けに、長さ約二十センチの竹筒を取り付けたタイプ。素朴な仕上げは格子戸に飾るとぴったりマッチする。

池田会館では、地域の女性を中心に二十人が参加した。鯖江市のさばえ米依研究会の福岡賢二さんがわらの編み方を指導。「一輪挿しを飾ることでよって、町が楽しくなるというですね」と話し、景観保存に向けたこれらの取り組みに期待した。

受講した前田里美さん(左)は「池田は上等の出来栄。大満足」と笑顔。早速、街道に面した玄関先に飾る女性もいた。

町並みを演出する目的で、側溝やカードフェンスの整備も始まる予定で、事務局の遠敷公民館は、住民の意識が高まるような催しを継続していく考え。(池上浩幸)

住民作製楽しむ

一輪挿し 町並みに風情
小浜・遠敷 住民らワークショップ



小浜市遠敷の旧丹後街れた。道沿いの町並みの風情を、遠敷5区(検見坂、池田)の町並み、各家の軒田市場、中村)は、先に飾る一輪挿しを作る県伝統的民家群保存活用ワークショップが9日、推進地区の指定を受けて同市遠敷の集会所で開か。ワークショップはその後、住民たちは各家に一輪挿しを持ち帰り、軒先に取付けた。貫井久代さん(70)は「街道沿いの風景を収める写真家も時折見かける。季節に応じて花を飾ってみたい」と話していた。(前田佳寿人)

ワークショップで作り出した一輪挿しを、軒先に飾る住民9日、小浜市遠敷の池田区。県の主催で、「遠敷丹後街道まちなみ保存推進会」などが協力した。観光客らをもてなし、町並みづくりに住民意識の向上を図るのが目的。午前と午後の計2回開催。池田会館で行われたワークショップには約20人が参加。さばえ米依研究会の福岡賢二さんが講師を務め、住民たちはわらをこまめに編んで竹筒を取り付け、一輪挿しを作った。

※掲載の記事は、日刊県民福井、福井新聞社の許諾を得て転載しています。

大野市 大野地区

まちなかエリア



地区の特徴

南北に走る街路樹網や用水路など、城下町の町割りを今日に残している地域で、近年、空き家や空き地が増加傾向にある。

目指す方向性

大野の地域特性を活かして空き地・空き家の活用策を検討し、実践する。

～取組内容1～

大学生による「空き地や空き家を活用したまちづくりデザイン」提案発表会

実施日時 平成24年7月27日（金） 15時00分～17時00分

実施場所 学びの里めいりん ランチルーム

対象者 大野地区の住民 参加者50名

主催 福井県

協力 福井大学、社団法人福井県建築士会、大野市

発表者 福井大学工学部建築建設工学科 3年生 14名

ねらい 人口減少や高齢化の進展等により、大野市のまちなかで空き家や空き地が増加し、地域コミュニティや景観の喪失などの問題が生じている。そこで、学生に大野の地域特性を活かした空き地・空き家の活用策を提案してもらい、地区住民の方と意見交換を行うことで、活用の参考としてもらう。

テーマ 空き地や空き家を活用した魅力ある生活環境の実現

プログラム
1. 提案発表、住民と意見交換
2. 講評

準備物 有孔ボード 等

様子



最初に、今回の開催趣旨などを説明し、その後、福井大学の担当教官・野嶋慎二教授からデザインテーマ等の説明をもらった。

様子



4グループに分かれて、学生が提案内容を披露し、それに対して住民の方と意見交換を行なった。まちづくりに生かそうと、地区住民の方は学生の提案に真剣に耳を傾け、積極的に意見交換を行っていた。



グループの中から一番良いと思った提案を代表に選出し、改めて参加者全員の中で4名が発表した。写真は最優秀賞を受賞した「ひとやすみ」の提案風景。まちなかの空き家に図書館や食堂、ホールなどを設け、憩いの空間とする提案をしていた。

新聞記事

空き家 空き地活用

学生の発想をイベントに

地域の特性に応じた住まいや街並みなどの資産として、住民に考えてもらう県の任教育課が二十七日、大野市の学びの里めいりんにて開かれた。福井大学の学生が、空き家や空き地を活用した町づくりのまちづくりの活用策を、住民が自分たちの町の活用策として発表し、意見を交換した。

この日は、市街地の住民や市内の建築・設計関係者計五十八人が参加。市民・学生が四つのグループに分かれて、学生一人一人が各グループ内で研究内容を発表し、意見を交換した。

学生らは、空き家を改装して住居が持たせられた中世や近世の建物などを展示する趣味の共有スペースをつくる計画や、除雪にも配慮した名水の町ならではの川を生かした家造りなどを提案。市民からも、学生ならではの斬新な発想に刺激を受けているとあった。

(正津 聡)

大野の住民 研究発表聞く

大野市の学びの里めいりんにて開かれた。福井大学の学生が、空き家や空き地を活用した町づくりの活用策を、住民が自分たちの町の活用策として発表し、意見を交換した。

この日は、市街地の住民や市内の建築・設計関係者計五十八人が参加。市民・学生が四つのグループに分かれて、学生一人一人が各グループ内で研究内容を発表し、意見を交換した。

学生らは、空き家を改装して住居が持たせられた中世や近世の建物などを展示する趣味の共有スペースをつくる計画や、除雪にも配慮した名水の町ならではの川を生かした家造りなどを提案。市民からも、学生ならではの斬新な発想に刺激を受けているとあった。

(正津 聡)

平成24年7月29日付け
福井新聞

小京都の空き家 学生目線で息吹

大野 福井大生がデザイン

2世帯住宅、憩い空間 市民に提案

大野地区で学生が新提案

福井県と福井大学

大野地区で学生が新提案

福井県と福井大学

平成24年7月28日付け
日刊県民福井

平成24年8月1日付け
建設工業新聞

※掲載の記事は、福井新聞社、日刊県民福井、北陸工業新聞社の許諾を得て転載しています。

～取組内容2～

木の授業

実施日時	平成25年10月16日（水） 9時25分～11時20分	
実施場所	有終西小学校	
対象者	有終西小学校5年生 30名	
主催	一般社団法人福井県建築士会青年部女性委員会	
共催	福井県、公益財団法人福井県建設技術公社	
協力	有終西小学校	
講師	一般社団法人福井県建築士会 吉田 輝代美氏	
ねらい	次世代を担う子どもたちに、日本の伝統的な建築素材である木の特徴を学んでもらい、ワークショップを通じて実際に素材に触れることで、住まいを見つめなおしてもらおうきっかけをつくる。	
プログラム	1. 木の生い立ち 2. 建築で使われる木について 3. さまざまな樹種の木片を使って時間割表を製作	
準備物	木の時間割表キット、装飾用タイル、ボンド、木片 等	
様子		<p>住まいや暮らしに精通している女性建築士が講師を務めた。</p>
		<p>スライドを用いて、建築史はどんな仕事をしているか、木の生い立ち、建築で使われる木について、講義した。スライドの途中で気に関するクイズを出題し、子どもたちがあきないように工夫していた。</p>
		<p>様々な樹種の木片（サクラ、スギ、マツ、クリ、ヒバ）で時間割表を製作した。それぞれの木の肌触りやにおいを確かめながら製作した。 キットは小学生でも製作しやすいように、釘等が必要ないものにした。</p>

様子



完成した時間割表と一緒に記念撮影をした。時間割表は教科の札を組み替えることができるため、今後もずっと使うことができる。



平成25年10月17日付け
福井新聞

平成25年10月17日付け
日刊県民福井

新聞記事



※掲載の記事は、福井新聞社、日刊県民福井の許諾を得て転載しています。

勝山市 片瀬地区

郊外エリア



地区の特徴

勝山八景、平泉寺十二景の一つに数えられている大師山のふもとにある地域である。

目指す方向性

身近にできるまち並みづくりを通して、継続的に景観を良くしようという意識を持ってもらう。

～取組内容1～

竹プランターづくり

実施日時	平成24年10月7日(土) 9時00分～11時30分
実施場所	奥越地域地場産業振興センター
対象者	片瀬地区およびその近隣の住民 参加者33名
主催	福井県
協力	社団法人福井県建築士会勝山支部、片瀬区
ねらい	身近にできる美しいまち並みづくりの取り組みとして、自然素材の竹でプランターづくりを住民自らがを行い、それぞれの家の通りに面する場所に設置し、水やりなど毎日の花の世話を通して景観への関心を継続的に持ち続けてもらい、まち並みづくりの意識向上を図る。
プログラム	1. 竹プランターを製作する 2. 花を植えて設置する
準備物	竹、ノコギリ、ノミ、ドリル 等
様子	 <p>ワークショップの前日までに山の所有者に了承を得て、竹を伐採した。</p>



まず最初に、今回の開催の趣旨と製作手順について説明した。



花を植える部分をくり抜き、裏に水抜き穴をドリルであけて竹プランターは完成した。



完成したプランターに土を入れ、パンジー、ナデシコ、ビオラなどを植えた。



参加者全員で大師山をバックに竹プランターと一緒に記念撮影をした。



竹プランターを設置している様子。毎日の水やりを通して、地域住民が景観への関心を継続的に持ってもらうことができた。

～取組内容2～ 家紋入りすだれづくり	
実施日時	平成25年8月18日(日) 9時30分～12時00分
実施場所	片瀬集会場
対象者	片瀬地区およびその近隣の住民 参加者30名
主催	福井県
協力	一般社団法人福井県建築士会勝山支部、片瀬区
講師	一般社団法人福井県建築士会 石畝 正樹氏
ねらい	すだれは、日陰をつくり風を通すエコ素材であると同時に、まち並み景観を形成する素材でもある。そこで、各家庭の家紋を刷り込みオリジナルのすだれを作ることで、昔の生活の知恵を知ってもらい、統一感のあるすだれを各家庭の軒先に吊るすことでまち並み景観に連続性を持たせ、まち並みづくりに対する意識向上を図る。
プログラム	1. 家紋の歴史やすだれの効果についての話を聞く 2. 昔の道具を使ったすだれづくりの実演を見る 3. 家紋入りすだれを作る
準備物	すだれ、型紙、カッターナイフ、ラッカースプレー 等
様子	 <p>福井県建築士会勝山支部の講師に、まずは家紋の話をしてもらった。その後、すだれの効果について、建築の専門家としての立場から話をしてもらった。</p>
	 <p>続いて、地元区民の方が昔使っていたすだれを作る道具で実演をしてもらった。昔の農家は、米俵などを自分たちで編んでいたとのこと。</p>
	 <p>実演を見学した後、家紋入りすだれを作った。まずは家紋の図柄をマスキングシートに貼りつけ、家紋の図柄に合わせて切り抜いた。</p>

様子



切り抜いた型紙をすだれにスプレーのりで貼りつけ、周りを養生して黒色のスプレーを吹きかけて完成した。



完成した家紋入りすだれを持って記念撮影をした。



家紋が入っているすだれをさっそく吊るしてもらった。参加された方から「家紋が入ったすだれを設置することで、家の雰囲気格調高く感じ、とても誇らしい」との感想をいただいた。

新聞記事

家紋入りすだれで涼

勝山片瀬住民ら40人制作

すだれの目隠しや家事が、カチンとは熱を40に涼を、県民建築士 9% 通断するのに対し、外会勝山支部は18日、すだれに取り付けすだれは80れに家紋を描くワークショップを勝山市の片瀬集会所で開いた。

地味に地味な住まい、効率的。家紋入りのすだれ最前世代に継承し、これは習熟つくりにもなつと、県が進める住教育、先祖に思いをはせ作の二環、片瀬区の住民やつてみてと呼び掛けた支部会員の約20世帯約40人。この後、参加者はそれぞれカッターで家紋の形に型紙を切り、すだれに

黒のスプレーで写してい、堂々とした橋など複雑だった、線が細かな書や、な文様が見事に浮かび上がり、互いに出来栄を比べて見せた。

親子で協力して描いた丸山和造さん(85)は、あためて家紋を見と愛を感えたものの大切さを、感える文様(は)に付けたいと満足そう。長女の菜々子さん(8)も「家紋つて面白い形、切るのを手伝ったけれど、うまくできたと笑顔を見せた。

すだれに家紋を描く参加者たち—勝山市片瀬の片瀬集会所

平成25年8月21日付け 福井新聞

家紋すだれ作り挑戦

勝山で体験講座 型紙を使い着色

家紋を入れたすだれに入れて取り付けや作りの体験講座(18日)が、地域の集会所で開かれた。四郷(しよ)が担い、県日が強くなる時期に備、建築住宅課によると、えて、住民や建築士、片瀬区を主とする地域に会勝山支部のメンバーして、県内に広めてい

ら二十八人が、各自の同支部理事の石坂正樹さん(60)の指導を受

県と同支部が主催、けながら、参加者は統愛着がある家紋すだれ、横約二十センチの家紋の型紙に挑戦。下絵を基にカッターナイフで慎重に用紙を切り抜いた。その後は、同市旭毛(山内通町)で、型紙ができる市屋町の興野貴代(たか)さん(45)が、すだれに貼り、上(う)で、きれいにできから黒いスプレーで着色。日差しが強い父(ちち)と、風流なすだれに仕上げた。自分の部屋に取り付けた。田の中に、タカさんの大に型紙(くり)を手に、こころ(こ)と笑顔を

た。型紙ができる市屋町の興野貴代(たか)さん(45)が、すだれに貼り、上(う)で、きれいにできから黒いスプレーで着色。日差しが強い父(ちち)と、風流なすだれに仕上げた。自分の部屋に取り付けた。田の中に、タカさんの大に型紙(くり)を手に、こころ(こ)と笑顔を

平成25年8月19日付け 日刊県民福井

※掲載の記事は、福井新聞社、日刊県民福井の許諾を得て転載しています。

鯖江市 吉江地区

歴史的まち並みエリア



地区の特徴

敵が通りにくくするために七つのかぎ型に曲がった「七曲り」という道路割りがされ、通り沿いは江戸時代の城下町の面影を残している地域である。

目指す方向性

身近にできるまち並みづくりを通して、歴史的まち並みの保存への意識を持ってもらう。

～取組内容1～

歴史的まち並みを演出する行灯づくり

実施日時	平成24年9月15日(土) 9時00分～11時30分
実施場所	立待公民館
対象者	吉江地区の親子 参加者43名
主催	福井県
協力	鯖江市、鯖江市教育委員会、立待公民館
ねらい	昔ながらのまち並みが残る鯖江市吉江地区の七曲り通りの風情を演出するため、吉江地区に幼少期に過ごした近松門左衛門にちなんだ行灯を住民自らが考え製作し、地元のまち並みや住まいに対する誇りと愛着を育ててもらおう。「立待月観月の夕べ」に行灯を設置することで、製作者はもちろん、ワークショップに参加しなかった住民にも、まち並みに関心を持ってもらう。
プログラム	1. 行灯の骨組を組み立てる 2. 和紙に吉江地区にちなんだ文字や絵を描く
準備物	木材、釘、和紙 等
様子	 <p>最初に行灯を製作する意味や製作上の注意事項について、参加者に伝えた。</p>

様 子



行灯の骨組作りから行なった。釘を打つことが初めての子どもでもサポートしてあげることで製作できた。



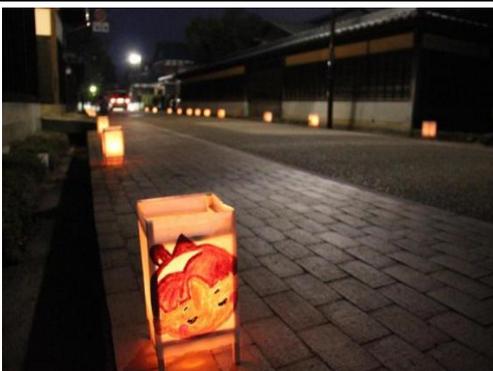
骨組が完成したら、和紙に文字や絵を描いた。吉江地区は近松門左衛門が幼少期に育った地区であるため、近松門左衛門の肖像画や地区のゆるキャラ「ちかもんくん」を描いたりして、元禄時代に思いを馳せて行灯を製作していた。



全部で42基の行灯が完成し、全員で記念撮影をした。



絵の具で絵を描くだけでなく、写真のように切り絵で行灯を製作した人もいた。



完成した行灯を、観月の夕べというイベントの日に七曲り通り沿いに設置した。通りを歩いていた人から「行灯で照らされたまち並みが趣深く、改めてこのまち並みの素晴らしさを知った」という感想をいただいた。

～取組内容2～

歴史的まち並みを演出する一輪挿しづくり

実施日時	平成25年9月17日(火)	第1部/13時30分～15時30分 第2部/19時30分～21時00分
実施場所	吉江中公民館	
対象者	吉江地区の住民 参加者44名	
主催	福井県	
協力	一般社団法人福井県建築士会鯖江支部 立待公民館、吉江中公民館、吉江中区	
講師	さばえ米俵研究会 福岡 賢二氏	
ねらい	日常的に設置できる一輪挿しを手作りし、各家庭の玄関等に設置することで、まち並み景観に連続性を持たせ、まち並みづくりに対する恒久的な意識醸成を図る。	
プログラム	1. わらについての話を聞く 2. わらを編んで竹筒を取り付け、一輪挿しを作る	
準備物	稲わら、麻ひも、竹筒 等	
様子		所有者に了承をもらって、竹を切り出して竹筒を作った。竹筒の長さは約20cmほどで、節より下の部分にドリルで穴をあけ、紐を通すことができるようにした。
		ワークショップ最初に関催趣旨を説明した後、講師からわらに関する話をしてもらった。
		講師が手作りしたわら編み機を使って、講師指導のもとわらの壁掛けを作った。全体的には女性の参加が多かった。

様子



一輪挿しをさっそく吊るしてもらった。鯖江市吉江地区の歴史的まち並みの風情に似合っている。



伝統的民家だけでなく、一般民家にも飾ってもらい、まち並みに統一感を演出した。

新聞記事

わらと竹で一輪挿し
江戸期の面影残す鯖江・吉江町

鯖江市吉江町の古い町並みの風情を演出しようとして、家の外壁に飾る一輪挿しを作るワークショップが17日、同区の吉江中公民館で開かれた。住民はわらで壁掛け型の飾りを作り、花を挿す竹筒を取り付けた。

同区の吉江七曲り通り帯には、江戸期の面影を残す建築物が並んでいる。ワークショップは真が進める「住教育」の一環として行われた。

参加者は福岡さんが考案したわら編み機を使い、同市吉川地区でこれにたわらを6本ずつ麻ひもで結んで壁掛けを作った。縦45センチ、横35センチほどの大きさにすると、長さ約20センチの竹筒をひもで結びつけ、風情あふれる一輪挿し飾りが完成させた。

佐飛のぶ代さん(73)は「簡単だし、みんなでおしゃべりしながら作業したので楽しかった。季節の花や色紙を飾りたい」と笑顔を見せた。

一輪挿しは21日の「立待月観月の夕べ」、10月5、6日の「たちまち近松まつり」の際に通りに飾る。

福岡さん(左)に教わりながら、わらで壁掛け飾りを作る住民17日、鯖江市吉江町の吉江中公民館

平成25年9月18日付け
福井新聞

※掲載の記事は、福井新聞社の許諾を得て転載しています。

あわら市 新富地区

まちなかエリア



地区の特徴

北国街道の宿場町として栄えた地区で、北陸新幹線の金沢開業を控え、JR芦原温泉駅を利用する観光客等が散策を楽しむことができるまちづくりを推進しているところである。

目指す方向性

身近にできるまち並みづくりを通して、観光客等へのおもてなしの景観づくりを進める。

～取組内容1～

一輪挿しでおもてなしの景観づくり

実施日時	平成26年11月22日(土)	第1部/10時00分～11時30分 第2部/13時00分～14時30分
実施場所	金津本陣 KOSSA 3階大ホール	
対象者	あわら市内の住民 参加者36名	
主催	福井県	
協力	一般社団法人福井県建築士会青年部、あわら市	
講師	さばえ米俵研究会 福岡 賢二氏	
ねらい	平成27年3月の北陸新幹線の金沢開業を踏まえ、一輪挿しを作って設置することを通じ、JR芦原温泉駅を利用する観光客等が散策を楽しむことができる「おもてなし」の景観づくりを進める。	
プログラム	1. わらについての話を聞く 2. わらを編んで竹筒を取り付け、一輪挿しを作る	
準備物	稲わら、麻ひも、竹筒 等	
様子		最初にワークショップ開催の趣旨を説明した後、講師からわらに関する話をしてもらった。

様 子



講師が手作りしたわら編み機を使って、講師指導のもとわらの壁掛けを作った。小学1年生から60歳代までと、幅広い層が参加した。



参加者が製作している間、竹筒の製作を行なった。



わらで編んだ壁掛けの幅を均一にするために切りそろえて、竹筒を取り付けて一輪挿しが完成した。



完成した一輪挿しを持って記念撮影をした。



一般民家の玄関先に飾ってもらい、あわら市を訪れる人に対して一輪挿しで「おもてなし」をもらった。

越前市 タンス町界隈

歴史的まち並みエリア



地区の特徴

越前国府が置かれてから1,300年に渡る歴史が刻まれた地域で、江戸時代からの町家や蔵および社寺が多く残っている地域である。

目指す方向性

歴史的・文化的資産を広く情報発信し、歴史的まち並みの保存の意識を高める。

～取組内容1～

まちづくり講演会＋街並み見学会 in 武生2011

実施日時	平成23年11月3日（木・祝） 12時30分～16時30分
実施場所	越前市生涯学習センター
対象者	越前市内外の住民 参加者120名
主催	社団法人福井県建築士会
共催	福井県、越前市、財団法人福井県建設技術公社
後援	四町まちづくり協議会
協力	社団法人福井県建築士会南越支部、武生工業高等学校、武生立葵会
講師	山形県金山町産業課 須賀 稔氏

ねらい
都市景観大賞を受賞するなど、美しいまちづくりの先進地である山形県金山町から講師を招き、100年先を見据えた美しいまちの創り方について話してもらい、今後のまちづくりの参考にしてもらおう。また、江戸時代の地図を片手に武生の町を歩き、身近な地域資産の魅力を知るきっかけをつくる。

- プログラム**
1. 街並み見学会「古地図散歩」
 2. 地域の暮らし発表
 3. まちづくり講演会

様子	 <p>街並み見学会を前に、まずは武生の歴史概要について説明をした。 武生のまちなかは幕末の地図と戦後の航空写真がほぼ一致する。そのため、昔の地図を持ってまち歩きができる、稀有なまちである。</p>
----	--

様子



古地図散歩の様子。地元住民にとって見慣れた風景も、歴史概要を聞き、古地図片手にまち歩きをすることで、改めて地域資産の良さを発見した。



武生工業高等学校建築コースの学生が、四町地区での住まいを提案した。いずれの案も町家の良さを生かした建築様式で、まち並みとも調和を図った内容であった。



講演会では、都市景観大賞を受賞するなど、美しいまちづくりの先進地である山形県金山町の取組事例などを紹介してもらった。今後のまちづくりの参考とするべく、参加者は興味深く聞き入っていた。

新聞記事

古地図片手に再発見
武生で街並み見学会 講演会も
 主催は福井県建築士会

福井県建築士会(以下、建士会)が、歴史的なまち並みを再発見し、まち並み見学会を開催した。この見学会は、古地図を片手に、まち並みを歩きながら、歴史を学び、まち並みを再発見する。講演会では、都市景観大賞を受賞するなど、美しいまちづくりの先進地である山形県金山町の取組事例などを紹介してもらった。今後のまちづくりの参考とするべく、参加者は興味深く聞き入っていた。

福井県建築士会(以下、建士会)が、歴史的なまち並みを再発見し、まち並み見学会を開催した。この見学会は、古地図を片手に、まち並みを歩きながら、歴史を学び、まち並みを再発見する。講演会では、都市景観大賞を受賞するなど、美しいまちづくりの先進地である山形県金山町の取組事例などを紹介してもらった。今後のまちづくりの参考とするべく、参加者は興味深く聞き入っていた。

平成23年11月5日付け
 建設工業新聞

※掲載の記事は、北陸工業新聞社の許諾を得て転載しています。

～取組内容2～

越前市のまちなかをブラ武生！

実施日時	平成24年11月10日（土） 13時30分～17時00分
実施場所	越前市生涯学習センター
対象者	越前市内外の住民 参加者120名
主催	福井県
共催	越前市、社団法人福井県建築士会南越支部
後援	越前市教育委員会、NHK福井放送局、福井新聞社
協力	府中まちなか博物館連絡会
講師	NHK番組「プラタモリ」 チーフ・プロデューサー 尾関 憲一氏

ねらい
越前市には歴史・文化を反映した魅力ある資産が多く残っており、去年は300年前の地図を片手に「古地図散歩」を実施した。今回は、街角で発見した痕跡や不思議な地形などから隠された街の歴史やエピソードを探るNHKの人気番組「プラタモリ」のエッセンスを番組制作者の視点で伝えてもらい、参加者の方々に身近な地域資産を知るきっかけづくりにつなげる。

プログラム
1. まちづくり講演会
2. まちなか散歩

様子



尾関氏によるまちづくり講演会の様子。尾関氏から「観光地でもない、何でもないところをいかに面白く見せるかに苦労もするがやりがいもある」など、番組制作上の裏話などをしてもらった。

様子



まちづくり講演会后、尾関氏と一緒に古地図を片手に武生のまちなかを散策した。写真はその古地図。詳しいデータは、本冊子117ページに掲載している。

様子



まちなか散歩ではルートをあらかじめ決めて、右回りと左回りの2チームに分かれて行なった。
写真は「祀が辻」という四つ辻。どの道からも見通しがきかない特殊な四つ辻で、戦国時代、辻いっばいに雇兵を入れて人数を数えた、いわゆる「人枘」として作られたとも言われている。

様子



写真は見学建物の一つ「ちひろの生まれた家記念館」で、絵本画家のいわさきちひろは、この家の離れで生まれた。当時を伝える板壁や箱階段等、大正時代の面影を残すように復元改修をし、記念館として再現された。



ルート内の要所に係員を配置し、その場所や建物の歴史などについて説明をした。

写真は見学建物の一つ「府中町屋倶楽部」で、薬屋や産婦人科医院として使われていた建物を、地元市民団体の「府中町屋倶楽部」が借受け、自らの手で整備再生した。

新聞記事

歴史ある市街地の散策を楽しむイベントが10日、越前市であった。古地図を片手に街歩き、歴史に思いをはせる楽しみ方が静かな人気を呼んでいる。

この日は、NHKの探案散歩番組「フラタモリ」のチーフ・プロデューサーの尾関憲一さんが講演し、番組誕生の舞台裏や町歩きのコツを伝授した。インターネット上に情報が飛び交う現代でも、尾関さんは「現場を歩くことが一番大事。資料にも出てこない新しい発見がある」と話した。

その後、約100人の参加者は地図を持ち、中心市街地の旧武生郵便局や武生公会堂記念館など歴史の価値のある建造物を見学した。参加したまちづくりNPO「ラビータ創造研究所」の井上和治理事長は「散策は町の歴史を知るいい方法だ。地元でも活用していきたい」と話した。
(足立耕作)

ぶらり越前 再発見を
市民ら100人、地図片手に散策

古くからある呉服店の建物を見学する参加者ら一越前市蓬萊町

平成24年11月11日付け 朝日新聞

平成24年11月14日付け 建設工業新聞

まち歩きで江戸を体感
古地図片手に武生再発見
主催は福井県

越前市10日、江戸招き、番組通したまち歩きイベントが、古地図を片手に、町歩きや寺社など、江戸の風情を体感する機会を、市民ら100人が、古くからある呉服店の建物を見学する参加者ら一越前市蓬萊町

今企画は、11年度から、市内各地取り組む「まち歩き」の一環として、1300年にわたる、江戸の生活のなかで、歴史の重みを感じながら、まち歩きを、尾関氏は「散策し終えて、いい素材が一杯ある。くは、もうネット上に取っ付け、いいのには、なんとも、感動を話した。

住教育の一環で実施
今企画は、11年度から、市内各地取り組む「まち歩き」の一環として、1300年にわたる、江戸の生活のなかで、歴史の重みを感じながら、まち歩きを、尾関氏は「散策し終えて、いい素材が一杯ある。くは、もうネット上に取っ付け、いいのには、なんとも、感動を話した。

テレビ人気番組も後押し
NHKの探案散歩番組「フラタモリ」のチーフ・プロデューサーの尾関憲一さんが講演し、番組誕生の舞台裏や町歩きのコツを伝授した。インターネット上に情報が飛び交う現代でも、尾関さんは「現場を歩くことが一番大事。資料にも出てこない新しい発見がある」と話した。

※掲載の記事は、朝日新聞社、北陸工業新聞社の許諾を得て転載しています。

坂井市 東十郷地区

農山漁村エリア



地区の特徴

1, 000余年を農村集落として稲作を中心に営んできている地域である。

目指す方向性

地元の特徴である農村集落や農家住宅の良さを再認識し、誇りと愛着を持って農村集落を守り育む。

～取組内容1～

上新庄の宝物を探す旅に出よう

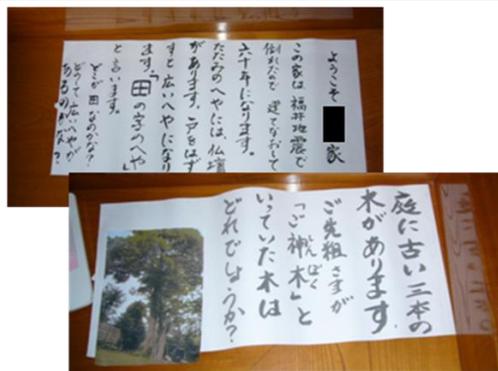
実施日時	平成24年7月22日（日） 8時00分～16時00分	
実施場所	上新庄集落センター	
対象者	上新庄地区の住民 参加者29名	
主催	福井県	
共催	上新庄区子ども会	
協力	坂井市、上新庄区	
講師	アルマス・バイオコスモス研究所 代表 水上 聡子氏	
ねらい	地元集落を探索したり農家住宅を体験したりすることで、今まで気付かなかった農村集落や農家住宅の良さを再発見し、自分たちの暮らしに何か取り入れることができるかを探る。	
プログラム	1. アイスブレイク 2. 世界の家を見てみよう 3. むらのお宝さがし	4. 昼食 5. 魅力発見マップづくり 6. むらの宝物発表
準備物	デジカメ、プリンター、地図、お宝発見シート、模造紙 等	
様子		<p>むら歩きを行う前にスライドショーで世界の色々な家を見てもらい、その土地での気候風土に合わせて家がどのようにつくられているかや、地元の家との違いなどを考えてもらった。</p> <p>〔使用教材〕 世界あちこち ゆかいな家めぐり</p>



4グループに分かれてむら歩きを開始。日頃見慣れている風景でも、宝物を探すという視点でまち歩きをすることで、改めて自分たちの住むまちの良さを再認識できた。



むら歩きにはチェックポイントを2か所設けた。そのうちの1か所が写真の屋敷。屋敷林におおわれているのが特徴で、当日は蒸し暑い日だったが、屋敷林の外と中では4度の気温差があり、涼しさを体感することができた。



もう1つのチェックポイントのお宅では、「田の字の部屋」と「ご神木」を探すミッションが用意されていた。どうして部屋の配置が「田」になっているかなどについて、参加者たちは考えていた。



むら歩き後、自分たちの住む地区や家でお宝だと感じたものをグループごとにまとめて、魅力発見マップを作成し、参加者の前で発表した。



作成した魅力発見マップを近くにあるJR丸岡駅舎に展示し、地区の魅力を他地区の人に向けて発信した。

～取組内容2～	
見つけよう！上新庄の残したい風景	
実施日時	平成25年7月27日（土） 8時00分～15時00分
実施場所	上新庄集落センター
対象者	上新庄地区の住民 参加者15名
主催	福井県
共催	上新庄区子ども会
協力	坂井市、上新庄区
講師	アルマス・バイオコスモス研究所 代表 水上 聡子氏
ねらい	地元集落や農家住宅を探索し、次の世代に残したい風景や次の世代に向けて育んでいきたい風景を探し、その風景を残していくためには何をすればいいかを話し合い、その内容を取りまとめたものを地域に配布することで、今後の住まい・まちづくり活動の材料や風景を残すために必要なルール作りなどのきっかけにする。
プログラム	1. アイスブレイク 2. 昨年度の振り返り 3. 昔の上新庄の様子 4. 作戦会議 5. むら歩き 6. 昼食 7. グループワーク 8. 残したい風景の発表 9. 残したい風景の投票 10. 感想、講評
準備物	デジカメ、プリンター、地図、お宝発見シート、模造紙 等
様子	 <p>まず最初に、昨年度に行なったワークショップを振り返った。その後、昔の集落景観や遊びの様子が分かる写真を紹介し、残したい風景を探すヒントにしてもらった。</p>
	 <p>3グループに分かれてむらを散策した。数名の方に自宅を開放していただいた。そのうちの1軒での様子。縁側に座って、縁側の良さを体感した。</p>
	 <p>家の中も見学させていただいた。家主から、なぜ田の字プランになっているかなどについて子どもたちに説明してもらい、子どもたちは昔ながらの暮らし方について学んだ。</p>

様 子



写真のお宅の屋敷林に手作りの遊具を設置した。家主から、庭木を育てるためにはいろいろな手入れが必要だということを教えてもらった。



それぞれのグループで選出した残したい風景をまとめ、地区の公民館まつりで地区住民が大勢見守る中、子どもたちは地元の残したい風景について発表した。



ワークショップで取りまとめた内容を、近くのJR丸岡駅舎に展示し、地区の残したい風景を他地区の人に向けて発信した。また、取りまとめた資料を地区の全戸に配布し共有化した。

新聞記事

平成25年7月30日付け
福井新聞

後世残したい風景8つ選択
子どもら集落巡り
坂井市坂井町上新庄

「上新庄お宝ハンタ」春日神社訪問。広い「チー」は、最初に境内には青い杉林が...

庭木、縁側「いいな」
坂井上新庄 優れた住環境「発掘」

平成25年7月30日付け
日刊県民福井

住教育ワークショップの「まち歩き」で、ご神木のタブノキを撮影する子供たち＝坂井市坂井町上新庄

※掲載の記事は、福井新聞社、日刊県民福井の許諾を得て転載しています。

永平寺町 京善地区

農山漁村エリア



地区の特徴

大本山・永平寺に至る道中のほぼ中間に位置し、集落内には伝統的民家や土蔵が多く残り、集落の背後に広がる山々と中央を流れる永平寺川とあわせて、里山景観を形成している。

目指す方向性

地域に残る伝統的民家や地域産材に誇りと愛着を持ってもらい、地域住民が主体となって伝統的民家の保全活動や地域産材の供給拡大のきっかけをつくる。

～取組内容1～

越前瓦の家紋表札づくり

実施日時	平成26年11月9日(日) 15時00分～17時30分
実施場所	京善多目的集会センター
対象者	京善地区の住民 参加者28名
主催	福井県
協力	福井県瓦工業協同組合、一般社団法人福井県建築士会青年部、永平寺町
講師	福井県瓦工業協同組合 総務理事 藤原 綱蔵氏
ねらい	永平寺町京善地区に数多く残る、伝統的民家を構成する材料の一つである「越前瓦」を使って各家庭の家紋を彫った表札を作ることを通じ、伝統的民家に誇りと愛着を持ってもらうとともに、地元産業である越前瓦に親しんでもらうことで地域産材の利用拡大のきっかけにする。
プログラム	1. 越前瓦の特徴について 2. 越前瓦の家紋表札づくり
準備物	越前瓦粘土、へら 等
様子	 <p>最初に、講師から越前瓦の製造工程と特徴について、DVDを交えて説明してもらった。</p>

		<p>越前瓦の板荒地に、各家庭の家紋を彫った。</p>
<p>様 子</p>		<p>ワークショップ後、乾燥・施釉・焼成して完成した。</p>
		<p>完成した越前瓦の家紋表札を設置した様子。家紋表札により、京善区のアイデンティティを確立している。</p>
<p>新聞記事</p>	<div data-bbox="504 1290 1107 1706" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="529 1680 1107 1706" data-label="Caption"> <p>家紋が浮き出るように粘土を彫る参加者—永平寺町の京善多目的集会センターで</p> </div> <div data-bbox="753 1706 1410 1912" data-label="Text"> <p>センターで行われた。家紋を彫る粘土板は、参加者の希望に応じた縦横二十四、二十七、三十の三種類で、厚さ二センチ、重さ四センチほど。家紋を印刷した紙を鉛筆でなぞることで模様を写し、ナイフや専用工具で彫っていた。家紋は幾何学模様や植物を模したものをさまざまなサイズで、「上がり藤」が家紋の女性は模様が細かく「自分で彫るとは思わなかった。肩が凝る」と苦笑い。「丸に剣方喰」を彫る内装業の野崎清さん(68)は「粘土を触るのは小学校以来。玄関先かけた箱の上にもうっのが楽しみな様子だった。家紋表札は、同組合が越前瓦と同じように焼き上げ、年内には参加者に届けられる。(中田誠司)</p> </div> <div data-bbox="727 1935 1190 2033" data-label="Text"> <p>平成26年11月15日付け 日刊県民福井</p> </div>	

※掲載の記事は、日刊県民福井の許諾を得て転載しています。

池田町 稲荷地区

農山漁村エリア



地区の特徴

生物多様性に富んだ美しい自然環境や、住民生活や農業の営みによってつくられてきた農村景観があり、町民に安らぎと潤いをもたらし、訪れる人々の心を癒している。

目指す方向性

池田町に残る良質な古民家の保存や空き古民家の利活用を促進させる。

～取組内容1～

茅葺き見学 & 茅葺き体験

実施日時	平成26年9月19日(金) 8時50分～15時25分
実施場所	堀口家住宅
対象者	池田小学校1～6年生 池田中学校1年生 武生高等学校池田分校1年生 合計114名
主催	池田町教育委員会
共催	福井県
講師	松浦建設株式会社 坂本 和幸氏 ニシオサプライズ株式会社 西尾 晴夫氏
ねらい	国の重要文化財「堀口家住宅」で42年ぶりの保存修理の機会に、次世代を担う子どもたちが文化財保存修理現場を見学し、実際に茅葺き作業を体験することで、地元の気候・風土に合った建築材料や住まい方を知ってもらい、地元に残る古民家を大切にする気持ちを芽生えさせる。
プログラム	1. 文化財の保存修理工事の仕方について 2. 茅葺き作業の見学 3. 茅の特徴について 4. 茅葺き作業の体験
準備物	わら、茅葺き作業用の道具、軍手、ヘルメット 等

様 子



まず最初に、堀口家住宅の概要と文化財を保護する意義について説明し、その後、保存修理の方法について説明した。



茅葺き作業中の屋根を足場から見学した。



茅葺きがなぜ雨漏れしないかについて、子どもたちの前で実験をして説明してもらった。



体験用に仮組した垂木に茅を葺く体験をしてもらった。



職人の指示に従い、専用の道具を使って茅を葺いた。

池田の宝 かやぶき

国の重文「堀口家住宅」

池田町内の小中高生が十九日、国の重要文化財「堀口家住宅」（同町稲荷）で、屋根のかやぶき作業を体験した。

堀口家住宅の全面的な保存修理工事が四十二年ぶりに行われているのに合わせて、地元に残る古民家への関心と知識を高めてもらおうと、町が企画。県が進める住教育も兼ねて実施した。

池田小学校の全児童八十四人と池田中学校、武生高校池田分校の各一年生計三十人が参加。修理工事を行っているかやぶきの専門業者「ニシオサプライズ」（京都府南丹市）の職人たちに作業を教わった。

垂木を組んで屋根に見立てた骨組みにわらを敷き詰め、縄を通して垂木に掛けてから、わらを抑えるための棒を縛る工程を体験。六年生の女子児童は「縛っている間にわらが乱れてしまった。力も必

小中高生 伝統の技学ぶ



職人に教わりながら、かやぶき体験する児童たち—19日、池田町の堀口家住宅で（蓮覚寺宏絵撮影）

要で、かぶき替えは大変な作業」と話していた。

雨が漏らない仕組みや、かやぶきが世界各国で使われていることなどを、職人がクイズ形式で教える見学会も行った。修理は十二月初旬の完成を予定しており、今月二十七日には一般向けの見学会が開かれる。（山本真喜夫）

新聞記事

平成26年9月20日付け
日刊県民福井

かやぶきの技格闘

堀口家住宅で児童ら体験

池田

42年ぶりの改修が行われ、池田町藪田の国指定重要文化財「堀口家住宅」で19日、同町の池田小、池田中、武生高校池田分校の児童や生徒を招き、見学会とかやぶきの体験会が開かれた。

地元気候や風土に合わせて、古くから受け継がれてきた建築や住環境について知識を深めてもらおうと、同町教委が企画。114人が参加し、修復に当たる職人の西尾晴夫さんら5人が指導した。

かやぶき体験会は屋根に見立てた骨組みを使って行われた。児童らは、わらを骨組みの上に広げて均一な厚さにならし、その上に竹を置いて固定。わらを縄で竹と骨組



「はり」で縄を結ぶ作業に取り組む児童ら—19日、池田町藪田の堀口家住宅

「みしばった後、「たたき」と呼ばれる道具で、指定重要文化財「堀口家住宅」で19日、同町の池田小、池田中、武生高校池田分校の児童や生徒を招き、見学会とかやぶきの体験会が開かれた。

かやぶき屋根の説明では、西尾さんが「かやは何の植物でしょう」などとクイズを出した。池田小の下道桂奈さん(6年)は「かやぶきを体験するのは初めて。たつきを使うのが特に難しかった」と話していた。

27日には一般を対象にした保存修理現場の見学会を行う。（青木孝浩）

平成26年9月22日付け
福井新聞

※掲載の記事は、日刊県民福井、福井新聞社の許諾を得て転載しています。

～取組内容2～

堀口家住宅保存修理現場見学会

実施日時	平成26年9月27日（土）	第1部／10時30分～12時00分 第2部／13時30分～15時00分 第3部／15時00分～17時00分
実施場所	堀口家住宅	
対象者	一般住民 参加者75名	
主催	池田町教育委員会	
協力	福井県	
講師	公益財団法人文化財建造物保存技術協会 原 光治氏 松浦建設株式会社 坂本 和幸氏 ニシオサプライズ株式会社 西尾 晴夫氏	
ねらい	国の重要文化財「堀口家住宅」の保存修理の機会に、文化財保存修理現場を見学することで、地元の気候・風土に合った建築材料や住まい方を知ってもらい、地元に残る古民家を大切にする気持ちを芽生えさせる。	
プログラム	1. 文化財の保存修理の仕方を学ぶ 2. 茅葺き作業の現場見学および茅の特長について学習する	
準備物	ヘルメット 等	
様子		保存修理箇所について説明をしてもらった。今回の工事では耐震慎打を行なって、一部の壁に耐震改修を施した。
		堀口家住宅の特徴について、講師から説明をしてもらった。
		実際に茅葺き作業をしているところを、足場から見学した。その他、茅に関する話をいろいろしてもらった。

南越前町 今庄宿

歴史的まち並みエリア



地区の特徴

江戸時代に宿場町として栄え、町家特有の短冊形の屋敷地が北国街道沿いに並んで、今もそのまち並みが残っている地域である。

目指す方向性

身近にできるまち並みづくりを通して、歴史的まち並みの保存への意識を持ってもらい、伝統的町家を改修したり空き家を有効活用する活動へつなげる。

～取組内容1～

小学生による「わたしたちの町並み」写生大会

実施日時	平成23年8月9日（火） 7時50分～11時00分
実施場所	南越前町今庄の北国街道沿い
対象者	今庄小学校5・6年生 約40名
主催	街道浪漫今庄宿2011実行委員会
共催	NPO法人今庄旅籠塾、今庄観光協会
後援	南越前町、南越前町教育委員会、南越前町商工会今庄支部 今庄まちづくり推進委員会、今庄地区文化協議会
協力	福井県
ねらい	小学生の間に自分の住む町を描くことで、自分の目や記憶に印象付けてもらい、自分の住む町や家を大切にしている気持ちを持って、故郷への誇りと愛着を育んでもらう。
プログラム	1. 写生大会の説明 2. 写生大会
準備物	4ツ切り画用紙、画板 等
様子	 <p>公德園にて写生大会での注意事項を説明した後、主催者が事前に指定した5箇所に分かれて写生した。時間内に完成しなかった場合は自宅で仕上げ、夏休み終了時に提出してもらった。</p>

～取組内容2～

歴史的まち並みを演出する行灯づくり

実施日時	平成24年9月1日（土） 9時00分～12時00分	
実施場所	旧旅籠若狭屋	
対象者	今庄地区の親子 参加者20名	
主催	福井県	
協力	NPO法人今庄旅籠塾	
ねらい	歴史的まち並みが残る今庄宿の風情を演出するため、住民自らが考え行灯を製作し、地元のみち並みや住まいに対する誇りと愛着を育ててもらおう。また、前夜祭に行灯を設置することで、製作者はもちろん、ワークショップに参加しなかった住民にも、まち並みに関心を持ってもらう。	
プログラム	1. 行灯の骨組を組み立てる 2. 和紙に今庄にちなんだ文字や絵を描く 3. 行灯を設置する	
準備物	木材、釘、和紙 等	
様子		<p>まずは行灯の骨組を作った。事前にカットした木材を使ったため、子どもでも少しサポートしてあげることで製作できた。</p>
		<p>骨組が完成したら、和紙に文字や絵を描いた。今庄にちなんだものということで、吊るし柿やかたくりの花などいろいろな絵を描いていた。</p>
		<p>完成した行灯を街道浪漫今庄宿の前夜祭に設置し、今庄宿の風情が演出された。</p>

～取組内容3～

大学生による地域資源を生かしたデザイン提案発表会

実施日時	平成25年2月9日（土） 13時30分～15時30分
実施場所	今庄地区公民館今庄分館（昭和会館）
対象者	今庄地区の住民 参加者30名
主催	今庄地区公民館今庄分館
主管	NPO法人今庄旅籠塾
共催	福井県
後援	今庄観光協会、今庄観光ボランティア協会
発表者	福井大学工学部建築建設工学科 2年生 約40名
ねらい	学生が今庄宿の地域資源を生かして新たな生活環境を創出する提案を住民にすることで、地域の資産を再認識してもらい、今後のまちづくりの参考にしよう。
テーマ	旧宿場の地域資源を生かした生活環境のリ・デザイン
プログラム	1. 提案発表、住民と意見交換 2. 講評
準備物	有孔ボード 等

様子



最初に、今回の開催趣旨などを説明し、その後、福井大学の担当教官・菊地吉信准教授からデザインテーマ等の説明をもらった。

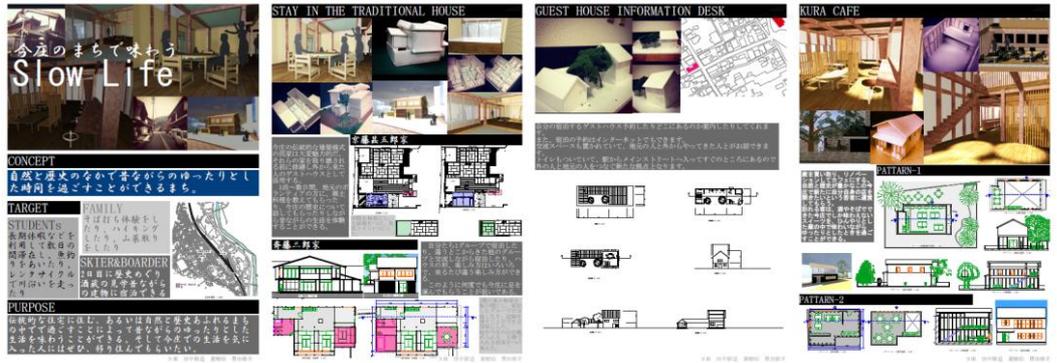


住民の前で提案発表する学生たち。最初3班に分かれて提案し、それぞれの班から代表を選出、代表3グループが全員の前で改めて提案発表した。



住民投票により、最優秀賞と優秀賞を決定、公民館長とNPO法人今庄旅籠塾長から表彰をもらった。

最優秀作品



平成25年2月10日付け
福井新聞

今庄宿の魅力 福井大生提案

南越前で発表

駅前にも施設集約 古民家改修などアイデア

かつて宿場として栄え、昔ながらの建物が残る南越前町の庄宿の町並みを生かすべく、福井大学の学生が、古民家をゲストハウスに改修し、そばや地酒といった高関産産物を取り入れた観光施設を提案し、町並みを呼び込む、若いうち感性で庄宿の魅力向上のアイデアを提案した。

福井大生が、南越前町の庄宿の町並みを生かすべく、古民家をゲストハウスに改修し、そばや地酒といった高関産産物を取り入れた観光施設を提案し、町並みを呼び込む、若いうち感性で庄宿の魅力向上のアイデアを提案した。

福井大生が、南越前町の庄宿の町並みを生かすべく、古民家をゲストハウスに改修し、そばや地酒といった高関産産物を取り入れた観光施設を提案し、町並みを呼び込む、若いうち感性で庄宿の魅力向上のアイデアを提案した。

新聞記事

平成25年2月13日付け
建設工業新聞

福大生が住民に提案 今庄宿を再デザイン

魅力も 路地にも着眼

福大生が、南越前町の庄宿の町並みを生かすべく、古民家をゲストハウスに改修し、そばや地酒といった高関産産物を取り入れた観光施設を提案し、町並みを呼び込む、若いうち感性で庄宿の魅力向上のアイデアを提案した。

福大生が、南越前町の庄宿の町並みを生かすべく、古民家をゲストハウスに改修し、そばや地酒といった高関産産物を取り入れた観光施設を提案し、町並みを呼び込む、若いうち感性で庄宿の魅力向上のアイデアを提案した。

福大生が、南越前町の庄宿の町並みを生かすべく、古民家をゲストハウスに改修し、そばや地酒といった高関産産物を取り入れた観光施設を提案し、町並みを呼び込む、若いうち感性で庄宿の魅力向上のアイデアを提案した。

※掲載の記事は、福井新聞社、北陸工業新聞社の許諾を得て転載しています。

越前町 江波地区

農山漁村エリア



地区の特徴

漆喰の白壁が美しいどっしりした農家（伝統的民家）の風景が広がっている地区である。

目指す方向性

地域に残る伝統的民家や地域産材に誇りと愛着を持ってもらい、地域住民が主体となって伝統的民家の保全活動や地域産材の供給拡大のきっかけをつくる。

～取組内容1～

越前瓦の家紋表札づくり

実施日時	平成26年9月24日（水） 19時00分～21時30分
実施場所	宮崎コミュニティセンター
対象者	宮崎地区の住民 参加者30名
主催	福井県
協力	福井県瓦工業協同組合、宮崎地域コミュニティ運営委員会
講師	福井県瓦工業協同組合 総務理事 藤原 綱蔵氏
ねらい	越前町江波地区に数多く残る伝統的民家を構成する材料の一つ「越前瓦」を使って各家庭の家紋を彫った表札を作ることを通じ、伝統的民家に誇りと愛着を持ってもらうとともに、地元産業である越前瓦に親しんでもらうことで地域産材の利用拡大のきっかけにする。
プログラム	1. 越前瓦の特徴について 2. 越前瓦の家紋表札づくり
準備物	越前瓦粘土、へら 等

様子



最初に、講師から越前瓦の製造工程と特徴について、DVDを交えて説明してもらった。

<p style="text-align: center;">様 子</p>		<p>越前瓦の板荒地に、各家庭の家紋を彫った。</p>
		<p>ワークショップ後、乾燥・施釉・焼成して完成した。完成した作品は、越前まるごと元気フェアの会場で展示した。</p> <p>来場者からは「これはどこで売っているんですか？」や「今度、製作する教室があればぜひ教えてほしい」などの反響があった。</p>
		<p>完成した越前瓦の家紋表札を設置した様子。この表札の製作者は「表札を設置することで、誇りある伝統的民家と越前瓦を、来訪者に知ってもらいたい」と話していた。</p>
<p>新聞記事</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;">  <p style="text-align: center;">越前瓦の粘土で表札づくり 30人各様、家紋を図柄に</p> <p style="text-align: center;">(県の住教育)</p> <p>福井県は住教育の一環で24日、越前町宮崎地区の住民を対象にワークショップ「越前瓦の家紋表札づくり」を実施した。同町江波の宮崎コミュニティセンターで、男女合わせて30人が参加した。表札の材料は、越前町江波地区の伝統的民家で多くみられる越前瓦の粘土を使った。製作手順は参加者の各家庭それぞれの家紋を紙に印刷して粘土上に置き、鉛筆などで家紋を図柄として転写。そして専用道具のヘラを用い、境界線に沿いながら慎重に彫り進めた。参加者たちは福井県瓦工業協同組合青年部の助けもかりて懸命に作業に打ち込んだ。作業前には同組合役員の藤原綱蔵</p> <p style="text-align: right;">氏が越前瓦の製造工程（ヒラオ上映）や雪にも強く丈夫な特長点などを分かりやすく紹介した。県では、この企画を通してさらに伝統的民家に誇りと愛着を持ってもらい、地元産業である越前瓦に親んでもらうことを目的としている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>平成26年9月26日付け 建設工業新聞</p> </div>	

※掲載の記事は、北陸工業新聞社の許諾を得て転載しています。

美浜町 佐柿地区

歴史的まち並みエリア



地区の特徴

国吉城址のふもとに位置し、旧丹後街道沿いには趣のある町家が軒を連ねている。

目指す方向性

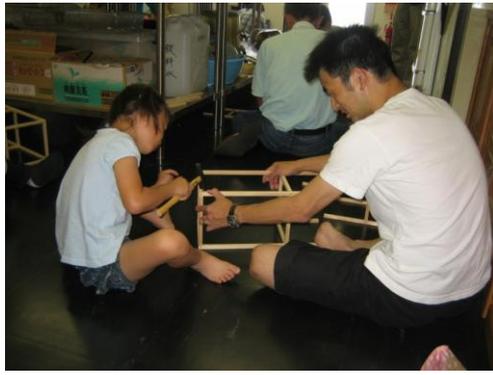
身近にできるまち並みづくりを通して、歴史的まち並みの保存への意識を持ってもらい、伝統的町家の改修へつなげる。

～取組内容1～

歴史的まち並みを演出する行灯づくり

実施日時	平成26年8月3日（日） 10時00分～12時00分
実施場所	国吉会館
対象者	佐柿地区の親子 参加者約30名
主催	福井県
協力	佐柿区、佐柿国吉会、若狭国吉城歴史資料館
ねらい	旧丹後街道沿いの町家は表構えの意匠が比較的統一化されていて、現在も情緒豊かなまち並み景観を形成している。このまち並み景観の風情を演出するために、佐柿地区にちなんだ行灯を住民自らが考え製作し、地元のまち並みや住まいに対する誇りと愛着を育んでもらう。納涼盆踊りをはじめ地区のイベントで行灯を設置することで、製作者はもちろん、ワークショップに参加しなかった住民にも、まち並みに関心を持ってもらう。
プログラム	1. 行灯の骨組を組み立てる 2. 和紙に佐柿にちなんだ文字や絵を描く
準備物	木材、釘、和紙 等
様子	 <p>最初に、佐柿区長から挨拶をもらった。 「歴史の趣あるまち並みが残る佐柿地区の風情を演出するため、地区のイベントごとに行灯を設置しよう」</p>

様 子



行灯の骨組を作った。釘を打つことが初めての子どもでも、サポートしてあげることによって製作できた。



骨組が完成してから、和紙に文字や絵を描いてた。各家庭の家紋については切り絵を貼って製作した。



完成した行灯を地区のイベントで設置した。写真は納涼盆踊りでの様子。来場者から「幻想的で佐柿のまちなみにぴったりだ」との声をいただいた。

新聞記事



平成26年8月6日付け
日刊県民福井



平成26年9月号
広報みはま

※掲載の記事は、日刊県民福井の許諾を得て転載しています。

高浜町 高浜地区

まちなかエリア



地区の特徴

高浜町のまちなかを通る旧丹後街道沿いには伝統的な町家が数多く残っている。うだつを持つ民家や、正面を塗籠めた民家が建ち並び、地区独特のまち並み景観が形成されている。

目指す方向性

高浜の地域特性を活かして、空き家の活用策を検討する。

～取組内容1～

自然素材の壁塗り体験

実施日時	平成26年5月18日（日） 13時00分～14時30分
実施場所	旧塩屋
対象者	高浜地区の住民 参加者約50名
主催	高浜建築建研究会
協力	福井県、高浜町 高浜まちづくりネットワーク、株式会社いきいきタウン高浜
ねらい	地域の風土や暮らしに調和した建築様式を知ってもらい、伝統的町家が残るまち並み景観に地域の方々が誇りと愛着を持ち、空き家活用を含めたまち並み景観の保全活動のきっかけを作るため、空き家だった「旧塩屋」をまちなか活性化拠点施設として改修する作業に地元住民に参加してもらおう。
プログラム	1. 壁塗り建材の特徴や作業手順について聞く 2. 壁塗り体験をする
準備物	コテ、コテ板、壁塗り建材 等

様子



十数年空き家だった「旧塩屋」をまちなか活性化拠点施設として改修。内装の改修作業を、地元住民に体験してもらった。

		<p>最初に、自然素材の壁塗り建材の特徴と作業手順を説明してもらった。</p>
<p>様 子</p>		<p>参加者による壁塗り体験。初めて体験する人がほとんどで最初は戸惑う人ばかりだったが、ワークショップ後半には慣れた手つきで壁塗りを行っていた。</p>
		<p>完成した壁をバックに記念撮影をした。自分たちの手で改修作業に携わったからこそ、愛着が湧くことだろう。</p>
<p>新聞記事</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> <p>町家の改修に関心をもち、高浜町三明の町家「旧塩屋」で行われたワークショップ</p> <p>町建築業組合青年部の体験するワークショップ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <h3>高浜住民ら改修に関心</h3> <h2>町家の壁塗り挑戦</h2>  <p>壁塗りに挑戦する子どもたち ＝高浜町三明の町家「旧塩屋」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>平成26年5月23日付け 福井新聞</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>有志でつくる高浜建築研究会が主催。地元住民ら50人が参加した。旧塩屋は、空き家の旧商家を町が購入し、まちづくり拠点として活用。空き家の利活用モデルとする狙いもあり、同会が改修を進めている。</p> <p>この日はカフェスペースの壁塗りに挑戦した。こてをしながら、15平方メートルの壁に、塗り壁材を2時間ほどかけて塗った。素手で塗り始める子どももあり、個性的な模様ができ上がっていた。</p> <p>カフェスペースの完成は来年春ごろを予定。今後も改修が体験できるワークショップを開く。</p> <p>(前田佳寿)</p> </div> </div>	

※掲載の記事は、福井新聞社の許諾を得て転載しています。

おい町 名田庄地区

農山漁村エリア



地区の特徴

ふるさとの原風景とも言うべき茅葺き屋根の民家が今も数軒残り、訪れた人を落ち着いた気持ちにさせてくれる里山風景が広がる地域である。

目指す方向性

茅葺き屋根の民家が残る里山風景の保全につなげる。

～取組内容1～

茅葺きの秘密基地をつくろう～茅刈り体験～

実施日時	平成25年11月23日(土) 13時00分～15時00分
実施場所	小浜市中名田地区のふるさと文化財の森センター周辺の茅場
対象者	中名田地区の住民 参加者12名
主催	福井県
協力	森の郷なかなた産物組合 奥名田児童センター、NPO法人森林楽校・森んこ、おい町
講師	森の郷なかなた産物組合 組合長 中野 幸男氏
ねらい	茅に親んでもらい、茅葺き屋根の残る里山風景について地域の方々が誇りと愛着を持ち、茅葺き民家の保全活動のきっかけを作るため、茅葺きの秘密基地づくりを行う。今回はその材料調達のために、茅刈り体験を行った。
プログラム	1. 茅にまつわる話を聞く 2. 茅刈りの手順と注意事項を聞く 3. 茅刈り体験をする
準備物	厚手のゴム手袋、鎌 等
様子	 <p>まず最初に、小浜市で茅生産をしている森の郷なかなた産物組合の組合長から、茅の特徴と茅刈り時の注意事項について説明してもらった。</p>

		<p>刈った茅を数本集めて、茎についている葉を熊手で鋤いて整え、わらで束ねた。</p>
<p>様 子</p>		<p>刈り取って束ねた茅を乾燥させるため、穂を上にして寄せ掛けた。この状態で越冬させて、十分に乾燥させた茅を春に収穫する。</p>
		<p>最後に、茅刈り体験の参加者たちで記念撮影をした。今回刈り取った茅を使って、次回の秘密基地をつくる。</p>
<p>新聞記事</p>	<div data-bbox="443 1294 852 2047" data-label="Complex-Block"> <p>地域の中で受け継がれてきた住まいなどを学ぶワークショップ「かやぶきの秘密基地を作ろう～カヤ刈り体験～」が23日、小浜市深野のカヤ場で開催された。</p> <p>住まい、町並みなどの優れた住環境に関心を持ってもらおうと県が企画。かやぶき民家が数軒残るおおい町名田</p> <p>＝県住環境ワークショップ＝</p> <p>小浜で束ね作業挑戦</p> <p>庄地区の住民らに呼び掛け、小学生を中心に約15人が参加した。</p> <p>カヤ生産に取り組む「森の郷なかなた産物組合」の組合員が、カヤの束ね方を実演、子どもたちは見よう見まねで挑戦した。来年5月ごろ、名田庄地区の奥名田児童センターで、今回束ねたカヤを使い秘密基地を作る計画。</p> <p>参加した清水優羽君（名田庄小2年）は「カヤが屋根になるなんて知らなかった。最初難しかったけど教えてもらい上手に束ねることができるようになった」と話していた。</p>  <p>カヤを結んで束ねる児童＝23日、小浜市深野</p> </div>	<p>← 平成25年11月24日付け 福井新聞</p>

※掲載の記事は、福井新聞社の許諾を得て転載しています。

～取組内容2～ 茅葺きの秘密基地をつくろう～茅葺き体験～	
実施日時	平成26年5月31日（土） 13時30分～16時30分
実施場所	奥名田児童センター
対象者	名田庄地区の住民 参加者75名
主催	福井県
共催	一般社団法人福井県建築士会若狭支部
協力	森の郷なかなた産物組合、奥名田児童センター NPO法人森林楽校・森んこ、おおい町立名田庄小学校、おおい町
講師	森の郷なかなた産物組合 組合長 中野 幸男氏
ねらい	茅に親しんでもらい、茅葺屋根の残る里山風景について地域の方々が誇りと愛着を持ち、茅葺民家の保全活動のきっかけを作るため、茅葺の秘密基地づくりを行う。今回は、前回に刈った茅を使って子どもたちが日頃から活用できる秘密基地をつくった。
プログラム	1. 茅の特徴について話を聞く 2. 茅葺きの手順と注意事項を聞く 3. 茅を葺いて秘密基地をつくる
準備物	厚手のゴム手袋、茅、竹、わら縄 等
様子	 <p>最初に、森の郷なかなた産物組合の組合長から、茅の特徴と茅の葺き方について説明してもらった。 なお、秘密基地の骨組は、ワークショップ開催までに、福井県建築士会若狭支部の方々に組み立ててもらった。</p>
	 <p>講師の指導のもと、骨組に茅を一束ずつ葺いていった。</p>
	 <p>秘密基地の上部については大人が茅を葺き、はさみで切りそろえた。</p>

		<p>完成した茅葺きの秘密基地の様子。</p>
<p>様 子</p>		<p>完成した茅葺きの秘密基地をバックに記念撮影をした。</p>
		<p>さっそく秘密基地を体感する子どもたちは楽しそうだった。</p>
<p>新聞記事</p>	<div data-bbox="416 1290 823 1921" data-label="Image">  </div> <div data-bbox="416 1854 823 1921" data-label="Caption"> <p>カヤで秘密基地、を作る子どもたち＝31日、おおい町名田庄井上の奥名田児童センター</p> </div> <div data-bbox="823 1290 1453 1921" data-label="Text"> <p>県住環境ワークショップ カヤで秘密基地できた！ おおい児童、昨年刈り取り</p> <p>地域の中で受け継がれてきた住まいなどを学ぶ「住まい、町並みなど優庄地区の小学生や保護者」が企画したワークショップが31日、おおい町名田庄井上の奥名田児童センターで開かれた。カヤの束を取り組んで高さ2メートルほどの円すい形の骨組みが用意された。子どもたちが昨年刈り取ったカヤを使って、狭支部などが協力。かやの束を取り付けて、秘密基地を作った。ふき民家が数軒残る名田庄井上で縄で固定。隙間がなければ、雨漏りしない立派な秘密基地になると聞いた朝君（名田庄小3年）は「力を入れて縄を縛るの」話（前田佳寿人）</p> </div> <div data-bbox="746 1962 1214 2063" data-label="Text"> <p>平成26年6月1日付け 福井新聞</p> </div>	

※掲載の記事は、福井新聞社の許諾を得て転載しています。

若狭町 天徳寺地区

郊外エリア



地区の特徴

名水・瓜割の滝のふもとに位置し、エコで魅力ある地域づくりを目指す「若狭瓜割エコビレッジ構想」を推進している。

目指す方向性

身近にできるまち並みづくりを通して、自然環境への配慮とまち並みづくりに対する意識向上を図る。

～取組内容1～

家紋入りすだれづくり

実施日時	平成26年7月13日(日) 13時00分～15時00分
実施場所	天徳寺会館
対象者	天徳寺地区の住民 参加者21名
主催	福井県、若狭瓜割エコビレッジ推進委員会
協力	三宅公民館、三宅地区地域づくり協議会、天徳寺区、若狭町
ねらい	すだれは、日陰をつくりながらも風を通す、環境・省エネに配慮した素材であると同時に、まち並み景観を形成する素材でもある。そこで、各家庭の家紋を刷り込みオリジナルのすだれを作ること、昔の生活の知恵を知ってもらい、統一感のあるすだれを各家庭の軒先に吊るすことでまち並み景観に連続性を持たせ、まち並みづくりに対する意識向上を図る。
プログラム	1. 若狭瓜割エコビレッジ構想について 2. 家紋入りすだれづくり
準備物	すだれ、型紙、カッターナイフ、ラッカースプレー 等
様子	 <p>まず最初に、天徳寺区長および若狭瓜割エコビレッジ推進委員会の委員長から、ワークショップ開催の趣旨と挨拶をもらった。</p>

様子



次に、各家庭の家紋を印刷した型紙をカッターナイフで切り抜いた。



最後に、型紙をすだれに固定し、周りを新聞紙等で養生してスプレーを吹き付けた。スプレーを吹き付けると風で型紙が浮き上がるため、写真のように網で押さえながらすることで、家紋がくっきり刷り込まれる。



完成した家紋入りすだれを、若狭瓜割り名水まつりに合わせて吊るしてもらった。製作者から「すだれに家紋が入っているので愛着が湧く。通りから見える場所に吊るして、天徳寺区の景観づくりや環境配慮活動などの取組みをPRしたい」との感想をもらった。

新聞記事



平成26年7月18日付け
福井新聞

※掲載の記事は、福井新聞社の許諾を得て転載しています。

4 宮大工による体験講座

～取組内容～	
実施日 および 対象者	平成24年 6月13日(水) 鯖江市立豊小学校 5年生67名
	平成24年 6月22日(金) 坂井市立東十郷小学校 6年生68名
	平成24年11月14日(水) 大野市立有終西小学校 5年生35名
	平成24年11月21日(水) 勝山市立成器南小学校 5年生78名
	平成25年 7月 9日(火) 永平寺町立志比南小学校 5・6年生44名
	平成25年10月10日(木) 高浜町立高浜小学校 5年生48名
	平成25年10月18日(金) おおい町立名田庄小学校 5年生24名
	平成25年12月 6日(金) 小浜市立遠敷小学校 5年生34名
	平成26年10月 8日(水) 池田町立池田小学校 5・6年生33名
	平成26年10月15日(水) 美浜町立弥美小学校 5・6年生50名
	平成26年10月30日(木) 越前町立宮崎小学校 5年生43名
	平成26年10月31日(金) あわら市立金津小学校 5年生87名
	平成26年11月19日(水) 若狭町立三宅小学校 6年生19名
主催	福井県
協力	一般社団法人 福井県建築組合連合会 小浜市、小浜市立遠敷小学校 永平寺町、永平寺町立志比南小学校 大野市、大野市立有終西小学校 池田町、池田町立池田小学校 勝山市、勝山市立成器南小学校 越前町、越前町立宮崎小学校 鯖江市、鯖江市立豊小学校 美浜町、美浜町立弥美小学校 あわら市、あわら市立金津小学校 高浜町、高浜町立高浜小学校 坂井市、坂井市立東十郷小学校 おおい町、おおい町立名田庄小学校 若狭町、若狭町立三宅小学校
講師 (敬称略)	[宮大工] 直井 光男 直井建築 代表  福井県越前市在住。日本を代表する宮大工・西岡常一棟梁のもとで薬師寺金堂・西塔(奈良県)の復元工事に携わる。福井県内でも、大塩八幡宮(国指定重要文化財・越前市)や大滝神社(国指定重要文化財・越前市)、舎人門(福井市)、御廊下橋(福井市)の修復・再建工などを手掛ける。 平成24年に秋の叙勲「旭日単光章」を受章
	[宮大工] 田中 健一 田中工務店 代表  福井県永平寺町在住。宮大工の父のもとで建築大工見習いとして修業し、昭和33年に独立して永平寺町に田中工務店を設立した。永平寺不老閣(永平寺町)や出雲大社拝殿(島根県)など、福井県内外の数多くの社寺建築に携わる。

講 師 (敬称略)	<p>[宮 大 工] 山口 文温 山口建築 代表</p>  <p>福井県小浜市在住。明通寺三重塔（国宝・小浜市）や神宮寺本堂（国指定重要文化財・小浜市）、妙楽寺本堂・厨子（国指定重要文化財・小浜市）、飯盛寺本堂・厨子（国指定重要文化財・小浜市）などの修復工事に携わる。</p>
	<p>[住文化専門家] 国京 克巳 国京克巳建築設計工房 代表</p>  <p>若越建築文化研究所代表／福井工業大学非常勤講師 福井県坂井市在住。東京工業大学大学院を修了後、平成10年に若越建築文化研究所を開設した。朝倉氏遺跡武家屋敷（福井市）、御廊下橋（福井市）、舍人門（福井市）の復元工事や、瑞源寺（県指定文化財・福井市）の修復工事の設計・監理など、歴史的建築物の工事に携わる。</p>
	<p>[大工]</p> <p>畑 宣雄 近藤 秋仁 西川 晃治 池田 高康 山神 義史 末本 隆一 大林 彰 松井 登 川口 明 江信 末雄 川口 健一 山本 亘 久保 勝二 宮腰 祐一 岩佐 幸次</p>
ね ら い	<p>近年は木造建築現場において、木材や大工技術の良さを見る機会が少なくなっている。そこで、子ども達が本物の木材や大工道具や大工の技を見て、実際にかんな削り等を体験することで、素晴らしさを肌で感じてもらい住文化に関心を持ってもらう。</p>
様 子	 <p>①和釘について 小学5年生の国語の教科書に掲載されている「和釘」に実際に触れてもらう。 (所要時間：約5分)</p> <p>[準備物] 和釘、洋釘</p>
	 <p>②伝統建築の技術について 釘や金物を使わず、木に切り込みなどの加工を施してはめ合わせる技術「木組み」について説明する。 (所要時間：約10分)</p> <p>[準備物] 三重塔図面、心柱模型、木組み模型</p>



③木組みの取り外し体験

木組み模型を使い、子どもたちに木組みを取り外し・取り付けをしてもらう。

(所要時間：約10分)

[準備物]

木組み模型



④大工道具の説明

木組みを加工する道具など、大工道具について説明する。

(所要時間：約15分)

[準備物]

ノコギリ、カナヅチ、ノミ、カンナ、チョウナ 等



⑤墨付け体験

大工道具の一つ「墨壺」を使って、代表者に線を引いてもらう。

(所要時間：約5分)

[準備物]

墨壺、木材



⑥ヤリガンナ掛け体験

大工指導のもと、子どもたちにヤリガンナ掛けを体験してもらう。

(所要時間：約10～20分)

[準備物]

ヤリガンナ、木材(板材)、作業台



⑦カンナ掛け体験

大工指導のもと、子どもたちにカンナ掛けを体験してもらう。

(所要時間：約10～20分)

[準備物]

カンナ、木材(柱材)、作業台



⑧大工による実演（マサカリ）
丸い木材から製材する過程を子どもたちに見学してもらう。最初に、マサカリ作業をする。
（所要時間：約5分）

〔準備物〕
マサカリ、木材（丸太）、作業台



⑨大工による実演（チョウナ）
マサカリ作業後、チョウナ作業をする。
（所要時間：約5分）

〔準備物〕
チョウナ、木材（丸太）、作業台



⑩大工による実演（マサカリ）
チョウナ作業後、ヤリガンナ作業をする。それぞれの作業による木材の肌触りの違いを子どもたちに体験してもらう。
（所要時間：約5分）

〔準備物〕
ヤリガンナ、木材（丸太）、作業台

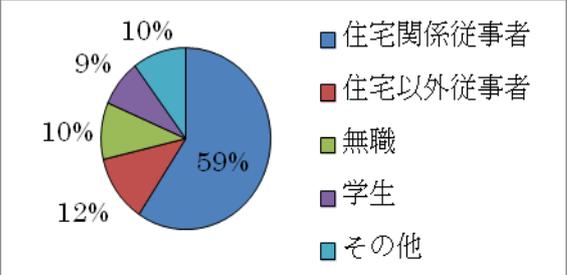
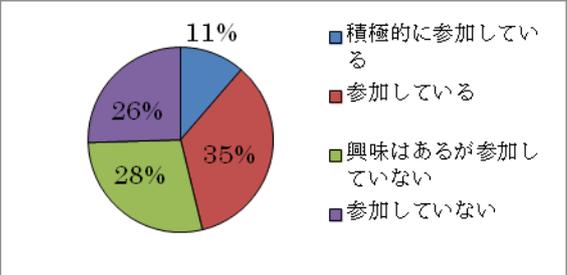
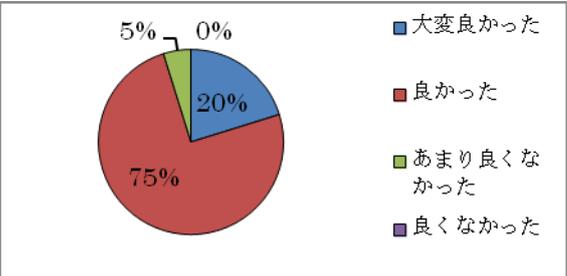


⑪質疑応答
子どもたちからの質問に対して、講師が答える。
（所要時間：約5分）

※体験講座のさらに詳しい内容については、別冊の『住教育 宮大工による体験講座「伝統建築文化に触れよう」実績集』をご参照ください。

5 住教育シンポジウム

～取組内容～	
実施日時	平成24年10月27日(土) 10時30分～12時40分
実施場所	福井県産業会館 本館2階
ねらい	県民に広く住教育について知ってもらい、モデル地区での取り組み内容を参考にしてもらうため、基調講演とパネルディスカッションを行い、自分たちの住むまち並みや住まいをより良い資産として子や孫の世代まで残す活動を実践するためのきっかけづくりにつなげる。
参加者	一般県民 143名
プログラム	1 基調講演(10時30分～11時20分) 演題「地域資源を活用した住まい・まちづくり学習」 2 パネルディスカッション(11時30分～12時40分)
出演者 (敬称略)	<p>●基調講演 講師、パネルディスカッション コメンテーター</p> <p>碓田 智子 / 大阪教育大学教育学部教養学科 教授 博士(学術) 大阪市立大学大学院博士後期課程修了。福井大学教育地域科学部に2002年9月まで勤め、2002年10月に大阪教育大学教育学部へ移籍。大阪市立住まいのミュージアムや兵庫県神戸市などの住教育にかかわっている。専門分野は、住居学、住環境教育など。</p> <p>●パネルディスカッション コーディネーター</p> <p>五十嵐 啓 / 福井工業大学建築生活環境学科 准教授 京都大学工学部建築学科卒業。ゼネコンの設計部で数多くの建築物の設計に携わる。専門分野は、都市計画、建築計画など。</p> <p>●パネルディスカッション パネリスト</p> <p>[越前市タンス町界限]</p> <p>小川 利男 / 社団法人福井県建築士会南越支部 郷土の歴史や文化を継承するため、建築士会南越支部や武生ルネサンス、武生立葵会に参画し、幅広いまちづくり活動をしている。</p> <p>[南越前町今庄宿]</p> <p>朝倉 英俊 / NPO法人今庄旅籠塾事務局長 今庄の町並みや文化の保全継承を進めるなど、今庄地区の活性化のため住民主体の自立したまちづくりを目指し活動をしている。</p> <p>[勝山市片瀬地区]</p> <p>石畝 正樹 / 社団法人福井県建築士会勝山支部 勝山青年会議所理事長や勝山市エコミュージアム協議会長などを歴任し、地域に根差したまちづくり活動をしている。</p> <p>[鯖江市吉江地区]</p> <p>高島 信義 / 立待公民館前館長、たちまち子ども文楽団長 平成24年3月まで立待公民館長を務め、6月に「たちまち子ども文楽」を発足するなど、地元の町づくり活動をしている。</p>

<p>様 子</p>	 <p>基調講演</p>	 <p>パネルディスカッション</p>
<p>アンケート結果 (抜粋)</p>	<p>参加者の職種</p> <p>まちづくり活動に参加していますか</p> <p>シンポジウムの内容はどうでしたか</p> <p>[自由意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源として、まつりやしつらい等の文化的側面がまちづくりの機運醸成を図ることが多いことが分かった。 ・ 子どもたちにいろんな体験をさせていることはとても素晴らしいことだと思う。少しでも興味を持ってもらい、次の世代に伝えていってほしい。 ・ 住まいを教材に子どもたちに伝統を伝えることは、とても大切なことだと感じた。 ・ 発表のあった事例はどれもよかった。私も地元の伝統的な文化の保存会に所属しているので、まち並みの維持、いや向上のため、積極的に参加していきます。 ・ まちおこしイベントとして、ひなまつりイベントを行っている地域がたくさんあるようだが、こういった住民自身が参加することにより、自身の住むまち並みの良さを知る良い機会であると感じる。 	  

※シンポジウムの議事録等さらに詳しい内容については、別冊の『住教育シンポジウムの内容』をご参照ください。

6 次の世代へ

越前・若狭の豊かな多様性を次の世代へ

(一緒に残しませんか。ふるさとふくいの風景と通りと家と…、記憶とともに)

●福井市日新地区[郊外]

—地域の宝を掘り起し—

福井市日新地区では、平成23年11月に日新公民館に地域住民らを集め「家族のつながり・地域のつながり」の工夫をテーマに、福井工業大学建築学科准教授五十嵐啓氏、デザイン学科准教授吉野剛氏の指導のもと、学生による設計コンペを実施しました。「壁のない家」や「縁側を道路に伸ばす」など、縁側のような内と外のつながりについてユニークなプランが次々発表され、住民相互のコミュニケーションを図るためのアイデアについて住民らの関心を高めました。地域の方々による今後の活動方針を考える際の参考になったものと推察されます。

また、平成24年8月に日新地区の小中学生14人が今庄宿を訪問し、NPO法人今庄旅籠塾のメンバーと交流しました。子どもらは、今庄宿有数の旧家、京藤甚五郎家住宅（県指定有形文化財）を見学しました。広い土間から一続きになったいろいろや客間を見て「広い」「思ったより涼しい」「いろいろなところが工夫されていた」などと興味を示し、「残していくのにこんなにも苦労があるとは知らなかった」などと話していました。子どもらにとって昔の住まいを守る大切さと大変さを学んだ一日でした。

平成26年3月に地区住民が公民館活動の一環として「日新かるた見て歩きMAPパンフレット」を作成し、全戸に配布しました。子供からお年寄りまで三世代がMAPを片手に地区を巡って魅力を再発見する取組が始動しました。



提案発表会での作品

●敦賀市舟溜り地区[歴史的まち並み]

—学生たちによる手製のれんで名商店街を再生—

敦賀の博物館通りは長さ約240メートル。敦賀港が繁栄した明治から昭和初期まで市内で最もにぎわった商店街で、近代建築物の市立博物館（旧大和田銀行本店）や敦賀酒造など木造建築物が混在する舟溜り地区を代表する通りとなっています。

この地区では、平成21年度に地域住民による景観形成協議会が立ち上がり、景観づくりの取組が進められております。

舟溜り地区における敦賀工高生による商店や民家の軒先を飾る草木染の暖簾づくりは、景観や歴史的なまち並みに対する生徒の関心を高めるとともに、景観づくりの住民活動を後押しする効果があったと思われます。

まち並み景観に連続性を持たせることを目的に地域ぐるみで学生と住民が主体的に取り組んだ今回の活動が高く評価され、「第4回ふるさと福井景観広告賞」に選ばれました。

舟溜り地区では、平成25年に地区住民・大学・市の協議会が地区内の長屋を改修し、テナントを募集しました。

女性からのヒアリング結果を踏まえてテナント業種を決定した結果、市内の商業経営者3者が、カフェとパン屋と雑貨屋を同年10月にオープンしました。市立博物館の改修や道路の高質化も行われており、歴史的な雰囲気作りが官民挙げて進むなど、歴史的まち並み景観を活かした「にぎわいづくり」が始まっています。



暖簾を掲出している様子



第4回ふるさと福井景観広告賞表彰式



町家改修の様子（敦賀市相生町）

●小浜市遠敷地区[歴史的まち並み]

—旧丹後街道の隠れた名宿場町—

小浜市遠敷地区は、北陸から丹後地方を結ぶ旧丹後街道沿いに位置し、鯖街道の一つとして多くの人や物が行き来しました。特に遠敷地区は若狭小浜の中心で、意外に知られていませんが近世には宿場町として発展しました。古くから商店や民家が建ち並び、現在も江戸時代の町家が残るなど伝統的なまち並みが形成されています。平成26年2月に県の伝統的民家群保存活用推進地区に指定されました。

旧丹後街道沿いの遠敷5区（検見坂、池田、市場、島、中村）は平成26年10月に「遠敷丹後街道まちなみ保存推進会」を設置し、街道の一角を住民や観光客らが憩う場として整備するほか、昭和30年代の街道一帯を描いた看板を設置するなど、歴史的なまち並み景観を活かし、往時のにぎわいを取り戻すための取組が始動しました。今も残る町家の風情を活かし、まずは地域の方々によるおもてなしの機運を盛り上げる活動から始めています。



一輪挿し設置の様子



整備された憩いの場



丹後街道にぎわい遠敷昔絵図（看板）

●大野市大野地区[まちなか]

—小京都の空き家空き地対策に学生のアイデアを—

福井大学の学生が、建築建設工学科教授野嶋慎二氏の指導のもと練り上げた空き家や空き地を活用した小京都大野ならではのまちづくりについて、学生目線でのユニークな提案を地区住民に対して発表しました。

空き家や蔵を改装して住民が持ち寄った古本や楽器、置物などを展示する趣味の共有スペースをつくる計画や、除雪にも配慮した名水の町ならではの川を活かした家づくり、複数の空き家を二世帯住宅とする町家の住まい、空き家に図書館や食堂、ホールなどを設け憩いの空間とする案、空き地を通常は休憩地やコミュニティの場に使い、災害時には通信基地にする防災ポケットパーク構想など、様々な提案がありました。

産学官連携の取り組みに積極的な福井大学では、県の住教育に対する協力に積極的に呼応し、大学にとっても求める生きた教材となり、地域貢献への足掛かりとなるとして歓迎していただきました。

地区の方々にとっても、第三者の目が入ることで課題がより明確化され、非現実的な部分もあるが新しい発見等があり、触発されるきっかけになったものと思われます。



町家改修の様子（大野市元町）



町家改修の様子（大野市明倫町）

●勝山市片瀬地区[郊外]

—家紋入りすだれで涼しく、竹プランターで美しく—

古民家が多く、西向きに集落が形成されている片瀬地区で、愛着がある家紋をすだれに入れて取り付けやすくし、地域の景観づくりとあわせて省エネルギーにつなげることをねらいに実施しました。また、地区の裏山では太くて美しい孟宗竹が多く取れることをヒントに、竹によるプランターづくりも実施しました。各家庭では、家紋入りすだれや竹プランターを玄関先において、地域の景観づくりに一役買っています。

地元の方が気軽に取り組めるこうした取組は、住民による景観づくり運動として他の地区にも波及していくことをねらっています。

さらに、こうした取組を通じ、今後改築等を考える際にこの家紋入りすだれがなじむ外観にしようといった地区の方々の機運醸成につながることを期待しています。



竹プランター設置の様子



家紋入りすだれ設置の様子



地区住民主体による木の端材を使ったプランターづくり



●鯖江市吉江地区[歴史的まち並み]

—手製の行灯と一輪挿しで七曲り通りの観月会—

鯖江市吉江町界隈は吉江藩の城下町で「吉江七曲り」は敵が侵入しても容易に通り返けられないように七つの鉤型に曲がった城下町特有の道路割りで、その形態が昔のまま残っています。かつては商人屋敷が建ち並んでいましたが、現在も伝統的な町家や農家が混在し、塀垣などとともに独特のまち並みが残っています。

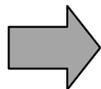
地区の吉江七曲り通りに沿う、歴史的まち並みの雰囲気大切にしようと、子どもも親も参加し、行灯と一輪挿しをつくりました。毎年9月に開催されている立待月観月の夕べには、玄関にわらで作った一輪挿しが、通りには行灯のあたたかい光が歴史的風景を醸し出し、このまち並みを大切にしようとする機運が醸成されています。



行灯設置の様子



一輪挿し設置の様子



伝統的民家改修の様子（鯖江市吉江町）

●あわら市新富地区[まちなか]

—北陸新幹線金沢開業に向け、おもてなし機運を盛り上げ—

あわら市の旧金津地区は、江戸時代には北陸道の要衝として旅籠屋、問屋、妓楼が軒を連ねる宿場町、商業の町として栄え、竹田川を經由して三国湊との交流も活発に行われていました。このころ、参勤交代の殿様が宿泊される際に本陣に箸や食器などの日用品で飾り物をつくり、もてなしたのが「本陣飾り物」です。この本陣飾り物をつくる伝統は370年余り経つ今でも金津祭りに欠かすことのできないものとなっています。

平成27年3月14日に北陸新幹線が金沢まで開業します。福井県の北の玄関口である芦原温泉駅を中心に多くの観光客を迎えるにあたり、おもてなしの機運を盛り上げるため、わらでつくった一輪挿しを通りに面して掲げていくことになりました。

プランターによる花のまちづくりや駅前の空き店舗活用にも取り組み、次世代の交流拠点づくりの機運を高めています。



一輪挿し設置の様子



ハンギングバスケット設置の様子



フラワーサポート協議会による「花の作品展 in あわら」(にぎわい交流広場)



●越前市タンス町界隈[歴史的まち並み]

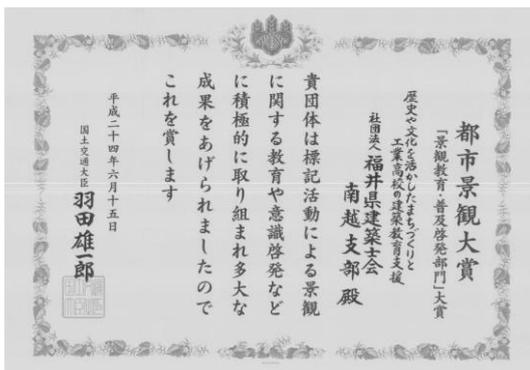
—タンス町界隈を古地図片手にそぞろ歩き—

平成24年6月に建築士会南越支部が、景観に関する教育や意識啓発、町家の改修等の取組に対し国土交通大臣賞を受賞し、平成26年にはタンス町界隈（約20ha）が、条例に基づく越前市初の景観形成地区に指定されました。

今後、この地区内では、例えば屋外広告物は、木製など落ち着いた素材としなければなりません。

平成24年11月にNHKの探索散歩型番組として人気の「ブラタモリ」のチーフプロデューサー尾関憲一氏を招き、番組誕生の舞台裏やまち歩きのコツを伝授していただきました。講演では、「何でもないところをいかに面白く見せるか、そのためにも現場を歩くことが一番大事。資料にも出てこない新しい発見がある。」とし、まち歩きの魅力や楽しみ方を聴きました。講演のあと、尾関氏と参加者が地元の建築関係者が作成した江戸時代の古地図を片手に中心市街地の旧武生郵便局や武生公会堂記念館など歴史的価値のある建造物や曲がりくねった路地などを散策しました。

古地図を片手に、歴史的まち並みを散策する観光客がチラホラ見られ始めました。また、町家の改修だけでなく、電柱の広告物等を撤去するなど、地域住民のまち並み景観に対する意識の向上が芽生えつつあります。



都市景観大賞



まち並み散策（尾関氏）



伝統的民家改修の様子（越前市元町）

●坂井市東十郷地区[農山漁村]

—子どもたちのアイデアを参考にシンボルツリーのある住宅地を分譲—

平成24年、25年の2カ年に渡り住教育で子ども達と地区内を探索し、田園風景の中の住まいが畑と一緒にいることの良さや、縁側を介して地域とつながるコミュニケーションの大切さ、庭にある立派なタブの木陰のやさしさを学び、生まれた在所の良さを再発見し、もっと好きになりました。

地域の有志が中心となって、約1,200坪の団地を開発し、80坪台以上のゆとりある宅地8区画を、県産材をできるだけ用いた木造住宅を建てるなどの建築緑化ガイドラインに基づく住民協定を締結できる方にコモン（共用地）付で分譲し始めました。

コモンに菜園コーナーを設けることや、コモンが地域とつながるコミュニケーションの場となるように住宅の部屋を配置すること、コモンを屋敷林の雰囲気を目指してシンボルツリーのタブの木をはじめとした雑木林にすることなどの協定内容は、住教育活動の中で子ども達が発見した地域の宝が基になっていると、代表の方は話してくれました。将来、大きく育ったタブの木の木漏れ日の中で、子ども達が楽しく遊ぶ姿が目に見えそうです。



エコヴィレッジ居住予定者による植栽作業



植栽後の様子



「上新庄エコヴィレッジ」計画当初のイメージ

●永平寺町京善地区[農山漁村]

—伝統的古民家を保存・継承へ—

大本山永平寺に至る道中にある京善地区には、越前瓦葺きの古民家や土蔵が多く残り、平成25年3月に県の伝統的民家群保存活用推進地区に指定されました。この指定を地区の内外にPRするため、看板をつくって伝統的民家推進を宣言しています。

平成26年11月に、福井の伝統的民家で多くみられる越前瓦用の粘土を使った家紋表札づくりを行いました。各家庭では、家紋表札を玄関先において、地域の景観づくりに一役買っています。

伝統的民家に愛着と誇りを持ってもらうことを目的に開催したワークショップを通じ、住民による伝統的民家の保存・継承活動が盛り上がることを期待しております。



地区入口の看板



越前瓦の家紋表札設置の様子



土蔵の改修（永平寺町京善）

●池田町稲荷地区[農山漁村]

—国指定重要文化財の堀口家住宅の風格再び—

池田町稲荷にある国指定重要文化財「堀口家住宅」の保存修理工事が行われ、平成27年2月に改修を終えました。2年かけて約40年ぶりの大改修を終えた建物は真新しい茅が葺かれ、堂々とした風格が再び現れました。

住宅は、入母屋造り茅葺き平入りで、広さは約120㎡。傷みの激しかった屋根の茅を全面葺き替え、柱や梁の部分的な補修、土塗り箇所塗り直し、筋交い等の耐震補強を行いました。池田小・中・高生が屋根の全面葺き替え作業工程を見学したほか、葺き替え作業を実際に体験するなど、40年に一度という歴史的な場面に立ち会うことができました。完成後、ぜひ見学してもらい、往時の代表的な農家の暮らしに思いを巡らせてほしいです。



茅葺き体験の様子



茅を葺き終えた堀口家住宅

●南越前町今庄宿[歴史的まち並み]

—今庄宿プロジェクト始動—

平成24年に、同じく住教育活動を行っている福井市日新地区の小学生たちが今庄宿をJRで訪問し、タイムスリップ体験を話し合いました。

この地区の歴史的まち並み保存を進めるNPO法人今庄旅籠塾は、理事長をはじめメンバーに建築士が多いことが幸いし、空き家となった伝統的民家の若狭屋や旧京藤甚五郎家の改修を中心に、平成26年度から今庄宿プロジェクトとして35の事業に着手しています。

今庄は、江戸時代を通じ宿場として越前で最も繁栄しました。初代福井藩主の結城秀康は、北陸道を整備するにあたり今庄については重要な宿駅として計画的なまち並みを造らせました。文化年間（1804年～1818年）には、街道に沿って北から上町、観音町、中町、古町、新町の5町あり、そのまち並みは約1キロメートルに及び、家屋が櫛の歯のようにぎっしりと建て込んでいました。特に中町には、福井藩、加賀藩の本陣や脇本陣、問屋、そして多くの造り酒屋、旅籠が集まり、高札場もありました。

今庄宿のある北国街道は、江戸参勤には最短路であり、越前各藩は必ずと言ってよいほど当宿を利用しました。江戸時代中期以降は、商用や京への寺参り、伊勢参りなどの旅人の宿泊が急増し繁忙を極めたとされています。

往時の名残が多く残る今庄宿の再生を図るため、古民家町家の改修や利活用の他、街道の街灯や看板類、舗装など、建物を含めた街道景観の佇まいを往年の姿に戻すべく、地域住民が中心となって奮闘しています。



今庄宿プロジェクトの様子



古民家改修の様子（南越前町今庄）

●越前町江波地区[農山漁村]

—地元の伝統産品を古民家でPR—

江波地区には、地域の文化とともに洗練されてきた特有の形態・意匠をもった伝統的民家が数多く存在し、特に、漆喰（しっくい）の白壁が美しいどっしりとした農家の風景が広がっており、「福井ふるさと百景」にも選ばれています。

福井の伝統的民家で多く見られ、地域産業でもある越前瓦用の粘土を使った家紋表札づくりを行いました。

製作手順は、参加者それぞれの家紋を紙に印刷して一辺約20cmの粘土上に置き、鉛筆でなぞって家紋の図柄を転写し、専用道具のへらを用いて慎重に彫り進めました。作業前には、福井県瓦工業協同組合から、越前瓦の製造工程や雪にも強く丈夫な特徴等をわかりやすく紹介しました。

各家庭では、焼きあがった家紋表札を玄関先に置いて、地域の景観づくりに一役買っています。伝統的民家に愛着と誇りを持ってもらうことを目的に開催したワークショップを通じ、住民による伝統的民家の保存・継承活動の盛り上がりや、地域産業である越前瓦の利用促進につながることを期待しています。



イベントでの作品展示の様子



越前瓦の家紋表札設置の様子

●美浜町佐柿地区[歴史的まち並み]

—国吉城下の佇まいを再び—

美浜町佐柿地区は国吉城跡のふもとに位置し、旧丹後街道沿いには旧商家が建ち並び歴史的な趣のあるまち並みを形成しています。

国吉城は、今から450年ほど前に築かれた若狭国東方の山城で、越前朝倉氏の侵攻を10年近くにわたって撃退し続け、後に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三英傑を迎え入れました。佐柿の町は、国吉城の城下町として整備され、江戸時代には宿場として栄えました。現在も、当時を彷彿とさせるまち並みや風情が色濃く残っています。

越前和紙に家紋や切り絵を貼った行灯をつくり、地区の夏祭りや国吉城まつり等の際には通りに並べるなど、歴史的な雰囲気づくりに努めています。



地区イベントでの行灯設置の様子

●高浜町高浜地区[まちなか]

—若い力で「旧塩屋」を再生、まちに賑わいを取り戻せ—

福井大学の学生ら（卒業生含む）による丹後街道沿いに残る昔ながらのまち並みを活かしたまちづくりが進められています。高浜町が購入した町家の「旧塩屋」を拠点としてまちづくり活動が進められています。

高浜建築建究会（地元建築業組合青年部有志）を中心に、町内の建物を風土や暮らしに合わせた建築様式で改修し、機能的でかつ美しい建物やまち並みづくりを応援しています。



まちづくり活動拠点「旧塩屋」



景観向上アイデア集



伝統的民家改修の様子（高浜町宮崎）

●おおい町名田庄地区[農山漁村]

—茅（カヤ）による竪穴式住居出現—

名田庄地区は、平安時代の有名な陰陽家・安倍晴明を始祖とする土御門家ゆかりの地として知られています。集落の中には昔ながらの茅葺き屋根も見え、誰もが懐かしさを覚える山里の風景が広がっていますが、近年、特に茅葺き屋根の民家が急速にその数を減らしています。

地域の中で受け継がれてきた茅葺きを子どもたちに体験してもらうことを目的に、茅生産に取り組む「森の郷なかなた産物組合」や県建築士会若狭支部の協力を得て、茅を使った“秘密基地”（ミニ竪穴式住居）をつくりました。

奥名田児童センターに竹を使った高さ2.5m程度の円すい形の骨組みを用意し、子どもたちが骨組みの周囲に茅の束を取り付けて縄で固定、茅を隙間なく取り付け雨漏りしない立派な秘密基地を完成させました。今回使用した茅は、子どもたちが前年秋に同組合の茅場で刈り取り一冬乾燥させたものを利用しました。

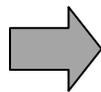
今回の体験で子どもたちは茅が屋根の材料として使われていたことに驚き、雨漏りせず断熱性に優れ、軽い材料であることを学び、先人の知恵に感心していました。



茅葺きの建物（流星館）



茅葺きの秘密基地（ミニ竪穴式住居）



伝統的民家改修の様子（おおい町名田庄納田終）

●若狭町天徳寺地区[郊外]

—名水の里でエコビレッジを—

若狭町天徳寺地区は、名水百選に選定されている瓜割の滝を活かし、省エネで持続可能な地域づくりを目指す「若狭瓜割エコビレッジ構想」を掲げています。

活動を進めるため、昔ながらのすだれで涼をとるとともに、地域の景観統一を図るため参加者それぞれの家紋を入れています。

毎年8月に若狭瓜割名水公園で開催される「若狭瓜割名水まつり」の開催に合わせ、出来上がったすだれを軒先に吊るし、まつりを盛り上げることができました。

まち並み景観に連続性を持たせることを目的に地域ぐるみで住民が主体的に取り組んだ今回の活動が高く評価され、「第5回ふるさと福井景観広告賞」に選ばれました。



家紋入りすだれ設置の様子



第5回ふるさと福井景観広告賞表彰式

(参考資料) 参加募集チラシ、マニュアル、配布資料

ワークショップを開催するにあたり、チラシで参加を呼び掛けたり、製作手順を示したマニュアルを配布したりしましたので、その資料をここに転載します。

なお、個人情報等の都合により、実際に配布したチラシ等から修正している部分がありますが、ご了承ください。

目 次

■参加募集チラシ

暖簾お披露目会	88
提案発表会	90
講演会	92
保存修理現場見学会	94
残したい風景探し	95
茅刈り体験	97
茅葺きの秘密基地づくり	99
一輪挿しづくり	101
行灯づくり	102
越前瓦の家紋表札づくり	103
家紋入りすだれづくり	104
シンポジウム	105

■マニュアル

行灯づくり	106
越前瓦の家紋表札づくり	107
家紋入りすだれづくり	108
竹プランターづくり	109

■配布資料

暖簾づくり(草木染について)	111
暖簾お披露目会(暖簾作品一覧)	114
古地図散歩	117
残したい風景探し(残したい風景一覧)	118
一輪挿しづくり(わらの特徴について)	122
家紋入りすだれづくり(すだれの効果について)	123
住まいの絵本	124
体験講座「伝統建築文化に触れよう」テキスト	126
シンポジウム	127

地域住民の皆様へ

舟溜り地区 住教(共)育

まち並みを演出する暖簾のお披露目会の開催について

福井県土木部建築住宅課長

福井県では、自分たちの住んでいる地域の良さに気付き、誇りと愛着を持ち、次の世代に住環境（住まい、まち並み、住まい方）をより良い形で継承することを目的に、平成 23 年度より県内各地で住教育に取り組んでおります。この度、住教育の一環で敦賀工業高等学校建築システム科の学生が、まち並みを演出するために各種専門の講師の指導を受け、暖簾を製作しました。

そこで、学生が製作した暖簾のお披露目会を下記のとおり開催いたします。お気軽にご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 : 平成 25 年 3 月 15 日（金） 14:00～
2. 場 所 : 相生町会館
敦賀市相生町 12-4
3. 発表者 : 福井県立敦賀工業高等学校 建築システム科 1 年生
4. 内 容 : 舟溜り地区のまち並みを演出する暖簾のお披露目
デザインコンセプトの発表
暖簾の設置
5. 協 力 : 敦賀市、博物館通り景観形成協議会

■担当
福井県土木部建築住宅課
住宅計画G
電話：0776-20-0505

舟溜り地区のまち並みを暖簾で演出

舟溜り地区にある博物館通りは、かつて銀行や郵便局、商店などが建ち並び、敦賀市でもっとも賑わった通りの一つです。現在も当時の様子をうかがうことのできる、近代建築物の敦賀市立博物館（旧大和田銀行本店）や、敦賀酒造をはじめとする木造和風建築物が共存しており、敦賀の歴史を伝える貴重なまち並み景観です。



これまで、旧大和田銀行の博物館としての保全、地域活性化に向けた晴明の朝市の開催、景観形成推進計画に基づいた外観整備、地元の奥様方を中心とした吊るし雛飾りなどが行われてきました。今年は町家三軒の改修などが予定されています。このように、地域住民の方々が主体となって、行政と共働してまち並みを守り育ててきました。



今回、舟溜り地区のまち並みを演出するために、敦賀工業高等学校の学生に暖簾を製作してもらいました。地元で建築を学ぶ学生が、実際に博物館通りを散策し、敦賀市立博物館長の川村俊彦氏より舟溜り地区の歴史を学びました。それを踏まえ、福井県デザイナー協会会長で仁愛女子短期大学教授の西畑敏秀氏のご指導のもと暖簾をデザインし、草木染職人の石川雅夫氏のご指導のもと暖簾を草木染しました。

学生も地元の人たちの前で緊張しながらも一生懸命発表してまいります。温かく見守りながら発表会に参加していただければ幸いです。

大野地区住民の皆様へ

大野地区住教育講座

学生による空き地や空き家を活用したまちづくりデザイン提案発表会

福井県土木部建築住宅課長

福井県では、住まいの質を高めて、より暮らしやすく、豊かな住生活を実現していくために、住教育に取り組んでおります。この度、大野地区におきまして、福井大学工学部建築建設工学科の野嶋慎二教授・菊地吉信准教授のご協力のもと、住教育講座「学生による空き地や空き家を活用したまちづくりデザイン提案発表会」を開催いたします。

テーマは「空き地や空き家を活用した魅力ある生活環境の実現」です。人口の減少や高齢化社会の到来は全国的な課題です。その結果として空き地・空き家が増加し、地域コミュニティや景観の喪失などの問題が生じており、大野地区においても例外ではありません。大野地区は、南北に走る街路樹網や用水路など城下町の町割りを今日に残している、歴史的に価値のある地域です。大野の良さを次世代へつなぐため、大学生の感性で空き地・空き家を活用して新しい住まい方やまちなか住宅の提案がなされることと存じます。

それぞれの発表を通して、地域の皆様方に、市街地の再生に関する新たな視点や考え方をお持ち帰りいただけたら幸いです。お気軽にご参加くださいますよう申し上げます。

記

日時：平成24年7月27日（金） 15:00～
場所：大野市城町9番1号
学びの里「めいりん」 1階ランチルーム
発表者：福井大学3回生
内容：大野市の市街地にある空き地・空き家を活用した、
新しい住まい方やまちなか住宅の提案
参加費：無料
協力：福井大学工学部建築建設工学科

■担当
福井県土木部建築住宅課住宅計画G
電話：0776-20-0505

テーマ：空き地や空き家を活用した魅力ある生活環境の実現

大野市街地は、1580年に金森長近により天守閣が築かれたことに始まりました。碁盤目状に街路が構成され、南北に用水路や背割り水路が走っています。400年余りを経た今でもその町並みが残る歴史と情緒あふれる町となっています。



歴史的価値のある市街地が形成されてきた一方で、昨今では中心市街地の居住者の減少に伴い、空き地・空き家が増加してきて、地域コミュニティや歴史的景観が喪失しつつあります。



そこで、空き地・空き家を活用して、新しい住まい方やまちなか住宅の提案を大学生におこなっていただきます。学生も地元の人たちの前で緊張しながらも一生懸命発表していただきます。参加者の皆様も、温かく見守りながら発表会に参加していただき、新たな視点や考え方をもち帰りいただければ幸いです。

NHKの人気番組「プラタモリ」のチーフ・プロデューサー尾関憲一さんが

越前市のまちなかをブラ武生！



■まちづくり講演会

演題：まち歩きで発見！「土地の記憶」

～探索散歩番組「プラタモリ」制作の舞台裏～

講師：「プラタモリ」チーフ・プロデューサー 尾関憲一 氏



〔プロフィール〕

- ・早稲田大学教育学部卒
- ・NHK制作局エンターテインメント番組部チーフ・プロデューサー
- ・主な担当番組
「プラタモリ」、「天才てれびくん」、「BS まんが夜話」
「迷宮美術館」、「東京カワイイ☆TV」他

■まちなか散歩

古地図を片手に江戸時代の風情が残るまちなかの自由散策

■日時 平成24年11月10日（土）13：30～17：00
受付は12時30分から

■会場 越前市生涯学習センター 5階講堂（越前市役所北側）

■定員 150名（参加無料）

■申込 裏面の参加申込書を平成24年11月1日（木）までにFAXまたはメールでお申し込みください。

なお、電話による申込を希望される方は下記までご連絡ください。

- ・福井県土木部建築住宅課住宅計画グループ 0776-20-0505
- ・（社）福井県建築士会南越支部事務局 0778-24-4788

■主催：福井県

■共催：越前市、（社）福井県建築士会南越支部

■後援：越前市教育委員会、NHK福井放送局、福井新聞社

■協力：府中まちなか博物館連絡会



3単位

□福井県土木部建築住宅課住宅計画グループ 宛

(Mail)kenjyu@pref.fukui.lg.jp

(Fax)0776-20-0693

□(社)福井県建築士会南越支部

(Mail)sanwa.eng@cu.ttn.ne.jp

(Fax)0778-24-4779

※申込締切日
平成24年11月1日(木)
先着150名

「まちづくり講演会とまちなか散歩」参加申込書

申込日	平成24年 月 日	所属団体	
申込者氏名		申込者住所	
連絡先	(Tel)	(Mail or Fax)	

※問合せ先:福井県土木部建築住宅課 松本(0776-20-0505)

【講習会会場】

越前市生涯学習センター(越前市役所の裏側に駐車場があります)



国指定重要文化財

住教育

主催：池田町教育委員会
協力：福井県

堀口家住宅 保存修理現場見学会



「堀口家住宅」は、江戸時代中期に建てられた民家を昭和47年に解体・復原した、国の重要文化財です。かやぶき屋根はこれまで定期的な手入れを行ってききましたが、全体的な腐朽が進んだので、この度、屋根の全面ふき替えと、木部や土壁、三和土など、42年ぶりに大きな修理を行うこととなりました。

5月の見学会では、屋根のかやが全て取り除かれた状態で、軸組の様子がよく見学いただけました。今回は、かやぶき作業の説明を中心に見学会を開催します。

【とき】平成26年9月27日(土)

■午前の部…10時30分より

■午後の部…13時30分より

【ところ】堀口家住宅 (池田町稲荷)

【内容】・住宅の見学と概要説明

・かやぶき作業の説明

※屋根は、足場より間近でご覧いただきますので、靴履きでお越しください。

【定員】各回 40名

【申込み】事前準備もあるため、ご参加の方は別紙にご記入ください。

【備考】当日15時から、ヘリテージマネージャー講習
及び建築士会南越支部の視察研修予定あり



自家用車で各自来場ください。
近くの池田町役場駐車場をご利用ください。

修理現場から

文化力

POWER OF CULTURE

住教(共)育ワークショップ

「見つけよう！ 上新庄の残したい風景」

平成25年**7月27日**（土）

8:00～15:00（受付7:30～）

場所：上新庄集落センター

主催：上新庄区子ども会、福井県

参加費

1人200円
（昼食代）



昨年度は、上新庄のお宝を発見するワークショップにたくさんの方々にご参加いただきました。今年度は、上新庄の残したい風景を探すワークショップを開催いたします。上新庄に昔からある良い風景や、上新庄に最近増えてきた良い風景を残すため、集落内を歩いて探し、みんなで残したい風景について話し合しましょう。

夏休みの宿題（日記、絵、自由研究、壁新聞など）の材料になるかも！

●持ち物

筆記用具、はさみ、のり、カレー用のお皿とスプーン、マイカップ、水筒、タオル

●対象

上新庄区にお住まいの方々
（お子様、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんなど、幅広くご参加ください。）



●当日のプログラム（予定）

- ◆昨年度のワークショップを振り返ってみよう
- ◆昔の上新庄はどんな感じだったのかな？
- ◆むら歩き&農家住宅体験
- ◆お昼ごはん
- ◆残したい風景をまとめよう
- ◆残したい風景を発表しよう
- ◆残したい風景をみんなで選ぼう
- ◆感想・講評



裏面につづくよ



● 上新庄の昔の風景写真募集

30年以上前（昭和50年代以前）の上新庄の風景が写りこんでいる写真を探しています。昔の上新庄がどんな雰囲気だったかを、ワークショップ当日に紹介したいと思っています。お持ちの方は、下記の子ども会役員へ7月15日までにお持ちください。後日、スキャンしてお返しいたします。

- ・今は無いけど、昔はこんなものがあつたんだよ！
 - ・昔はこんな遊びをしていたんだよ！
- などが分かる写真をぜひご提供ください



● 参加申し込み先および問合せ先

準備の都合上、当日の参加人数を把握したいので、参加希望者は7月21日（日）までに、下記内容を子ども会役員まで電話、FAXまたは持参にて申し込みください。

また、ワークショップの内容についてのご質問は、福井県土木部建築住宅課までお問い合わせください。



【参加申し込み先、写真持参先】

上新庄区子ども会役員 ■■
 坂井市坂井町上新庄●-●（左図の赤丸）
 TEL/FAX 0776-▲▲-▲▲▲▲

【ワークショップ内容問合せ先】

福井県土木部建築住宅課住宅計画G
 TEL 0776-20-0505
 E-mail kenju@pref.fukui.lg.jp

キリ

住教育ワークショップ（7/27）参加申込書

連絡先	住所	
	電話番号	

参加者（子ども） ふりがな 氏名	学年	参加者（大人） ふりがな 氏名	年齢
	未就学・小学（ ）年 中学（ ）年・その他		20代・30代・40代 50代・60代以上
	未就学・小学（ ）年 中学（ ）年・その他		20代・30代・40代 50代・60代以上
	未就学・小学（ ）年 中学（ ）年・その他		20代・30代・40代 50代・60代以上
	未就学・小学（ ）年 中学（ ）年・その他		20代・30代・40代 50代・60代以上

住教(共)育ワークショップ 茅葺の秘密基地を作ろう～茅刈り体験～

平成25年**11月23日**（土）13時00分～16時00分

（雨天時は**24日**（日）13時00分～に順延します）

場所：小浜市中名田地区

各自、裏面の集合場所までお越しください

主催：福井県

協力：奥名田児童センター、森の郷なかなた産物組合
NPO法人森林楽校・森んこ

参加費

無料



福井県では、地域の特性に応じた福井の「住まい」「まち並み」「住まい方」をより良い資産として次の世代に継承していくために、住教育に取り組んでいます。

さて、里山風景の象徴である茅葺民家は、名田庄地区にはかつてたくさん建っていました。たとえ生活様式が変わろうと、名田庄の原風景とも言える茅葺民家はいつまでも大切にしたいですね。

そこで、子どもたちが日頃から活用できる茅葺の秘密基地を奥名田児童センターにつくるワークショップを企画しました。このワークショップを通じて皆さんに茅に親しんでもらい、茅葺の良さを改めて体感していただければと思います。

●対象

- 茅刈り体験に興味のある方
- ※小学4年生以上推奨です
- ※中学生以下は保護者同伴をお願いします
- ※現地集合・現地解散となります



茅刈りの様子だよ



下の写真のような秘密基地を作るよ



●服装

- 屋外活動に適した服装
- （長袖、長ズボン、ゴム手袋、長靴など）

●全体の流れ（予定）

- ◆第1回～茅刈り体験～
ふるさと文化財の森センター周辺にて秘密基地の材料である茅を刈ります。
- ◆第2回～秘密基地づくり～
平成26年5月頃開催予定
刈った茅を使って秘密基地を作ります。
（詳細は後日お知らせします。）

今回



裏面につづくよ



●集合場所の位置図

住所：小浜市深野7-11-1



●参加申し込み先

準備の都合上、当日の参加人数を事前に把握したいので、参加を希望する方は下記内容を**11月15日（金）**までに、福井県土木部建築住宅課あてに電話、ファックスまたはメールにて申し込みください。

福井県土木部建築住宅課

TEL 0776-20-0505

FAX 0776-20-0693

メール kenjyu@pref.fukui.lg.jp

●雨天時の連絡方法

雨天時は24日に順延します。その際、フェイスブックページ「福井県の住教育活動」において、当日のイベントの有無をお知らせいたします。

福井県の住教育活動

検索



「福井県の住教育活動」で検索するか、左のQRコードをお読み取りください。

キリリ

住教育ワークショップ（茅刈り体験） 参加申込書			
連絡先	住所		
	電話番号		
参加児童 氏名	学年	参加保護者 氏名	関係
	小学（ ）年生		父・母・祖父・祖母 その他（ ）
	小学（ ）年生		父・母・祖父・祖母 その他（ ）
	小学（ ）年生		父・母・祖父・祖母 その他（ ）



昨年に奥名田児童センター利用の子どもたちが刈った茅を乾燥させている様子（小浜市中名田地区）

名田庄地区にはかつて、茅葺き民家がたくさんありました。しかし、最近はあまり見かけなくなり、茅に親しむ機会はほとんどありません。そこで、茅葺きの良さを体験してもらうため、奥名田児童センターに茅葺きの秘密基地づくりを企画しました。ぜひご参加ください。

※お子様がご参加する際には、保護者も必ずご参加ください。

参加費
無料



開催日時

平成26年5月31日（土）午後1時30分～
雨天時は、①6月1日（日）②6月7日（土）③6月8日（日）の順に順延します。

開催場所

奥名田児童センター
大飯郡おおい町名田庄井上16-41

対象者

奥名田児童センター登録の児童および保護者
その他、茅文化に興味のある方



服装・持ち物

屋外活動に適した服装（長袖、長ズボン、履きなれた靴）
ゴム手袋（軍手の場合は掌部分がゴム製のもの）、水筒

申込方法・締切

裏面の必要事項を記入の上、福井県土木部建築住宅課へ
FAX またはメールで申込みください。
FAX 0776-20-0693
メール kenjyu@pref.fukui.lg.jp
締切 平成26年5月16日（金）

主催等

主催：福井県
共催：（一社）福井県建築士会若狭支部
協力：森の郷なかなた産物組合、奥名田児童センター、NPO 法人森林楽校・森んこ名田庄小学校、おおい町

同時開催！



ジャンボジェンガで遊びながら、建物について学ぼう！

住教育ワークショップ～茅葺きの秘密基地をつくろう～			
提出先：福井県土木部建築住宅課 (FAX：0776-20-0693 E-mail：kenjyu@pref.fukui.lg.jp)			
連絡先	住所		
	電話番号		
参加児童 氏名	学年	参加保護者 氏名	児童との関係
	小学__年生		父・母・祖父・祖母 その他（ ）
	小学__年生		父・母・祖父・祖母 その他（ ）

キリトリ

●住教育とは

福井県では、地域の特性に応じた福井の「住まい」「まち並み」「住まい方」をより良い資産として次の世代に継承していくために、住教育に取り組んでいます。

さて、ここ名田庄地区にはかつて、里山風景の象徴である茅葺き民家がたくさん建っていました。生活様式などの変化に伴い減少してきましたが、名田庄の原風景とも言える茅葺き民家はいつまでも大切にしたいものです。

そこで、茅に触れる機会が少なくなった子どもたちが身近に茅に親しんでもらえるように、奥名田児童センターに茅葺きの秘密基地をつくるワークショップを企画しました。茅文化に興味のある方、ぜひご参加ください。



秘密基地の完成イメージ

●前回の茅刈り体験の様子（H25. 11. 23実施）



前回到刈った茅を使って、今回の秘密基地をつくるよ



① 茅の特長をみんなで学びました。

② 刈った茅をきれいに鋤きました。



③ 茅をまとめてわらで束ねました。

④ 参加者みんなで記念撮影をしました。



住教(共)育ワークショップ 歴史的まち並みを演出する一輪挿しづくり

平成27年 **2月9日** 月

●第1部 10:00～ 遠敷池田会館

●第2部 13:30～ 遠敷の郷会館

■参加費／無料

福井県では、地域の特性に応じた福井の「住まい」「まち並み」「住まい方」をより良い資産として次の世代に継承していくために、住教育に取り組んでいます。

さて遠敷地区は、丹後街道と鯖街道が交わり、いにしへの時代より若狭の政治・経済・文化の中心として栄えた地域です。現在でも、江戸期から明治期に建てられた重厚な商家の建物がまち並みを形成しています。この遠敷のまち並み風情を演出するため、遠敷地区の皆様と一緒に一輪挿しを手作りするワークショップを企画しました。

完成した一輪挿しを玄関先などに設置することで、遠敷地区のまち並み景観を一層引き立て、うるおいとやすらぎを提供し、遠敷地区を訪れる人に心からほっとしてもらえるようもてなしましょう。



■主催／福井県

■協力／検見坂・池田ふれあいサロン、遠敷の郷ふれあいサロン、遠敷丹後街道まちなみ保存推進会
(一社) 福井県建築士会若狭支部、遠敷公民館、小浜市

●対象

遠敷地区（検見坂、池田、市場、島、中村）にお住まいの方々

●持ち物

特になし
(道具・材料等は主催者が用意いたします)

●その他

申込み多数の場合2回に分ける場合があります。
(その際には別途連絡いたします)



●申込先

参加希望者は **1月26日(月)までに参加者名と連絡先を**
下記申込先にお知らせください。

申込先	遠敷（検見坂・池田）の方は	検見坂・池田ふれあいサロン
	遠敷（市場・島・中村）の方は	遠敷の郷ふれあいサロン

住教育ワークショップ 情緒豊かなまち並みを演出する、行灯づくり

日時：8月3日(日) 10:00～12:00

場所：国吉会館

主催：福井県

協力：佐柿区、佐柿国吉会
若狭国吉城歴史資料館

参加費

無料



福井県では、地域の特性に応じた福井の「住まい」「まち並み」「住まい方」をより良い資産として次の世代に継承していくために、住教育に取り組んでいます。

さて、ここ佐柿地区にある町家の大半は近現代に建替えられていますが、表構えの意匠は比較的統一化され、現在も情緒豊かなまち並み景観を形成しています。このまち並み景観の風情を演出するため、佐柿区の皆様オリジナルの行灯を作って設置してみませんか？佐柿のまち並みを、皆様が作った行灯の優しい光で包みましょう。

対象

佐柿区にお住まいの方々
※小学生以下のお子様に参加される場合は、保護者の方もご同伴ください

持ち物

習字セット・絵の具セット・筆ペンなど文字や絵を描くための道具、かなづち（行灯材料は主催者が用意します）

デザイン

行灯に描く絵や文字を、ワークショップ当日までに考えておいてください。
描く面はA4サイズ程度（縦29cm×幅20cm）の和紙が4面です。

右のデザインは一例です

佐柿のキャッチコピーや短歌などを書きましょう

佐柿にちなんだ絵などを描きましょう



各家の家紋を入れてもいいですね

製作者が分かるように名前または屋号を記入

参加申込先

準備の都合がありますので、参加希望者は7月27日(日)までに、下記内容をご記入の上、佐柿国吉会長にご提出ください。（24日の集金日に国吉会館で参加申し込みをすることもできます。）

なお、行灯に各家庭の家紋を描きたい方は、家紋がハッキリ分かる写真等を添付していただくか、申し込み時に家紋図鑑から選んでいただければ、当日にトレース用の家紋図柄を用意いたします。

キリトリ

参加 申込書	住所	美浜町佐柿	TEL	
	大人名		子ども氏名	

京善地区の皆様へ

住教(共)育ワークショップ 越前瓦の家紋表札づくり

平成26年**11月9日**(日)15:00~17:30

- 場 所 / 京善多目的集会センター
- 参加費 / 無料

福井県では、地域の特性に応じた福井の「住まい」「まち並み」「住まい方」をより良い資産として次の世代に継承していくために、住教育に取り組んでいます。

さて、京善地区には、銀鼠色の越前瓦が葺かれた切妻屋根と漆喰の白壁に屋根を支える構造材が縦横に美しく見える伝統的民家や漆喰に板張りの土蔵が多く残っており、平成24年度に「伝統的民家群保存活用推進地区」に指定されました。この家並みと集落の中央を流れる永平寺川と背後に広がる山々がマッチする集落風景は、京善区民だけでなく永平寺を訪れる人にとっても重要な財産です。

そこで、伝統的民家に誇りと愛着を持ってもらい、また、越前瓦をより身近に感じてもらうため、ワークショップを企画しました。各家庭の玄関先に飾る越前瓦の家紋表札をみなさんで作りましょう。



- 主催/福井県 ■協力/京善区、福井県瓦工業協同組合、(一社)福井県建築士会青年部、永平寺町

●対象

京善区にお住まいの方々
(1世帯につき1枚)

●服装

粘土を使って作業しますので、汚れてもよい服装でお越しください。

●内容

- ◆越前瓦の特長について
- ◆家紋表札づくり(粘土に家紋を彫ります)



●申込先

準備の都合のため、参加希望者は下記をご記入の上、家紋の図柄を添えて**10月19日(日)**までに**班長を通じて**ふるさと学級長にご提出ください。

キリトリ

参加申込書

京善区ふるさと学級長 様

参加者氏名		住所	永平寺町京善
表札の希望サイズ (いずれかに○)	・ 24cm×24cm	・ 27cm×27cm	・ 30cm×30cm
	(焼きあがると、上記寸法から1割程度小さくなります。)		
家紋の図柄	家紋の図柄がハッキリとわかるものを添えて提出してください。 (ふるさと学級長宅にある家紋図鑑から選ぶことも可能です。)		

環境に配慮した

【住教(共)育ワークショップ】

家紋入りすだれづくり

日時：平成 26年 7月 13日 (日) 13:00 ~ 14:30
 場所：天徳寺会館

福井県では、地域の特性に応じた福井の「住まい」「まち並み」「住まい方」をより良い資産として次の世代に継承していくために、住教育に取り組んでいます。

さて、東日本大震災以降、自然エネルギーへの関心が高まり、省エネに適した地域づくりが各地区で取り組まれています。エコで魅力ある地域づくりを目指す「若狭瓜割エコビレッジ構想」を推進されている天徳寺区の皆さんも、エコ活動の一環としてオリジナルの家紋入りすだれを作って吊るしませんか？

すだれは、日陰をつくりながらも風を通す、暑い夏を涼しく過ごすために先人が生み出した、環境に配慮した素材です。各家庭の家紋を刷り込んだオリジナルのすだれを作って吊るしましょう。

主催：福井県
 若狭瓜割エコビレッジ推進委員会
 協力：天徳寺区、三宅公民館
 三宅地区地域づくり協議会



● 持ち物

カッターナイフ、古新聞（1日分）
 すだれ（参加1世帯につき1枚は主催者が用意します。2枚以上作りた方は、お持ち下さい）

● 対象

天徳寺区にお住まいの方々（お子様、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんなど、幅広くご参加下さい）



● 当日のプログラム（予定）

- ◆ 若狭瓜割エコビレッジ構想について
- ◆ 家紋入りすだれ作成（家紋を型抜きして、すだれに刷り込む作業をします）



● 参加申し込み

準備の都合のため、参加を希望される方は下記申込書を記入の上、
6月29日(日)までに、**天徳寺区長**あてにお申し込み下さい。

キリトリ

参加者	氏名					住所				
すだれの大きさ	巾	88cm				176cm				
	丈	112cm	157cm	180cm	220cm	112cm	157cm	180cm	220cm	
希望の大きさに「○」→										
家紋の図柄	家紋がハッキリとわかるようにデジカメ等で撮影し、そのデータもしくは印刷したものを添えて提出して下さい。（区長宅にある家紋図鑑から選ぶことも可）									

住教育シンポジウム

「みんなで考えよう！ふくいに住まい方」
～次世代につなぐ ふくいに住まい、まち並み、住まい方～

平成24年10月27日（土）

10:30～12:40（受付10:00～）

福井県産業会館本館2階

福井市下六条町103番地

参加無料

CPD認定
講習[2単位]



●プログラム（敬称略）

◆基調講演

演題「地域資源を活かした住まい・まちづくり学習」

碓田 智子（大阪教育大学教授）

◆パネルディスカッション

◎コーディネーター

五十嵐 啓（福井工業大学准教授）

◎コメンテーター

碓田 智子（大阪教育大学教授）

◎パネリスト

・越前市タンス町界限

小川 利男

（社団法人福井県建築士会南越支部）

・南越前町今庄宿

朝倉 英俊

（NPO法人今庄旅籠塾 事務局長）

・勝山市片瀬地区

石畝 正樹

（社団法人福井県建築士会勝山支部）

・鯖江市吉江地区

高島 信義

（立待公民館前館長、たちまち子ども文楽団長）



お問い合わせ先／福井県土木部建築住宅課

〒910-8580 福井市大手3丁目17番1号

TEL 0776-20-0505 FAX 0776-20-0693

E-mail kenjyu@pref.fukui.lg.jp

主催／福井県

住教育ワークショップ 行灯製作手順

数字 釘を打つ順番

→ 釘を打つ方向

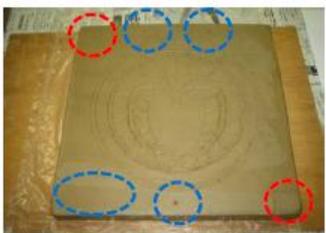
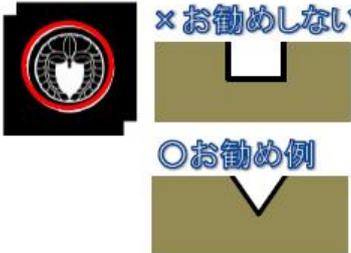
手順①	手順②	手順③
<p>木工ボンドと釘で上図のような骨組を作る。(材料に記入されている番号同士をくっつける)</p>	<p>手順①で作った骨組と同じものをもう一つ作る。</p>	<p>手順①②で作った骨組をつなげる。</p>

手順④	手順⑤			
<p>横架材の下段にろうそくを置く台を作る。</p>	<p>佐柿にちなんだ絵など</p>	<p>家紋(無い方は花菱に扇)</p>	<p>歴史と伝統が 息づく町 佐柿</p> <p>佐柿にちなんだ歌など</p>	<p>若狭国吉城主 粟屋越中守勝久</p> <p>製作者の名前 (屋号も可)</p>
	<p>和紙に、佐柿にちなんだ短歌やキャッチコピー、絵などを描く。(和紙の端から2cmほどには描かない方がよい)</p>			

手順⑥	手順⑦	完成
<p>和紙に絵などを描き終えたら、上図のように骨組を回り込ませるように木工ボンドで貼る。</p>	<p>和紙を4面貼りつけたら、アクリルラッカースプレー(透明)を塗布する。</p>	<p>完成です。お疲れ様でした。</p>

地区のイベント時に、佐柿のまち並み景観の風情を演出するために完成した行灯を設置しましょう。
福井県土木部建築住宅課

住教育ワークショップ 「越前瓦の家紋表札」製作手順

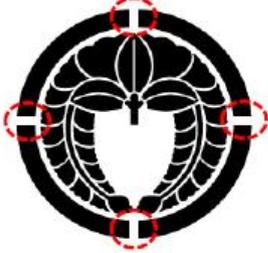
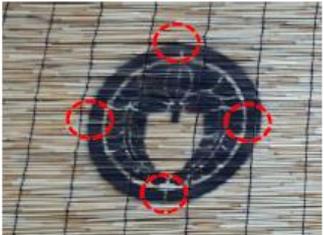
手順①	手順②	手順③
 <p>中央に名前を記入します。 (完成品の裏面になります)</p>	 <p>裏返して、粘土の上にラップを敷きます。</p>	 <p>ラップの上に家紋を印刷した紙を、位置を合わせて置きます。この時、端(赤点線部分)を少し折り曲げておきましょう。</p>
手順④	手順⑤	手順⑥
 <p>丸まった鉛筆で、白と黒の境界部分をなぞっていきます。(白部分が彫り込む部分です。)</p>	 <p>粘土に図柄が転写されます。赤丸部分も忘れないように転写してください。青丸部分は希望者のみ転写してください。</p>	 <p>へら等を使って粘土を彫っていきます。少し斜めに切り込むと、完成した時に立体感が出ます。</p>
手順⑦	手順⑧	手順⑨
 <p>特に左上図の赤丸部分などは、右下の断面図のように斜めに切り落とすようにしましょう。</p>	 <p>葉脈など細かい線は、溝をつけるだけで構いません。</p>	 <p>赤丸部分を切り落とし、青丸部分の穴をあけて(希望者のみ)作業は終了です。お疲れ様でした。</p>

失敗しても修正できますので、係員をお呼びください。

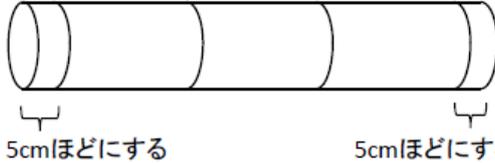
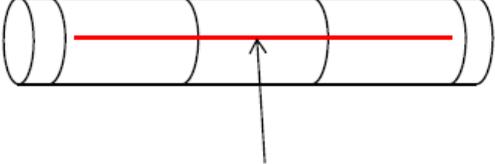
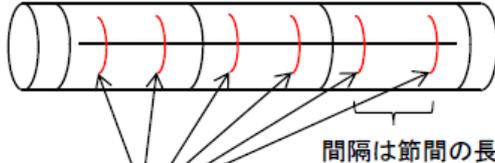
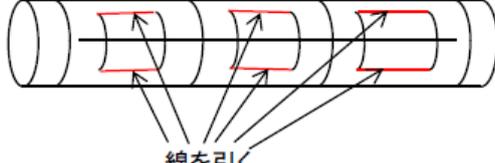
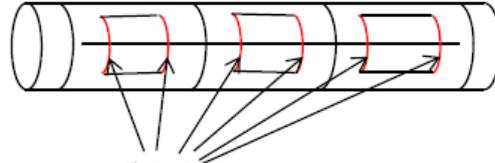
乾燥・焼成の過程で多少のひびが入ることがありますが、ご了承願います。

福井県瓦工業協同組合 ・ 福井県土木部建築住宅課

住教育ワークショップ「家紋入りすだれづくり」 製作手順

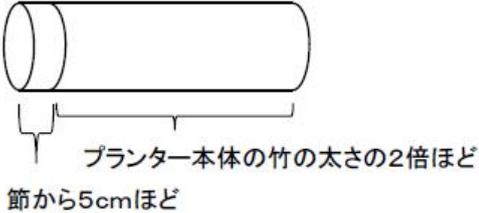
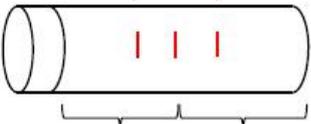
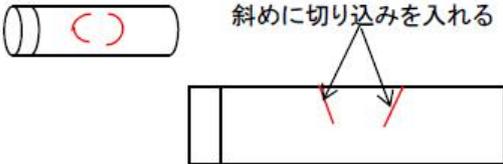
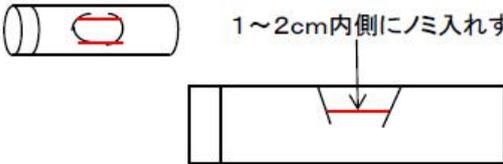
①		<p>家紋を印刷した型紙を用意します。 紙はケント紙（155kg）です。</p>
②		<p>印刷された黒い部分を切り抜きます。 切り抜く時に、白い部分が全部つながっている必要がありますので、家紋の図柄によっては左図の赤印のように、一部を切り抜かないように注意してください。 （本日用意した型紙には、すでに加工を施しています）</p>
③		<p>切り抜いた状態がこちらです。</p>
④		<p>新聞紙を敷いた上にすだれを置いて、切り抜いた型紙をスプレーのりまたはセロテープ等ですだれに貼り付けます。型紙の周囲にもスプレーが塗布される可能性がありますので、型紙の周りにも新聞紙を敷いて養生してください。</p>
⑤		<p>型紙の上から黒色のラッカースプレーを塗布します。 この時、パーベキュー用のアーチ形の網で型紙を押さえながらスプレー塗布すると、細い線もきれいに写ります。</p>
⑥		<p>型紙や新聞紙を取り除けば完成です。乾くまで（30分程度）は触らないように注意してください。 部分修正が必要な家紋は、黒色マジックで修正します。</p>

竹プランター 製作手順

①	 <p>5cmほどにする 5cmほどにする</p>	<p>まず、竹の節間3つのものを用意し、左右の節から5cmぐらいのところ切りそろえる。 寸法は大まかなもので結構です。</p>
②	 <p>線を引く</p>	<p>穴をあける部分の中心となる部分をまっすぐ線を引きます。</p>
③	 <p>線を引く 間隔は節間の長さの約半分</p>	<p>節間の長さの約半分ぐらいの間隔で線を引きます。竹の太さにもよりますが、②で引いた線を中心に7~8cmずつぐらいでよいでしょう。</p>
④	 <p>線を引く</p>	<p>③で引いた線の先端をそれぞれ線で結んでできる四角の線が穴をあける場所になります。</p>
⑤	 <p>のこぎりで切る</p>	<p>③で引いた線に沿ってノコギリで切ります。④で引いた線を多少超えるぐらいまで切る方がいいです。</p>
⑥	 <p>ノミで割りますが、④の線より1~2cm内側をまず割ってください</p>	<p>④で引いた線より1~2cm内側のところでノミを入れます。ノミは竹に対して斜めに入れると、割りやすいです。その後、④で引いた線のところでノミを入れます。</p>

裏面に続きます。

竹プランターづくり マニュアル (裏)

⑦	 <p>このように、角材を置いてドリルで穴あけする</p>	<p>⑥で穴をあけた側の反対側に、水抜きのための穴を開けます。節間の長さにもよりますが、節間あたり4～5個ぐらいずつ開けましょう。 ⑥で穴をあけたところを反対にする際、角材などを敷くと安定してドリルの穴あけができます。</p>
⑧	 <p>プランター本体の竹の太さの2倍ほど 節から5cmほど</p>	<p>土台は2本作ります。左図のように節1つものを切りそろえます。節から5cmと、プランター本体の竹の太さの2倍ほどの長さでそろえます。</p>
⑨	<p>プランター本体の竹の太さの半分ほどの長さ</p>  <p>大体半分ほどの位置に印</p>	<p>長い方の中心に印をつけ、その印を中心に、プランター本体の竹の太さの半分ほどの長さに印をつけます。</p>
⑩	 <p>斜めに切り込みを入れる</p> <p>【真横から見た図】</p>	<p>⑨で付けた印の両端をノコギリで斜めに切ります。土台用の竹の半分ほどの位置まで切ります。</p>
⑪	 <p>1～2cm内側にノミ入れする</p> <p>【真横から見た図】</p>	<p>⑩で切った先端より1～2cmの位置でノミを入れ、割ります。</p>
⑫		<p>土台にプランター本体を置いて完成です。お疲れ様でした。</p>

竹プランターに花を植え、村の人たちが見えるような場所に設置しましょう。
花を枯らさないように、適度な水やりを毎日行いましょう。
自分たちの地区が花で彩られると素敵ですね。

主催：福井県

草木染について

草木染とは

草木染とは、合成染料（化学染料）を用いた染色に対して、天然染料を用いた染色と区別するために、山崎斌（やまざき あきら）氏が作り出した呼称です。草木など植物由来の染料だけでなく、土や昆虫などの天然由来の染料も草木染に含まれます。

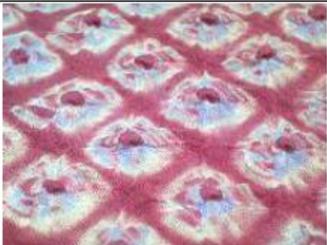
草木染の特徴

染料として使われる草木は漢方薬にも使われるもので、身体にやさしいものです。また、合成染料と違い何度でも染め直しができます。さらに、合成染料では表現できないような優しい色合いに染まります。ただし、染色の時期が決まっていたり、思い通りの色に染めることが難しかったりします。

染色方法

主に植物の葉、茎、根、実などを煮出した液に繊維を浸し、20分程度加熱し、染まった色素を金属イオンと結合させて発色させます。金属イオンとの結合を媒染といい、アルミニウム、銅、鉄分などを溶かした液に繊維を20分程度浸します。植物抽出液と媒染を繰り返すことで色素の繊維染着を良くし、染色濃度を上げます。

模様の付け方

<p>絞り染め</p>	<p>布の一部を縛るなどの方法で圧力をかけ、染料が染み込まないようにすることで模様を作り出す。</p>	
<p>ろうけつ染め</p>	<p>溶かした蝋を筆などで布に塗り、模様を描く。その布を染色して、蝋を水洗いして落とす。蝋を塗った部分は白く染め抜かれる。</p>	
<p>型染め</p>	<p>刃物でカットして作られる型紙を用いて、糊を塗ったり染料を塗ったりして模様を作り出す。</p>	

主な天然染料

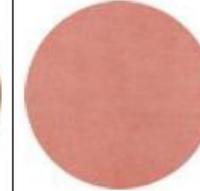
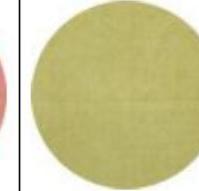
染料名	説明	写真	染色見本
アカネ (茜)	茜の根を生で用いると涼血・活血し、炒炭すると止血作用がある。 乾燥させた根は赤色の染料となる。		
ベンガラ (弁柄、紅殻)	土からとれる酸化鉄。 防虫、防腐の機能性から、家屋にもよく使われる。 赤色の染料となる。		
ラックダイ	カイガラムシからとれる。 止血の漢方薬として用いられる。 桃色～赤色の染料となる。		
クルミ (胡桃)	止咳、潤腸の漢方薬として用いられる。 乾燥させた実の外皮は茶色の染料となる。		
カキシブ (柿渋)	未熟な柿の果汁から作る。 防腐剤としても用いられる。 茶色の染料となる。		
ウコン (鬱金、宇金、 郁金、玉金)	香辛料や生薬として用いられる。 根茎は黄色の染料となる。		
カリヤス (刈安)	ススキに似た植物。 茎や葉は黄色の染料となる。		
クリ (栗)	美容、滋養の漢方薬として用いられる。 灰色の染料となる。		
アイ (藍)	解熱、殺菌の漢方薬として用いられる。 乾燥させた葉などは青色の染料となる。		
ヨモギ (蓬)	草餅などでも有名だが、葉は止血作用のある生薬でもある。 緑色の染料となる。		

今回の授業における草木染の手順

草木染の方法はいろいろありますが、今回の授業では手軽にできる以下の方法で行います。

1. 暖簾を下染めする（次頁参照）
2. 暖簾をベンガラ泥染めする（次頁参照）
3. 乾燥させる
4. 樹脂顔料でデザインする
5. 乾燥してからアイロンをかける

ベンガラ泥染めの色の種類

				
こしょく	うこん	こはく	あかね	てんちゃ

※水の量によって色の濃淡が変わってきます。

樹脂顔料について



【色の種類】

黄、オレンジ、赤、ローズ、紫、青、緑、茶、黒、白

絵の具のように、筆を使って描きます。

絵の具のように色を混ぜれば他の色を作ることができます。

乾いてから、仕上げにアイロンがけをすれば完成です。

舟溜り地区 住教(共)育

身近なまち並みづくり

～暖簾によるまち並み演出～



企画 福井県土木部建築住宅課
製作 福井県立教賀工業高等学校 建築システム科 1年

はじめに

舟溜り地区にある博物館通りは、かつて銀行や郵便局、商店などが建ち並び、教賀市でもっとも賑わった通りの一つです。現在も当時の様子をうかがうことのできる近代建築物の教賀市立博物館(旧大和田銀行本店)や、教賀酒造をはじめとする木造和風建築物が共存しており、教賀の歴史を今に伝えています。

これまで、旧大和田銀行の博物館としての保全、地域活性化に向けた晴明の朝市の開催、景観形成推進計画に基づいた外観整備、地元の方による手作りのおもてなしなどが行われてきました。今年度は町家三軒の改修などが予定されています。このように、地域住民の方々が主体となって、行政と共働りまち並みを守り育ててきました。

今回、舟溜り地区のまち並みを演出するために、教賀工業高等学校の学生が各種専門の講師の指導を受け、暖簾を製作しました。この暖簾が、今後のまちづくり活動の材料の一つとしてご活用いただければ幸いです。

教賀工業高等学校 住教育授業スケジュール一覧

回数	月日	プログラム	講師	
1	1月21日	住教育について	福井県土木部建築住宅課 主任	坂川 慶介
		舟溜り地区の景観について	教賀市都市整備部都市政策課 係長	百田 和幸
		草木染について	草木染工房 風雅	石川 雅夫
2	1月24日	デザインと社会との関わり	仁愛女子短期大学 教授	西畑 敏秀
		景観と屋外広告物について	福井県土木部都市計画課 主事	山本 理
3	1月28日	舟溜り地区の散策、現地調査		
		舟溜り地区の歴史等について	教賀市立博物館 館長	川村 俊彦
4	1月30日	デザイン作成1	仁愛女子短期大学 教授	西畑 敏秀
5	2月4日	デザイン作成2		
6	2月12日	デザイン作成3	仁愛女子短期大学 教授	西畑 敏秀
7	2月14日	デザイン作成4		
8	2月21日	草木染実習1	草木染工房 風雅	石川 雅夫
9	2月25日	草木染実習2	草木染工房 風雅	石川 雅夫
10	2月27日	学内での暖簾発表会		
11	3月15日	暖簾お披露目会		

-1-

講師紹介

草木染講師



草木染工房 風雅
石川 雅夫

福井市自然史博物館講師
ふくいカルチャーセンター講師
奥越地域地場産業振興センター手染めの会講師

【略歴】

- 1946 千葉県市川市出身
- 1969 京都大学大学院造園学専攻修士課程修了
- 1973 サンフランシスコ大学留学
- 1977 大阪ECC外語学院に英語教師として勤務する傍ら、趣味の草木染を専門的に研鑽する
- 1988 福井県美山町に移り、草木染作家活動に入る
- 1998 永平寺町に「草木染工房 風雅」を開設

デザイン講師



仁愛女子短期大学生活科学学科・生活環境専攻
ビジュアルコミュニケーションデザイン担当教授
西畑 敏秀

株式会社バウス・デザイン顧問
福井県デザイナー協会会長
FUCA(福井クリエイターズ・アソシエーション)代表
環境芸術学会会員
福井県屋外広告物審議会委員

【略歴】

- 1958 福井県丸岡町出身
- 1984 東京藝術大学大学院美術研究科形成デザイン専攻修了
- 1984 広告代理店 福井新聞PRセンター制作部
- 1992 株式会社バウス設立
- 1994 教賀女子短期大学(現教賀短期大学)・非常勤講師
- 1995 福井大学教育学部美術科・非常勤講師
- 1997 福井文化服装学院・兼任講師
- 1998 福井大学工学部環境設計工学科・非常勤講師
- 2001 福井大学教育地域科学部・准教授
- 2008 仁愛女子短期大学生活科学学科・教授

暖簾完成までの流れ

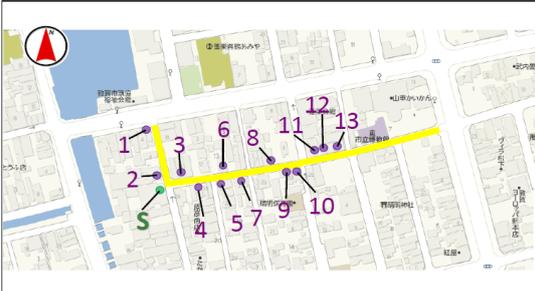


The flowchart consists of 11 numbered steps in rounded rectangular boxes, connected by arrows. Each box contains a small image and text describing the activity:

- 住教育** 福井県土木部 建築住宅課
- 舟溜り地区の景観** 教賀市都市整備部 都市政策課
- 草木染** 草木染工房 風雅 石川 雅夫氏
- デザインと社会との関わり** 仁愛女子短期大学 教授 西畑 敏秀氏
- 景観と屋外広告物について** 福井県土木部 都市計画課
- 現地調査** [建物所有者の意見聴取]
- 舟溜り地区の歴史** 教賀市立博物館 館長 川村 俊彦氏
- デザイン指導** 仁愛女子短期大学 教授 西畑 敏秀氏
- デザイン完成**
- 草木染[地染]** 草木染工房 風雅 石川 雅夫氏
- 草木染[型による色付け]** 草木染工房 風雅 石川 雅夫氏
- 暖簾完成**

-3-

暖簾設置場所一覧



番号	設置場所	建物の種類	暖簾寸法		制作者
			巾	丈	
1	高城酒店	店舗	170cm	90cm	教賀工業高等学校 1年生 2名
2	教賀酒造(南)	店舗	170cm	45cm	教賀工業高等学校 1年生 3名
3	M邸	住宅	170cm	45cm	教賀工業高等学校 1年生 3名
4	S邸	住宅	170cm	90cm	教賀工業高等学校 1年生 3名
5	K邸	住宅	170cm	45cm	教賀工業高等学校 1年生 3名
6	井垣商店	住宅・店舗	170cm	90cm	教賀工業高等学校 1年生 3名
7	安田文栄堂	住宅・店舗	170cm	90cm	教賀工業高等学校 1年生 3名
8	洋菓子工房ひらやま	店舗	85cm	90cm	教賀工業高等学校 1年生 3名
9	教賀市所有町家	空き家	170cm	150cm	教賀工業高等学校 1年生 3名
10	教賀市所有店舗	空き店舗	170cm	150cm	教賀工業高等学校 1年生 3名
11	柳さなだミート	店舗	170cm	90cm	教賀工業高等学校 1年生 3名
12	田だいしん	ギャラリー	170cm	90cm	教賀工業高等学校 1年生 3名
13	柳増田清商会	店舗	170cm	90cm	教賀工業高等学校 1年生 3名
S	教賀酒造(南)	店舗	180cm	150cm	製作:草木染工房 風雅 石川 雅夫 デザイン:福井県土木部建築住宅課

-4-

1	暖簾設置場所	高城酒店	建物の種類	店舗
	暖簾製作者	教賀工業高等学校 1年生 2名	暖簾寸法	巾 170cm 丈 90cm



設置場所



- 一目見て酒屋だと分かるようにした
- 酒ができるまでの様子を象形文字で表すこととし、左側には「田」の中に「米」の象形文字を入れ、右側には「水」と「酉」の象形文字を組み合わせて表した
- 高城さんの「と」を象形文字の中に取り入れた

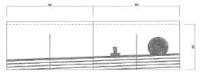


作品

2	暖簾設置場所	教賀酒造(南)	建物の種類	店舗
	暖簾製作者	教賀工業高等学校 1年生 3名	暖簾寸法	巾 170cm 丈 45cm



設置場所風景



- 教賀の海に沈む夕日をイメージした
- デザイン上のバランスを考え、夕日をあえて右の方に配置した
- 海には帆船を浮かべて、波のイメージの黒い線を斜めに入れた



作品

-5-

3	暖簾設置場所	M邸	建物の種類	住宅
	暖簾製作者	教賀工業高等学校 1年生 3名	暖簾寸法	巾 170cm 丈 45cm



設置場所



- 教賀を代表する気比神宮の鳥居をデザインした
- 教賀の港は風が強いイメージがあるため、葉っぱが舞っている風景を描いた

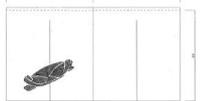


作品

4	暖簾設置場所	S邸	建物の種類	住宅
	暖簾製作者	教賀工業高等学校 1年生 3名	暖簾寸法	巾 170cm 丈 90cm



設置場所風景



- 設置者の名前が「佐竹さん」なので笹が連想され、舟溜り地区ということもあり、「笹舟」をデザインした
- 家の雰囲気合うように茶系の色を採用した



作品

-6-

5	暖簾設置場所	K邸	建物の種類	住宅
	暖簾製作者	教賀工業高等学校 1年生 3名	暖簾寸法	巾 170cm 丈 45cm



設置場所



- 設置者の名前が「木下さん」なので、木の下と言えは落ち葉を連想し、デザインした
- 落ち葉があたかも落ちてきているような感じが出るように工夫した
- 枯れ葉だけでなく、イチョウなどいろいろな種類を入れた

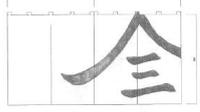


作品

6	暖簾設置場所	井垣商店	建物の種類	住宅・店舗
	暖簾製作者	教賀工業高等学校 1年生 3名	暖簾寸法	巾 170cm 丈 90cm



設置場所風景



- 屋号が「山三」なので、それを暖簾の右側に寄せて配置した
- 舟溜り地区のどんな波も乗り越える「舟」をイメージして、少し傾けた
- 風情にあった色を選び、余計なものを付けずシンプルにかつ文字をダイナミックに仕上げた



作品

-7-

7	暖簾設置場所	安田文栄堂	建物の種類	住宅・店舗	
	暖簾製作者	敦賀工業高等学校 1年生 3名	暖簾寸法	巾 170cm	丈 90cm
設置場所					
作品					
<p>○ 設置場所が文房具店のため、しっかりした物を扱っていると来客者に思ってもらえるように、「匠」という文字を使った</p> <p>○ 中央の渦巻は、敦賀の海の波をイメージした</p>					

8	暖簾設置場所	洋菓子工房ひらやま	建物の種類	店舗	
	暖簾製作者	敦賀工業高等学校 1年生 3名	暖簾寸法	巾 85cm	丈 90cm
設置場所風景					
作品					
<p>○ 洋菓子工房ひらやまさんの「かたつむり」という名のロールケーキをデザインに採用した</p> <p>○ ロールケーキの印象を強くするため、太陽などにも渦巻を採用した</p> <p>○ 「かたつむり」が長い坂道を一生懸命登り、ロールケーキのおいしさにたどり着くための苦勞を表現した</p>					

9	暖簾設置場所	敦賀市所有町家	建物の種類	空き家	
	暖簾製作者	敦賀工業高等学校 1年生 3名	暖簾寸法	巾 170cm	丈 150cm
設置場所					
作品					
<p>○ 暖簾を飾る時期に雛人形を飾るということ、博物館通りに飾られている吊るし雛より、桃の節句の「桃」の花をイメージしてデザインした</p>					

10	暖簾設置場所	敦賀市所有店舗	建物の種類	空き店舗	
	暖簾製作者	敦賀工業高等学校 1年生 3名	暖簾寸法	巾 170cm	丈 150cm
設置場所風景					
作品					
<p>○ 港町の海の力強さをイメージしたものを作成した</p> <p>○ 敦賀市のシンボルである灯台と、敦賀町の波を背景にシンプルなデザインにした</p> <p>○ この灯台が舟溜り地区を明るく照らし、明るく活気のある地区であってほしいという願いを込めた</p>					

11	暖簾設置場所	佛さなだミート	建物の種類	店舗	
	暖簾製作者	敦賀工業高等学校 1年生 3名	暖簾寸法	巾 170cm	丈 90cm
設置場所					
作品					
<p>○ 暖簾の設置場所がお肉屋さんなので、若狹牛のマークを大きく目立つようにデザインした</p> <p>○ 博物館通りを練り歩く山車の車輪をイメージしたものを若狹牛のマークの左に配置した</p> <p>○ 右上には「さなだミートさん」のマークを入れた</p>					

12	暖簾設置場所	旧だいしん	建物の種類	ギャラリー	
	暖簾製作者	敦賀工業高等学校 1年生 3名	暖簾寸法	巾 170cm	丈 90cm
設置場所風景					
作品					
<p>○ 船の舵輪とカメラを置いて、船の操舵室から見える景色を表現した</p> <p>○ 舵輪を左半分に4分の1だけ描き、右側に空間を設けることで、全体のバランスを取った</p>					

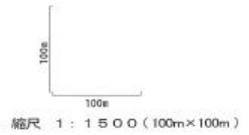
13	暖簾設置場所	榑増田清商会	建物の種類	店舗	
	暖簾製作者	敦賀工業高等学校 1年生 3名	暖簾寸法	巾 170cm	丈 90cm
設置場所					
作品					
<p>○ 設置場所の店の名前が「増田清商会さん」なので、MとKで表現した</p> <p>○ 山で「M」を、雷で「K」を表現した</p> <p>○ 電気屋さんのため、電気をイメージした雷を採用した</p>					

S	暖簾設置場所	敦賀酒造(南)	建物の種類	店舗	
	暖簾製作者	製作: 奥本 工原 風雅 石川 雅夫 デザイン: 榑井 景上 木部 建築住宅課	暖簾寸法	巾 180cm	丈 150cm
設置場所風景					
作品					
<p>○ 山車の車輪(真ん中の車輪が大きいのが特徴)をイメージした</p> <p>○ 金彩で車輪に動きを持たせた</p> <p>○ 日差しが強さで、金彩の発色に変化し、暖簾の表情が変わるようにした</p> <p>○ ツルガの文字をデザイン化し左下に配置した</p> <p>○ 建物の風情に合うように、ベンガラ・ビロ・アカネから採れる染料で染めた</p>					

※暖簾お披露目会で配布した資料は、別途、ホームページで公開しています。

江戸時代の越前国府を歩く

300年前の地図で今が歩けるまちです。
 今も残るお寺を目印にあなたも歩いてみてください。
 魅力ある路地裏や辻、白壁の蔵、
 いたるところから歴史が語りかけてきます。



寺社巡り お勧めコース①

戦国時代の武将とゆかりの深い寺が集まる本町界隈。
 たけふ菊人形東門⇒河濯山芳春寺⇒龍門寺⇒辻が辻
 ⇒まつの念持寺⇒陽願寺⇒武生公会堂記念館

寺社巡り お勧めコース②

たくさんのお寺が集まり、その門前町として発展した町並みが今も残る京町界隈。
 たけふ菊人形東門⇒龍泉寺⇒正覚寺⇒引接寺
 ⇒国分寺⇒総社⇒武生公会堂記念館

★…幕末の歌人、橘曙覧の母の実家 山本家 (天王屋)があった場所。(現越前市天王町)

歩くとこんなにカロリーを消費します

ぶらぶら	1分間に約2.7kcal	速歩	1分間に約4.2kcal
普通	1分間に約3.3kcal	息切って歩く	1分間に約7.9kcal

★300kcal消費するには
 ぶらぶらで110分、普通で90分、速歩で60分、息切ってだと38分
※消費カロリーは、体重60kgの人の場合で計算しています。 参考運動所要量・運動指針の策定委員会

この地図は、正徳元年府中図をもとに福井県立武生工業高校の生徒がCADで作図しました。

坂井市東十郷地区 住教（共）育

見つけよう！ 上新庄の残したい風景

平成25年7月27日（土）実施

企画 福井県土木建築住宅課
アルマス・バイオコスモス研究所
協力 坂井市建設部都市計画課
上新庄区

はじめに

福井県には、日々の生活の中で培われ、地域の中で受け継がれてきた住まい・まち並み・住まいなどの優れた住環境が多く残っています。とりわけ坂井市は、「住みよさランキング」で全国3位、「裕福な街ランキング」で全国4位など、全国トップクラスの水準にあります。ここ東十郷地区は、1,000余年を農村集落として稲作を中心に営んできている地域であり、美しい田園風景と先人の知恵が息づく農村集落・農家住宅は、地域住民だけでなく、東十郷地区を訪れる人にとってのふるさとならではの重要な財産であるため、次の世代に残していくことが大事です。しかし、こうした風景は地域に住んでいる方々にとってはあたりまえの景色であり、普段はあまり気に留めないものです。

そこで今回、上新庄区の子どもたちと一緒に集落内を探索し、次の世代に残したい風景や次の世代に向けて育んでいきたい風景を探し、その風景について話し合いました。その内容について取りまとめましたので、ご報告させていただきます。この報告書をきっかけに、上新庄の風景について家族や地域で話し合い、その風景を次世代に残すために必要なルールをつくるなど、今後の上新庄の地域・まちづくり活動の材料の一つとしてご活用いただければ幸いです。

ワークショップ講師

水上 聡子 工学博士 アルマス・バイオコスモス研究所 代表
(株) 地域計画連合福井ワーキングルーム 代表

津田塾大学国際関係学科にて、開発社会学（地域の内発的な発展のあり方）を学んだ後、東京の都市計画コンサルタント勤務を経て、故郷で独立。市民ひとりひとりが、まちづくりに携わろうという気持ちと行動力を育むことをめざして、ワークショップの企画運営、ファシリテーション講座等を行う。福井県坂井市在住。

専門分野：市民のシティズンシップ教育のためのワークショップ手法

ワークショップの参加者

A	グループ名	うさぎの耳						
メンバー	隊長	小5男子	撮影係	小2女子	保護者	女性	引率者	福井県土木建築住宅課
	記録係	小3男子	隊員	4歳女子			講師	アルマス・バイオコスモス研究所
B	グループ名	スーパーミラクルウルトラしらんドラえもんおじゃる丸最強チーム						
メンバー	隊長・撮影係	小5男子	記録係	小2男子	保護者	女性	引率者	福井県土木建築住宅課
	記録係	小4女子	記録係	5歳女子				
C	グループ名	上新庄お宝ハンター						
メンバー	隊長	小5女子	撮影係	小3女子	保護者	女性	引率者	福井県土木建築住宅課
	記録係	小4男子	隊員	小1女子			引率者	坂井市建設部都市計画課

- 1 -

ワークショップの内容と様子

1 アイスブレイク

参加者は3グループに分かれ、自己紹介とグループ名を決めました。また、グループでの役割も決めました。

2 昨年度の振り返り

平成24年度に実施したワークショップの様子を、DVDで振り返りました。

3 昔の上新庄の様子

昔の上新庄の写真をスライドショーで紹介し、残したい風景を探すうえでのヒントにしてみました。

4 作戦会議

グループごとに、むら歩きをするルートを決めました。

5 むら歩き(庭見学)

とある庭を見学している一場面。大きなタブの木に手作りブランコがあったので遊びつつ、このタブの木がどういった歴史があるかを学びました。

6 むら歩き(家見学)

とある家を見学している一場面。「田の字」プランの良さや昔の暮らし方について学びました。

- 2 -

7 昼食

子ども会役員の方が朝から仕込んでくれたカレーを美味しくいただき、午後からのワークショップに備えました。

8 グループワーク

むら歩きで撮影した写真を見て、残したい風景についてグループで話し合い、まとめました。

9 残したい風景の発表

グループで話し合って選んだ6～7つの風景について、「どう良かったか」「どうすると残せるか」を発表しました。

10 残したい風景の投票

良いと思った風景を1人につき3つ選び、投票しました。

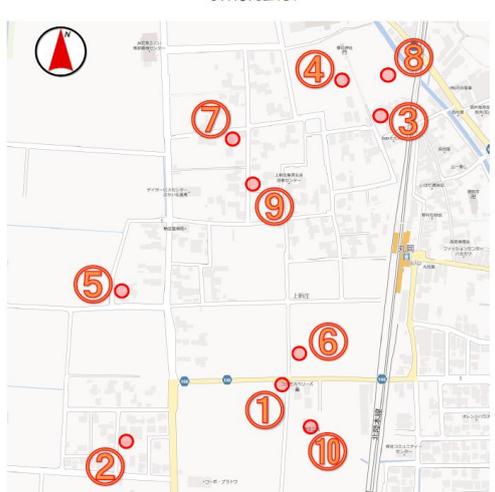
11 感想・講評

左 Cグループ（上新庄お宝ハンター）が選出した風景
右 Aグループ（うさぎの耳）が選出した風景

右 Bグループ（スーパーミラクルウルトラしらんドラえもんおじゃる丸最強チーム）が選出した風景

- 3 -

投票結果



投票結果一覧

順位	タイトル	位置	選定グループ	子ども票	大人票
第1位	上新庄の田んぼを守る人	①	B	10票	0票
第2位	木登りができる大きな木	②	A	6票	2票
第3位	西日を遮るすだれ	③	C	5票	1票
第4位	春日神社の鹿の銅像	④	C	3票	1票
第4位	タブの木	⑤	C	0票	4票
第4位	上新庄の田んぼ	⑥	A, B	0票	4票
第7位	鬼の顔をした魔除け	⑦	B	2票	1票
第7位	田の字づくりの部屋	—	B	0票	3票
第7位	太陽光発電	②	B, C	0票	3票
第10位	春日神社の懸っば	⑧	C	2票	0票
第10位	稲の花	⑨	A	1票	1票
第10位	しめ縄をしたご神木	⑦	A	0票	2票
第13位	昔風の藁	⑩	A	1票	0票
第13位	緑のカーテン	⑦	B	0票	1票
第13位	落雷に配慮した屋根	⑩	C	0票	1票

- 4 -

第1位	上新庄の田んぼを守る人	位置	①
		選定グループ	B
合計票数	子ども票	大人票	
10票	10票	0票	
なぜ良いのか			
お米を作ってくれてありがたいから。			
どうすれば残せるか			
これからも坂井平野の田園を守って欲しい。			

第2位	木登りができる大きな木	位置	②
		選定グループ	A
合計票数	子ども票	大人票	
8票	6票	2票	
なぜ良いのか			
ツリーハウスが作れそうだから。			
どうすれば残せるか			
切らないで大事にとっておく。			

第3位	西日を遮るすだれ	位置	③
		選定グループ	C
合計票数	子ども票	大人票	
6票	5票	1票	
なぜ良いのか			
夕方太陽を遮って、部屋の中が涼しくなって快適だから。			
どうすれば残せるか			
すだれの良さをみんなに教え、設置してもらおうように呼びかける。			

- 5 -

第4位	春日神社の鹿の銅像	位置	④
		選定グループ	C
合計票数	子ども票	大人票	
4票	3票	1票	
なぜ良いのか			
水が無いと田んぼはできないので、能が川（十郷用水）を作ってくれてありがたいから。			
どうすれば残せるか			
友達や親戚に十郷用水の伝説を話す。			

第4位	タブの木	位置	⑤
		選定グループ	C
合計票数	子ども票	大人票	
4票	0票	4票	
なぜ良いのか			
福井地震があった時に、家が倒れるのを防いでくれてありがたいから。また、タブの木の木陰は涼しいから。			
どうすれば残せるか			
みんなで協力して、落し葉を拾ったりお手入れをする。			

第4位	上新庄の田んぼ	位置	⑥
		選定グループ	A, B
合計票数	子ども票	大人票	
4票	0票	4票	
なぜ良いのか			
田んぼが昔からそのまま残されている上新庄らしい風景だから。			
どうすれば残せるか			
田んぼを埋め立てて家や建物を建てないようにする。			

- 6 -

第7位	鬼の顔をした魔除け	位置	⑦
		選定グループ	B
合計票数	子ども票	大人票	
3票	2票	1票	
なぜ良いのか			
怖い顔なので不審者やどろぼうを追い払いそうで見立つかから。また鬼もがハンに似ていて面白いから。			
どうすれば残せるか			
みんなの家に1つずつ置いてもらえるといい。			

第7位	田の字づくりの部屋	位置	—
		選定グループ	B
合計票数	子ども票	大人票	
3票	0票	3票	
なぜ良いのか			
戸を外せば一つの部屋になるので、たくさんの方が集まって葬式や会議ができるから。			
どうすれば残せるか			
いろいろな行事に活用することで、良さを知ってもらおう。			

第7位	太陽光発電	位置	②
		選定グループ	B, C
合計票数	子ども票	大人票	
3票	0票	3票	
なぜ良いのか			
太陽の光を利用して電気を作っていて、地球を大切にしているから。			
どうすれば残せるか			
ずっと使うと買った時の費用よりも貯蓄した電気代が上回るなど、太陽光発電の良さを設置している人がみんなに伝える。			

- 7 -

第10位 春日神社の原っぱ 位置 ⑧



選定グループ C		
合計票数	子ども票	大人票
2票	2票	0票
なぜ良いのか		
昔はうさぎがいたから。		
どうすれば残せるか		
遊具があると、みんなが遊べるから残していきたいと思う。		

第10位 稲の花 位置 ⑥



選定グループ A		
合計票数	子ども票	大人票
2票	1票	1票
なぜ良いのか		
小さい花でとてもきれいだから。		
どうすれば残せるか		
田んぼを手伝うことができるときは手伝う。		

第10位 しめ縄をしたご神木 位置 ⑦



選定グループ A		
合計票数	子ども票	大人票
2票	0票	2票
なぜ良いのか		
ご神木にしめ縄があるので、神様が宿っている感じがするし、いつも見守られている感じがするから。		
どうすれば残せるか		
木を切らないなど、大切に育てていく。		

第13位 昔風の壺 位置 ⑨



選定グループ A		
合計票数	子ども票	大人票
1票	1票	0票
なぜ良いのか		
不思議がいっぱいで、調べたら面白そうだから。		
どうすれば残せるか		
大切に保存する。		

第13位 緑のカーテン 位置 ⑦



選定グループ B		
合計票数	子ども票	大人票
1票	0票	1票
なぜ良いのか		
夏になるとゴーヤが成長して、自然のカーテンとなって太陽の光を遮ってくれ、家を涼しくしてくれるから。		
どうすれば残せるか		
緑のカーテンをしている人が村の人に良さを教えてあげる。		

第13位 落雪に配慮した屋根 位置 ⑩



選定グループ C		
合計票数	子ども票	大人票
1票	0票	1票
なぜ良いのか		
雪が落ちるようになっていて便利だから。		
どうすれば残せるか		
普通の家でも雪を溶かしたり落とすようにするといいい。		

まだまだ他にもある、残したい風景

残したい風景には残念ながら投票されませんでした。風景として残していくといいのではというものを一部紹介いたします。

庭でのブランコ遊び



庭の木に手作りブランコを取り付ければ、子どもたちが遊べる空間に。子どもたちには遊びの中で自然に触れてほしいですね。

井戸



昔は水道がなく井戸水を使って生活していました。現代は蛇口をひねれば水が出てきますのでありがたみは感じにくけれど、災害時の断水の時は活躍しそうです。

縁側



縁側は、家の内と外をつなぐ場所であると同時に、家族と地域住民との交流の場でもあります。

家庭菜園



昔は、畑のトマトをおやつ代わりに食べるというのが当たり前でした。もぎたてのトマトのおいしさは格別です。また、畑にできる野菜で季節を感じたものです。

生垣



道沿いには生垣が綺麗に植えられています。この道を通る人は穏やかな気持ちになれることでしょう。

屋敷林



屋敷林は風から家を守るためのものですが、夏場は太陽の日差しを遮ってくれます。屋敷林の外では34度でしたが、中では28度。6度の温度差は大変です。

キノコを育てている原木



木の幹を切って作っているので、野生のキノコみたいな味なのかも？

百日草にとまる蝶



蝶の色と花の色がきれい、見ているだけで優しい気持ちになります。

平成25年度実施 アンケート結果

Q1. ちら歩きをして、上新庄の集落景観についてどんな印象を持ちましたか？
(全員に質問、選択式)

選択肢	子ども	大人
大変良い	6	3
まあまあ良い	0	1
普通	1	0
あまり良くない	0	0
良くない	0	0



Q2. 上新庄の集落景観は好きですか？
(全員に質問、選択式)

選択肢	子ども	大人
好き	4	2
まあまあ好き	1	2
普通	2	0
あまり好きではない	0	0
好きではない	0	0



Q3. 上新庄の集落景観についてQ1、Q2のように思うのはなぜですか？
(全員に質問、記述式)

- ・ 福井の歴史や面輪が色々混ざり合い、人工的自然と天然の自然があるところが良いと思うから。(大人)
- ・ 昔ながらの集落景観や田園風景が残っているから。(大人)
- ・ 庭に自然がいっぱいで、空気がおいしく感じるから。(大人)
- ・ 住み慣れた町だから。(大人)
- ・ 田んぼがある上新庄らしい風景が美しいから。(子ども)
- ・ それぞれのおうちに緑がいっぱいできれいだから。(子ども)
- ・ 昔のおうちや大きな木など、上新庄にしかないものだから。(子ども)
- ・ いろんな風景があってきれいだから。(子ども)

Q4. 上新庄の良い風景を残したり育んだりするためには、何が大事だと思いますか？
(大人に質問、記述式)

- ・ 残そうと思う人、住み続ける人の育成。
- ・ 子どもへ上新庄の良さを伝えていくこと。
- ・ 変化は必要だし、このままずっとというわけにはいかないが、30年後にも「こんなふうだったんだね」と思い出せるように、記憶に残したい。
- ・ 住民が良い風景を「残したい」という意識を持つこと。

Q5. 上新庄の美しい景観・地域づくりのため、あなたがしてみたいことは何ですか？
 (大人に質問、記述式)

- 子どもたちに先人の知恵を伝えていくこと。
- まずは子どもたちと一緒にどんなことができるか、どんなことをしてみたいか考えた。

Q6. 良い風景を残すため、あなたは何かができますか？
 (子どもに質問、複数選択式)

Q7. 今日発見したこと、ためになったことなどを書いてください。
 (子どもに質問、記述式)

- 今日、気持ちの良い庭や畑の風景を見られてよかった。
- お花や木を大切にすることを知った。
- 稲の花など初めて見るものがたくさんあった。

Q8. 本日のご感想やご意見等についてご記入ください。
 (大人に質問、記述式)

- 子ども会以外のにも本当は参加していたで、子どもと地域について考えて、残していこうと思えるのもよかったので、もっと地域の方に積極的に声が掛けられると良かった。
- いろいろな上新庄の良さを知れてよかった。
- 昨年、今年と参加して、今まで知らなかった上新庄の良いところが発見できた。
- 福井県の事業は2箇年だと聞いた。とても良い取り組みなので、来年以降は自分たちで継続して行っていきたいと思います。

平成24年度実施 アンケート結果

Q1. ワークショップに参加して、何が楽しかったですか？
 (子どもに質問、記述式)

- 普段入れない家へ入って、木に登ったりその家の独特なものを見つけたり触ったりしたこと。
- 上新庄の中をいろいろ探検することが楽しかった。

Q2. ワークショップに参加して、何が勉強になりましたか？
 (子どもに質問、記述式)

- 神木の名前が「タブの木」だということ。
- タブの木の皮が染料になること。
- 上新庄にはとても大切なものや自然がたくさんあったこと。
- 大きいおうちがいっぱいあったこと。

Q3. ワークショップに参加して、何が参考になりましたか？
 (大人に質問、記述式)

- 庭に木があるととても過ごしやすい。
- 人と自然はとも必要な関係だと思った。
- ほんの近所を探検しただけだが、見えていなかったものに色々気付けた。
- 昔ながらの家にある歴史を感じた。
- 瓦の様子も興味深いものがあった。
- 地域や土地柄にあった生活スタイルに合わせることが大事。
- 今はアパートに住んでいるが、庭の大切さが参考になった。
- 木々の影はとても涼しく、エコに繋がると言われていることが実感できた。
- 昔の日本の建物の工夫が分かり、わが家を説明することができそう。

Q4. 子どもたちの活動を見て、どう感じましたか？
 (大人に質問、記述式)

- あちこちと周りを見ながら町内をじっくり観察することは良いこと。
- 入ったことのないお宅の庭や中を見せてもらって、とても楽しそうだった。
- 自分たちの住んでいる上新庄について自分たちでうまく新聞を作って感心した。
- 思ったよりワーキングを楽しんでくれたことが報として嬉しかった。
- 自然が多いところだけ自分たちの家で立派な木などに触れる機会がないので、楽しそうだった。
- 木登りをしたり花や虫などを見つけたりと、とても楽しそうだった。

Q5. ワークショップに参加して、上新庄のことが以前より好きになりましたか？
 (全員に質問、選択式)

選択肢	子ども	大人
好きになった	7	4
変わらない	1	1

Q6. ワークショップに参加してのご感想やご意見をお聞かせください。
 (全員に質問、記述式)

- 他にも上新庄で珍しい家や物を見つけた。 (子ども)
- 子どもたちの好奇心を沸立て、行動させてくれる進め方に感心した。 (大人)
- 知っている景色や景色をもう一度意識して実際に歩いてみることで、こんなにも得るものがあるのかとびっくりした。 (大人)
- 村の人たちに声をかけ、コミュニケーションを取れたことが良い思い出になることだろう。 (大人)
- 村の人と話したり、歩きなれた道を風やにおいを気にしながら改めて歩いてみて、たぐさんの“みつけもの”をしていたこと自体がうれしい光景だった。 (大人)
- 子どもが知らないことを、子どもに伝えていきたいと思った。 (大人)
- 年に1回、こんなウォーキングも良いなと思った。 (大人)
- こういう住教育の取組みがあることを、もっと広くの人に知ってもらいたい。 (大人)
- 身近に参加できた今回はありがたかったし、また参加したい。 (大人)
- エコという言葉がよく聞けど、今回訪問した2軒のお宅は家全体でエコだと感じることができた。とても涼しかったし、心が穏やかになれそうな気がした。 (大人)
- とても長い時間をかけて取り組んで考えなくてはいいことだけど、少しずつみんなが「住教育」について学ぶと、将来の日本の住まいはとてもいい家になっていくのではないと思う。 (大人)

平成24年度に作成した「上新庄魅力発見マップ」

福井県土木部建築住宅課

住所 千910-8580
 福井市大手3丁目17番1号

TEL 0776-20-0505
 FAX 0776-20-0693
 E-mail kenju@pref.fukui.lg.jp

※残したい風景を取りまとめた資料は、別途、ホームページで公開しています。

住教育ワークショップ 歴史的まち並みを演出する一輪挿しづくり



本日は皆様に、わらで壁掛けを編んで、その壁掛けに竹筒を取りつけて一輪挿しをつくっていただきます。完成した手作り一輪挿しを玄関など通りから見える場所に設置することで、うるおいとやすらぎを提供し、遠敷地区を訪れる人に心からほっとしてもらえるようもてなしましょう。

わらとは

お米を収穫した後の稲を乾燥させたものです。わらは昔の生活にいろいろな形で役立っていました。古くなったわらは、燃やして灰にした後に肥料や洗剤として利用されたり、そのまま農作物の堆肥となったりしました。何一つ無駄にしない、昔の人の知恵です。

いろいろなわら製品

米俵	みの	そうり	しめ縄

建物に使用されるわら

茅葺き屋根（萬徳寺）	土壁（ひらい酒店）	畳
茅とはススキやわらなどを乾燥したものの総称。断熱性や通気性の面で優れ、手に入れやすい材料だったため、昔の農家住宅の多くは茅葺き屋根だった。	竹などで格子状の枠を作り、わらを混ぜた土を塗った壁。調湿性や耐火性、防音性に優れている自然素材のため、近年は人気が高まっている。	畳床（畳の芯材）をわらで作り、表面をい草で編み込んだ床材。フローリングと比べると踏み心地が良い。

講師：さばえ米俵研究会 福岡 賢二

主催：福井県

協力：検見坂・池田ふれあいサロン、遠敷の郷ふれあいサロン、遠敷丹後街道まちなみ保存推進会
遠敷公民館、（一社）福井県建築士会若狭支部、小浜市

すだれに打ち水でエコライフを

すだれは、暑い夏を涼しく過ごすために先人が生み出した省エネ素材です。さらに、打ち水をする事で、室内に入ってくる風は2~3℃下がるそうです。
ここでは、より効果を高めるためのポイントを紹介します。

●すだれを取り付ける際のポイント

すだれは、窓の外側に設置する方が効果的です。（参考データ1）

すだれは、南面よりも東面や西面に設置する方が効果的です。（参考データ2）

●打ち水をする際のポイント

日なたに打ち水をしてはすぐ蒸発して蒸れます。日陰か早朝・夕方にしましょう。

すだれに直接打ち水をする際には、霧吹きで行いましょう。

（参考データ1）ガラスと遮蔽物による日射侵入率について

ガラスの種類	なし	レースカーテン	内付けブラインド*	障子	外付けブラインド*
普通単板ガラス	1.11	0.71 44%カット	0.58	0.48	0.24
普通複層ガラス	1.00	0.66	0.56	0.47	0.22
Low-Eガラス（断熱）	0.78	0.59	0.53 78%カット	0.47	0.19
Low-Eガラス（遮熱）	0.54	0.42	0.38	0.33	0.14

※複層ガラスの空気層は6mm

※複層ガラスで遮蔽物なしの日射侵入率を「1.0」とした

（参考データ2）ガラス面の方位別夏季日射取得率

方位	時刻			
	9時	12時	14時	16時
トップライト	654	843	722	419
北	42	43	42	38
北東	245	43	42	36
東	491	43	42	36
南東	409	93	42	36
南	77	180	108	36
南西	42	147	377	402
西	42	50	400	609
北西	42	43	152	440

今回のワークショップ以外の情報もホームページで紹介していますので、ぜひ参考にしてください。

<http://info.pref.fukui.lg.jp/kentiku/jyukyokuiku/>

福井県の住教育活動

検索



福井県土木部建築住宅課

住まいの絵本

いいおうちってどんなおうち？



このえほんは、
いいすまいをかんがえるえほんです。

ゆめをふくらませて、
じぶんにとってすてきなおうちを
イメージしてみましょう。

おともだちやおうちのかたと
はなしあうのもいいですね！

『いいおうちってどんなおうち？』

「いごちがいいおうち」

『いごちがいいおうちって
どんなおうち？』



「きもちがよくて、
そこにいと
じかんをわすれるおうち」

『いごちがいい
おうちにするには
どうしたらいいのかな～』



『いいおうちってどんなおうち？』

「じょうぶなおうち」

『じょうぶなおうちって
どんなおうち？』



「たいふうやじしんがきても
だいじょうぶなおうち」

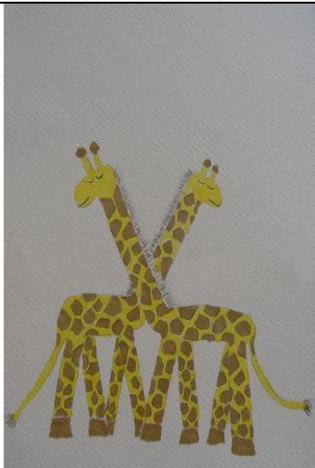
『じょうぶなおうちにするには
どうしたらいいかなあ～』



『いいおうちってどんなおうち？』

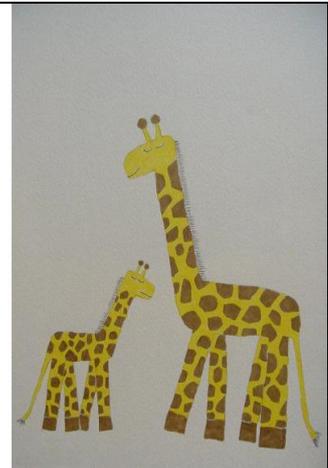
「やさしいおうち」

『やさしいおうちって
どんなおうち？』



「こどもやおとしりが
げんきでくらせる
あんしんなおうち」

『やさしいおうちにするには
どうしたらいいかなあ～』



住まいの絵本

『いいおうちってどんなおうち？』

「えになるおうち」

『えになるおうちって
どんなおうち？』



「まわりのけしきにとけこんだ
すてきなおうち」

『えになるおうちにするには
どうしたらいいかな～』



『いいおうちってどんなおうち？』

「げんきがでるおうち」

『げんきがでるおうちって
どんなおうち？』



「やるきがでて、あたらしい
きもちになれるおうち」

『げんきがでるおうちにするには
どうしたらいいかな～』



『いいおうちってどんなおうち？』

「みんながあつまってくるおうち」

『みんながあつまってくる
おうちってどんなおうち？』



「いつもわらいごえがきこえる
たのしいおうち」

『みんながあつまってくる
おうちにするには
どうしたらいいかな～』



『いいおうちってどんなおうち？』

「みんなにあいされるおうち」

『みんなにあいされるおうちって
どんなおうちかな～？。。。』



体験講座「伝統建築文化に触れよう」 テキスト



1 千年の釘

白鷹さんの和釘

千年も長持ちするひみつはなんだろう？

- 1 -

2 薬師寺三重塔と東京スカイツリー
どこか似ている？

薬師寺三重塔

- 2 -



3 木組みのお話

上面
側面
下面

どんな形かわかるかな？

- 4 -

他にもいろんな結び方があるんだよ。
うまく、外したり 組んだりできるかな？

- 5 -

4 大工道具のお話

昔の大工さんの様子だよ

- 6 -

昔日権田秋太郎 (かすがこんげんけんさく)

何をしているんだろう？

- 7 -

どうやって使う道具だろう？

鉋 (きょう)
植鉋 (うゑがね)
鑿 (くわ)

- 8 -

墨巻 (すみまき)
鉋 (のこぎり)
玄鉋 (げんのぎ)

- 9 -

講師の紹介

大工棟梁 井井 光男 (いのい みつお)

住文化専門員 国原 勇巳 (くにきょう かつみ)

大工 榎 重雄 (えだ のりお)
足跡 敷田 (ふしだ ありひと)
西川 興也 (にしがわ こうい)

- 10 -

注意事項

大工道具は刃が鋭いので取り扱いにはご注意ください。

大工道具は刃が鋭いので取り扱いにはご注意ください。

大工道具は刃が鋭いので取り扱いにはご注意ください。

- 11 -



※体験講座テキストは、別途、ホームページで公開しています。

住教育シンポジウム

「みんなで考えよう！ふくいの住まい方」
～次世代につなぐ ふくいの住まい、まち並み、住まい方～



日時：平成24年10月27日（土）
10：30～12：40

会場：福井県産業会館 本館2階

主催：福井県

プログラム

10：30
基調講演
演題「地域資源を活かした住まい・まちづくり学習」
碓田 智子（大阪教育大学 教授）

11：10
休憩

11：20
パネルディスカッション
コーディネーター
五十嵐 啓（福井工業大学 准教授）
コメンテーター
碓田 智子（大阪教育大学 教授）

パネリスト

- ・越前市タンス町界隈
小川 利男（社団法人福井県建築士会南越支部）
- ・南越前町今庄宿
朝倉 英俊（NPO 法人今庄旅館塾 事務局長）
- ・勝山市片瀬地区
石畝 正樹（社団法人福井県建築士会勝山支部）
- ・鯖江市吉江地区
高島 信義（立待公民館 前館長／たちまち子ども文楽 団長）

（敬称略）

基 調 講 演

「地域資源を活かした住まい・まちづくり学習」
碓田 智子 大阪教育大学 教育学部 教養学科 教授 博士（学術）
大阪市立大学大学院博士後期課程修了。福井大学教育地域科学部に1995年4月から2002年9月まで勤め、2002年10月に大阪教育大学教育学部へ、専門分野は、住居学、住宅計画、住環境教育、住宅施策など。大阪市立住まいのミュージアムと共働して住教育実践を行うほか、兵庫県神戸市などの住教育にも関わっている。（一財）住宅総合研究財団研究助成選奨などを受賞。

パネルディスカッション

●コーディネーター
五十嵐 啓 福井工業大学 建築生活環境学科 准教授
京都大学工学部建築学科卒業。ゼネコンの設計部で数多くの建築物の設計に携わる。専門分野は、都市計画、建築計画、建築史、意匠など。福井県建築士会設計コンペ優秀賞などを受賞。

●コメンテーター
碓田 智子 大阪教育大学 教育学部 教養学科 教授 博士（学術）
（前掲）

●パネリスト

小川 利男 社団法人福井県建築士会南越支部 / 越前市タンス町界隈
郷土の歴史や文化を継承するため、建築士会南越支部はもとより武生ルネサンス、政生立契会に参画し、幅広いまちづくり活動をしている。

朝倉 英俊 NPO 法人今庄旅館塾事務局長 / 南越前町今庄宿
今庄の町並みや文化の保全継承を進めるなど、今庄地区の活性化のため住民主体の自立したまちづくりを目指し活動をしている。

石畝 正樹 社団法人福井県建築士会勝山支部 / 勝山市片瀬地区
勝山青年会議所理事長や勝山市エコミュージアム協議会長などを歴任し、地域に根差したまちづくり活動をしている。

高島 信義 立待公民館前館長、たちまち子ども文楽団長
／ 鯖江市吉江地区
平成24年3月まで立待公民館長を務め、6月に「たちまち子ども文楽」を発足するなど、地元のみまちづくり活動をしている。

（敬称略）



福井県土木部建築住宅課

〒910-8580 福井市大杉3丁目17番1号
TEL 0776-20-0505
FAX 0776-20-0693
E-mail kenjuu@pref.fukui.lg.jp

■福井県の住教育活動 報告書

平成27年3月

[編集・発行] 福井県土木部建築住宅課
〒918-8580 福井県福井市大手3丁目17-1
TEL 0776-20-0505 (ダイヤルイン)

